

上ノ中檢事迄ノ分ハ固ヨリ同一事實ヲ縱横上下ヨリ檢出セント試ミラレタルモノナルモ其ノ表現區々ニシテ一致セサルノミナラス其ノ歸著セントスル要點モ全然トハ一致セス或ハ互ニ正反對ナルモノスラ存在ス故ニ幾回讀ミ返スモ眞實ノ要領ヲ把握シ難キカ要スルニ被告ノ演說セシト云フ要旨ヲ左ノ如ク區別シテ觀察スルヲ便宜トス第一、北山ト中里トヲ通シテ被告カ(1)片岡カ衆議院議員ニ當選スレハ自分カ次點ヨリセリ上リテ縣會議員トナル(2)サスレハ朝明郡ヨリ衆議院議員ト縣會議員トヲ出ス是地方ノ名譽テアルノミナラス地方カ力強イ譯テアル故ニ諸君ノ一票ハ一石二鳥ニ價ストノ旨趣ヲ述ヘタル點ハ衆口ノ一致スル所ニシテ事實存在シタルニ相違ナシト辯護人モ信ス第二、北山ト中里トヲ通シテ一般ニ地方的議員ノ仕事ハ多イ有力ナル人ハ地方ニ必要テアルトノ旨趣ヲ述ヘタル點ハ必スシモ衆口一致セサルモ被告ノ強ヒテ爭ハサル所ニシテ其ノ表示ハアリタルナルヘシト信ス然レトモ以上ノ事柄丈ナレハ決シテ問題ニアラス法規ニ觸レスト信ス蓋法ノ禁スル所ハ特殊ニシテ且直接ナル利益ヲ以テ誘導的ニ述ヘタルヲ要ス從テ其ノ利益ハ具體的ナルヲ要ス是法ノ明文ニ於テ用水小作債權寄附ト最モ特殊ニシテ具體的ナルモノヲ舉ケタル精神ニ照シテ知ルヘケレハナリ次ニ第三、北山ニ關シテハ八風道路其ノ他ノ道路問題ニ關シ將來有利ニ解決スルコトニ盡力スルトノ旨趣アリシヤ否ヤ中里ニ關シテハ下野村ノ學校講堂ノ建設問題道路問題ニ盡力スル又地方ノ負擔輕減ヲ圖ルトノ旨趣ナリシヤ否ヤ此ノ點ノ存否如何カ本件重要ノ問題ナリトス因テ進ンテ證據ヲ檢討セン但先ツ檢事マテノ分ヲ論シ了

ツテ次ニ公判ノ夫ニ言及スヘシ先ツ傍聽者ノ陳述ニ關シテハ千種萬様ナルモノヲ大別スレハ左ノ三種トナル其ノ一、明カニ被告カ前掲具體的特殊利益ノ事實ヲ陳述シタルヲ聽キタリト云フモノ其ノ二、直接ニ陳述シタルニアラサルモ種々ノ言語ヨリ自己ハ其ノ様ノ旨趣ナルヘシト推測シタリト云フモノ其ノ三、被告ノ演說中以上ノ如キ具體的事實ヲ聽カスト云フモノ今一々之ヲ摘示スルハ餘リ繁雜ニ互ルヲ以テ其ノ主タルモノヲ例示的ニ摘示スレハ北山ニ關シテハ其ノ一ノ種類ニ屬スルモノトシテハ下田恒太郎 藤井昇ナリ此ノ二人カ被告ニ不利益ノ陳述記載アルニ相違ナキモ未タ有罪ノ確證トスルニ足ラス蓋(1)下ニ記述セントスル如ク同一傍聽者中反對ニ聽取リタルモノ多數アルコト(2)凡テ警察檢事ノ聽取書ノ容易ニ信セラレサルコトハ冒頭二、三、四ニ掲ケタル所ヨリモ推知セラルルコト(3)此ノ二人ノ者ハ被告ニ反感ヲ懷キタリト見ラルルハ其ノ陳述自體ヨリモ推知セラルル所ナレハナリ其ノ二ノ種類ニ屬スヘキハ相川新之助 近藤三記一 増田憲二茲ニ注意スヘキハ増田憲二ハ臨監ノ巡查ノ一人ナルカ夫スラ被告ノ演說要旨ハ特殊利益ノ具體的事實ヲ直接表意シタリトハ云ハス單ニ暗示セリト云フニ止マルコト是ナリ其ノ三ノ種類ニ屬スルモノハ廣田大次郎 下田衛一 野呂榮次郎即此ノ三人ノ陳述ハ前記下田恒太郎 藤井昇ノ陳述ニ反對ニシテ大ニ被告ノ利益ニ歸スヘキモノトス次ニ中里ニ關シテハ其ノ一ノ種類即被告カ講堂建設道路改良ナト特殊利益ヲ言明シタルヲ聽キタリト云フモノ一モ之ナシ唯巡查タル樋口穰カ被告ノ言中「下野村保々村ハ貧弱村故負擔ヲ輕クシテヨクシタイト思フ」

トノ言葉アリシト云フノミ然レトモ其ノ負擔ヲ輕クストハ前後ニナキ突發ノ言ニテ信スルニ足ラス尙  
 同人陳述中「私ハ演説ヲ聞イテ居ル中ニ利益誘導ニナルカモ知レント云フ疑ハ起リマシタカ其ノ中ニ  
 演説カ濟ンタノテ何レ後テ筆記ノ方カラ署長ニ報告スルタラウト思ヒ居リシ云々」トアルニ因ルモ思  
 半ニ過クヘシ其ノ二ノ種類ニ屬スルモノトシテハ野呂賀一郎(警察聽取書)谷口利三郎市川道太郎  
 藤谷龍雄日沖平三郎ナリ是トモ固ヨリ講堂ヲ建テルト云フ意ナルヘシト推測シタリト云フニ過キ  
 ス且其ノ聽取リタリト云フ歸著點ハ被告カ縣會議員トナレハ貧弱町村ヲヨクスルト云フ漠タル旨趣ニ  
 過キス斯ル抽象的ノ言ハ假ニアリタリトスルモ未タ以テ本規定ニ觸レスト信ス其ノ理由ハ前述ノ通り  
 ナリ尙茲ニ注意スヘキハ負擔ヲ輕減スルトノ言ハ中里ニ會シタルモノ之ヲ聞キタリト云フ者一人モナ  
 シ唯巡查タル樋口穰カ檢事ニ對シ突出的ニ云ヒ出シタルノミ同人ハ臨監ノ責任上幾分邪氣アリト見ル  
 ヘキモノニテ信スルニ足ラス尙講堂云々假ニ其ノ言アリシトスルモ貧弱町村ノ例示ニ引用シタルニ過  
 キサルコト傍聽者タル各人ノ陳述中ノ口氣ニテ知り得ル又其ノ聽取書中貧弱云々「之ヲヨクスル」ト  
 アルハ講堂ヲ指シテ之ト云フタルニアラス貧弱町村ヲ指スモノナルコト其ノ各所ニ散見スル措辭口吻  
 ニテ推知セラル其ノ例示ニ過キサルコトハ巡查樋口穰スラ檢事ニ對シテ申立テル通りナリ序ニ茲ニ御  
 注意ヲ仰キタキコトアリ被告ノ辯解ハ中里ノ演説ノ前日恰モ被告ノ自村ナル保々村ニ於テ講堂ナキ爲  
 演説ノ場所ニ困リシヨリ貧弱ノ例トシテ保々村ニ講堂ナキコトヲ引キタル迄ニテ下野村學校講堂ノコ

トハ夢一言シタルコトナシ又一言スル筈ナシ何トナレハ下野村ニハ講堂現存スレハナリト云フニ在リ  
 而シテ下野村ニ講堂ノアルコトハ第一審公判以來證人ニ因リ明ニセラレタル所ナリ夫ニモ拘ラス警察  
 及檢事ノ聽取書ニテハ被告カ下野村ノ講堂ヲ云爲シタリ(縱令引例トシテモ)トノ陳述記載アルモノ  
 アリ殊ニ奇怪ナルハ被告自身ノ警察聽取書ニスラ下野村ノ講堂ヲ云々シタル記載アリ如何ニ何ンテモ  
 被告カ下野村ノ講堂建設ヲ云フ筈ナキコト前々ノ説明ニテ明ナルヘシ以テ凡ソ聽取書ナル文書ノ信憑  
 如何ヲ知ルニ足ルコト是ナリ其ノ三ノ種類ニ屬スルモノハ岩田祐一市川市一野呂賀一郎(檢事聽取  
 書)岩田豊太郎野呂榮治郎是ナリ是皆被告ノ利益ニ歸スルモノニシテ岩田祐一ノ如キ其ノ最ナルモ  
 ノナルコト陳述記載自體ニテ明白ナリトス以上北山中里兩者ニ關スル分ヲ區分シ被告演説聽取書ノ  
 陳述内容ノ主要部分ヲ檢討シタルカ其ノ中ニハ勿論被告ニ不利ノ分モアルカ有利ノ分モヨリ以上アリ  
 結局紛々擾々トシテ一致セス其ノ一致ヲ缺ク紛々擾々亦以テ之ニ因リ決シテ第一、二審判決ノ示ス如  
 キ明白ナルモノトシテ被告不利ノ事實ヲ確定スルノ頗ル無理ナルヲ知ルニ足ル之ト同時ニ異論ナク殘  
 ル所ハ前掲第一、第二ノ事實ヲ確認シ得ラルルニ過キスト信ス次ニ臨監警官ノ現場筆記ヲ包含セル搜  
 査報告書ナルモノヲ一瞥センニ此ノ報告書トシテハ北山ニ關スル分ニ通中里ノ分一通アリ北山ノ分ノ  
 最初ノモノハ簡粗ナカラ修飾ヲ加ヘサル點ニ於テ比較的の信憑力多シ而シテ其ノ分ニハ八風道路云々ノ  
 一言アルモ夫ハ前後ノ文勢上過去ノ事實ヲ例示シタリト解釋シ得ヘク即被告主張ノ如ク過去ニ於テ下

田享三ナル有力者カ八風道路ニカヲ盡シタルヲ地方ニ有力者ヲ要スル旨趣ノ引例トナシタルニ過キスト解スルヲ穩當トス捜査報告書(北山關係)第二ノ分ハ後日修正ヲ加ヘタルモノニテ前者ニ比シ潤色ニ過キ聊カ被告ノ不利ニ過キタルモ尙決シテ第一、二審判決ノ如ク明白ニ八風道路ニ盡カスルト云フ程度ノモノニアラス中里ノ分ニ付テハ講堂云々ハ貧弱ノ例示ト見ルヘキモノト解セラレ負擔ヲ輕クス云々ハ突出ノ言ニテ他ニ傍證ナシ之ヲヨクストハ貧弱町村ノ狀態ヲヨクスルトノ意味ニテ未タ特殊具體的利益ニ及ハサルコトヲ見得ヘシ要スルニ捜査報告書ハ寧ロ被告利益ニ援用シ得ルモ不利益トハナラスト信ス次ニ被告自身ノ陳述聽取書ニ移リ吟味センニ被告カ警察檢事第一審第二審ト次々ニ申立タル分量ハ相當多キモ斷片的ニシテ文意接續詳悉セサル憾アリ而シテ一句一節斷片的ニ外形ノミ捉ラヘナハ頗ル不利益ト見ラレ得ヘキ點ナキニアラサルモヨク其ノ前後ヲ通シテ全體ノ主旨ヲ釋スレハ結局前段掲出ノ第一、第二ノ要旨ニ過キス決シテ其ノ第三ノ旨趣ニハ進入セスト信ス而シテ右ノ要旨ヲ述フルニ際シ或ハ八風トカ道路トカ講堂トカノ言葉カ散見シタリトスルモ夫ハ單ニ言葉ノ綾ニ過キスト解スルコソ相當ナラント信ス尙茲ニ被告ノ陳述如何ヲ觀察スルニ付特ニ御注意ヲ乞ヒタキハ被告ノ心中ニ存スル平生ノ意見即法律的ニ云フ心裡留保ノ意思ト其ノ外部ニ表示シタル意思トノ區別アルコト是ナリ被告モ平生ノ意見トシテハ可成自己町村ノ利益タル道路學校等ノ便益ヲ圖リ度ク思ヒシナルヘシ然レトモ之ヲ公然外部ニ發表スレハ忽チ法ニ觸ルルヲ以テ其ノ點ハ何處迄モ用心セサルヘカラス亦

事實十分用心シタルナリ從テ公然ノ演說ニハ差支アル特殊具體的利益誘導ハ斷シテ爲ササリシナリ左レトモ此ノ事件ニ付警察檢事等ノ官憲ノ詰問ニ逢フテハ所謂被疑人心理ニテ恐懼狼狽ノ爲平生抱懷ノ意見ヲモ或ハ發表シタルモノノ如キ口吻ニテ申立タルヤモ圖ラレス又一面問ハル官憲ニ在リテモ熱心ノ餘リ(殊ニ今回ノ選舉肅正の檢舉ニ付テハ別シテ熱心ノ餘リ脱線シテ極メテ無理ナル取調ヲ招來シタル例モ少カラス)多少平靜ヲ失ヒ右ノ區分ヲ混合シテ聽取ラレストモ保シ難シト信ス旁被告ノ申立ヲ取捨スルニ付大ニ斟酌ヲ加ヘ一部ヲ斷片的形式ニ取ラス全旨ヲ綜合シ結局其ノ云ハントスル要旨ト眞意トニ達セラレンコトヲ乞ヒタシ(今被告ノ申立記載中ニモ間違多キ一例ヲ摘出スレハ下野村ニハ講堂ノ存スルコトハ既ニ明白トナリタル通りナリ然ルニ被告ノ警察聽取書ニハ被告カ下野村ニ講堂ナキコトヲ自認シタル記載アリ檢事ノ聽取書ニ至リ下野村ニ講堂ナシトハ云ハスト明カニ申立アル如キ是ナリ)之ヨリ公判即第一、二審ニ於ケル證人ノ陳述ノ檢討ニ入ルヘシ第一審ノ證人中被告ニ不利益ノ傾キアルモノハ巡查増田憲二巡查樋口穰ノ二人ニ過キス其ノ他ノ證人前田卯一野呂徳太郎市川助太郎西村久太郎下田健太郎鈴木善吉野呂久一ノ如キハ皆全然被告ノ利益ニ歸ス即或ハ下野村ニハ講堂ハ教室ト兼用ナルモ實際ハ講堂ニ差支ナク始メヨリ講堂ノ積リニテ建テタル旨趣或ハ北山ニテ道路ノ話ハ聽カス或ハ八風道路若クハ橋梁ノ話ハ聽カストカ皆被告ノ利益ニ歸スルモノノミ而シテ其ノ不利益ニ歸スル前掲増田樋口ハ何レモ臨監ノ警官ナルニ其ノ場ニ於テハ被告ノ言說ノ違

反ナルヲ認メス後日他ヨリ責任ヲ問ハレンコトヲ恐レ多分ニ邪氣ヲ挾ムト疑フヘキ證言ニシテ割引ナクシテハ信スルヲ得ス尙其ノ證言中却ツテ被告ノ利益ニ援用スヘキ點モ亦發見ス即増田ノ證言中被告ハ八風道路ニ言及シタルモ同時ニ自分ノ云フ事ハ違反ニハナラヌト云フタトノコト是ナリ被告カ臨監警官ノ前ニテ公然違反ニナラヌト明言シテ憚ラサリシハ是其ノ言カ違反ニナル區域ニ進入セサリシカ爲ト見サルヘカラス又同證言中「道路改善云々ト云フハ自分カ盡力スル意ヲ暗示サレタト思フ」トアリ暗示ト云ヒ思フト云ヒ皆曖昧ナリ之ヲ採用スルハ危險ナリ又何故注意ヲ與ヘサリシヤト問ニ對シ「其ノ時聽衆ハ夫迄熱カナカツタカラ夫ヲ注意スルハ一層惡イ感シヲ與ヘルト思ヒシ云々」ト答ヘアリ以テ其ノ時被告ノ言説ノ價值ヲトスルニ足ル又樋口ノ證言中道路問題ヲ述ヘタル時間ヲ問ハレ「二分間位ノ間」ト答ヘ「然ラハ聽衆中聽キ洩ス者モアルカモ判リマセヌ」ト答ヘ次ニ何故注意セサリシヤノ問ニ對シ「左様ニ感シテ注意ヲ與ヘ様トモ思ヒマシタカ聽衆ハ熱カナカツタカラ注意セナンタノテス」ト答ヘタル如キハ以テ被告ノ演説カ違反ノ程度ニ達セサルヲ推知スルニ足ル又茲ニ最モ注意スヘキハ被告ノ演説中道路ヤ橋ノ問題ハ過去ヤ將來ニ付テノ事テアツタカトノ問ニ對シ「地方ニ有力者カアルト橋ヤ道路カ良クナツテ居ルト過去ノ事ヲ云フタモノテアリマス」トノ答是ナリ是明カニ被告ノ主張ニ合シ而シテ一面同様臨監官憲タル増田ノ證言ニ正反對ナリ尙又同證言中「自分トシテ怪シイトハ思ヒマシタカ斷然違反ニナルト云フ事カ判定シ兼タ爲注意ヲセナンタ」トノ答又聽衆ハ

感銘シテ居ツタ様子ナリヤノ問ニ對シ「居ラナンタト思ヒマス」トノ答等皆被告ニ利益ナラサルハ無シ次ニ第二審公判ノ證人ハ唯田中眞一ノ一人ナリ而シテ同人ノ證言ハ下野村ニハ教室ト兼用ノ講堂アリ實際講堂タルニ妨ケナシトノ旨趣及八風道路ハ北山ノ人民ニハ利用カ少ナイトノ旨趣ニ於テ皆被告ニ利益ナリ以上屢證據ト事實トニ因リ説キ來リシ所ニ因リ要スルニ被告演説ノ要旨ハ北山ニ於テモ中里ニ於テモ決シテ直接ニ具體的特殊利益ニ因ル誘導ニアラス第一、二段ノ要旨ニ過キサルトコトヲ認ムヘキモノト確信ス故ニ原判決ハ重要ノ點ニ於テ事實認定ニ錯誤アルヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ判示選舉應援演説ニ當リ判示選舉人等ニ對シ片岡候補ヲ推薦シ同候補カ當選セハ自分モ繰上當選ニ依リ縣會議員ニ就任シ得ヘキモノナルコトヲ告ケタル上(一)其ノ曉ハ自分モ此ノ地方ノ發展ニ力ヲ入レル考ナレハ例ヘハ八風道路ノ如キ地方道路ノ改修等ニ有利ナリ地方ノ發展ハ其ノ地方ニ議員ノ如キ有力者アル爲ナルニヨリ片岡氏ニ投票セラレ度シ自分モ縣會議員ニ當選セハ判示下野村及其ノ地方ノ道路其ノ他ノ問題ニ付特ニ盡力スヘキ旨ヲ述ヘ(原判示第一事實)又(二)地方ニ有力者アラハ如何ナル仕事モ爲シ得ヘク以前ニモ橋ヲ架ケ貫ヒシコトアリ下野村ノ學校ニハ講堂ナシ貧弱村ナル故其ノ負擔ヲ輕クシテ良クシタイト思ヒ居ルニ付片岡候補ニ投票セラレ度シトノ趣旨ノ演説ヲ爲シタルモノナリ(原判示第二事實)ト云フニ在リテ該判示事實ハ孰レモ原

【要旨】 判決擧示ノ當該證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記録ヲ精査スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ然リ而シテ右事實ニ依レハ被告人ハ判示選舉人等ニ對シ居村ノ道路改修或ハ橋梁修理若ハ講堂建設ノ如キ特殊ニシテ直接ナル利害關係ヲ利用シテ之ヲ誘導シタルモノナルコト明ナルカ故ニ原審カ之ヲ以テ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第二號ニ間擬シタルハ正當ニシテ何等所論ノ如キ理由不備ノ違法ナク所論縷述スルトコロハ畢竟原審不採用ノ證據ヲ云爲シ原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨竝其ノ價值判斷ヲ非難シ延テ判示事實ノ認定ヲ攻撃スルモノニ外ナラス論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第二四二七號 棄却)

【上告人】 被告人 長澤増太郎 辯護人 佐藤久四郎

【第一審】 横濱區裁判所 【第二審】 横濱地方裁判所

○判示事項

候補者ニ關スル錯誤ト衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ノ罪

○判決要旨

甲力議員候補者乙ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ丙ニ對シ金錢ヲ供與シタル場合丙ニ於テ之ヲ議員候補者丁ノ爲ニスル選舉運動ノ報酬ナリト誤解シテ該供與ヲ受ケタリトスルモ丙ノ所爲ニ付衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ノ罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

【參照】

衆議院議員選舉法第百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

候補者ニ關スル錯誤ト衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ノ罪

(中略)

四 第一號若ハ前號ノ供與、變應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人増太郎ヲ罰金百二十圓ニ被告人太代作同千代松ヲ各罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ夫々勞役場ニ留置ス被告人増太郎ヨリ金三圓ヲ被告人太代作同千代松ヨリ各金一圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ孰レモ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ神奈川縣第二區ノ選舉人ナリシトコロ

第一 被告人長澤増太郎ハ

一 同月十七日頃同縣都築郡中川村牛久保五百四十一番地ノ自宅ニ於テ田丸錦太郎ヨリ同縣第二區ノ議員候補者野田武夫ノ爲投票竝投票取纏ノ選舉運動方ヲ依頼セラレ其ノ投票及選舉運動ノ報酬竝投票買收費トシテ金五圓ノ供與ヲ受ケ

二 右候補者野田武夫ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 同月十八日頃同縣同郡同村牛久保四百二十六番地被告人長澤太代作方ニ於テ同被告人ニ對シ同候補者ニ投票方ヲ依頼シ其ノ投票報酬トシテ金一圓ヲ供與シ

(ロ) 同月十八、九日頃同村牛久保三百九十八番地被告人長澤千代松方ニ於テ同被告人ニ對シ前同趣旨ノ依頼ヲ

爲シ前同趣旨ノ下ニ金一圓ヲ供與シ

以テ無資格選舉運動ヲ爲シ

第二 被告人長澤太代作ハ前記第一ノ二(イ)ノ日時場所ニ於テ被告人長澤増太郎ヨリ同掲記ノ如キ依頼ヲ受ケ之ヲ神奈川縣第二區ノ議員候補者鈴木喜三郎ニ對スル投票方ノ依頼ニシテ同候補者ニ對スル投票ノ報酬ナリト思推シ其ノ趣旨ノ下ニ同被告人ヨリ金一圓ノ供與ヲ受ケ

第三 被告人長澤千代松ハ前記第一ノ二(ロ)ノ日時場所ニ於テ同掲記ノ如ク被告人長澤増太郎ヨリ金一圓ノ供與ヲ受ケ

タルモノナリ

尙被告人長澤増太郎ノ金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ト金錢ノ供與ヲ爲シタル所爲トハ同被告人ノ繼續ノ犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人長澤増太郎ノ判示所爲中金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ニ金錢ノ供與ヲ爲シタル點ハ同法第百十二條第一項第一號ニ無資格選舉運動ノ點ハ同法第九十六條第一項第百二十九條ニ各該當スルトコロ右金錢ノ供與ヲ爲シタル所爲ト無資格選舉運動トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ金錢ノ供與ヲ爲シタル罪ノ刑ニ從ヒ之ト前記金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲トハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條第十條ヲ適用シ犯情重キ金錢ノ供與ヲ受ケタル所爲ノ一罪トシ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人長澤増太郎ヲ罰金百二十圓ニ處シ被告人長澤太代作同長澤千代松ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人長澤太代作同長澤千代松ヲ各罰金三十圓ニ處シ被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十

候補者ニ關スル新撰ト衆議院議員選舉法第百十二條第一項第四號ノ罪

八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ夫々勞役場ニ留置スヘク、被告人等ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條ヲ適用シ被告人長澤増太郎ヨリ金三圓ヲ被告人長澤太代作同長澤千代松ヨリ各金一圓ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人佐藤久四郎上告趣意書第三點原判決ハ其ノ理由ノ第二ニ於テ被告人長澤太代作ハ前記第一ノ二(イ)ノ日時場所ニ於テ「被告人長澤増太郎ヨリ同掲記ノ如キ依頼ヲ受ケ之ヲ神奈川縣第二區議員候補者鈴木喜三郎ニ對スル投票方ノ依頼ニシテ同候補者ニ對スル投票報酬ナリト思惟シ其ノ趣旨ノ下ニ同被告人ヨリ金一圓ノ供與ヲ受ケタリ」ト判示シタリ然レトモ相被告人長澤増太郎ハ前記第二點ニ於テ舉示シタル判示事實ノ如ク同被告人ハ野田候補者ノ爲當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ金錢ノ供與ヲ爲シタルハ明カナルニ被告人長澤太代作ハ之ヲ鈴木候補者ノ爲ナリト誤解シテ貰ヒ受ケタルハ判示事實自體ニ徴シテ明カナリ抑衆議院議員選舉法カ投票ニ關シ金錢ノ授受ヲ禁スルハ特定候補者ニ其ノ當選ヲ得セシムル爲ニ金錢ノ授受ヲ爲スハ選舉ノ公正ヲ維持スルコト能ハサルカ爲ナリ即供與者ト被供與者トノ間ニ特定候補者ノ爲ニ金錢ノ供與ヲ爲スヘキ旨被供與者ニ於テ其ノ特定候補者ノ爲ナ

ルコトヲ應諾シタル意思表示ノ合致ニテ始メテ成立スルモノナリ然ルニ本件事案ノ如ク供與者ハ野田候補者ノ爲ニ供與シタルモ被供與者タル長澤太代作ハ鈴木候補者ノ爲ナリト誤解シタルハ明カニシテ結局同被告人ノ側ヨリ觀察スレハ特定候補者ノ爲ニ金錢ノ供與ヲ受ケタリト云フヲ得サルヲ以テ犯罪ヲ構成セス然ルニ之ヲ問擬シタルハ解釋ヲ誤リタルモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

特定ノ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ金錢ヲ供與スルトキハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號ニ該當シ其ノ情ヲ知ツテ之カ供與ヲ受クルトキハ同項第四號ノ罪ヲ構成スルモノナルヲ以テ原判示ノ如ク被告人長澤増太郎カ判示選舉ニ際シ神奈川縣第二區議員候補者野田武夫ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同區ノ選舉人ナル被告人長澤太代作ニ金員ヲ供與シタルニ當リ同被告人ニ於テハ之ヲ議員候補者鈴木喜三郎ノ爲ノ投票報酬ナリト誤解シテ該金員ノ供與ヲ受ケタリトスルモ右鈴木喜三郎亦同區ヨリ立候補シ居ル者ナル以上右ハ具體的事實ノ錯誤ニシテ前示ノ罪ノ法定事實ノ認識ニ缺クルトコロナク其ノ所爲タルヤ前示選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スルコト明カナリト謂フヘク右ト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○縣會議員選舉罰則違反竝當選無效附帶訴訟事件

(昭和十一年(九)第二九五八號  
同十二年二月二十七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 石毛 保藏 辯護人 伊藤 清

外一名

【私訴上告人】 被告 岩瀬 爲吉 訴訟代理人 辯護士 椎名 良一郎

【第一審】 千葉地方裁判所八日市場支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第三十六條但書ノ解釋——當選訴訟ノ請求原因ノ審理

○判決要旨

一議員候補者力推薦届出者ニ於テ選舉事務長ヲ選任スルニ付相當

ノ注意ヲ爲サスシテ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テ其ノ選舉事務長力衆議院議員選舉法第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ當選シタル議員候補者ハ右選任ニ付テモ相當ノ注意ヲ爲ササルモノトシテ當選ヲ無効トスヘキモノトス【要旨第一】

二公訴ニ附帶スル當選訴訟ノ原因ハ公訴ノ審理ニ依リ隨時變更スヘキモノナルヲ以テ裁判所ハ其ノ請求ノ因テ來リシ所ヲ審査シ請求ノ當否ヲ判斷シ得ヘキモノトス【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第八十八條 議員候補者ハ選舉事務長一人ヲ選任スヘシ但シ議員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者(推薦届出者數人アルトキハ其ノ代表者)議員候補者ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ヲ選任シ若ハ自ラ選舉事務長ト爲ルコトヲ妨ケス

議員候補者ノ承諾ヲ得スシテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者ハ前項但書ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

議員候補者ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉事務長ヲ解任スルコトヲ得選舉事務長ヲ選任シタル推薦届出者ニ於テ議員候補者ノ承諾ヲ得タルトキ亦同シ選舉事務長ハ文書ヲ以テ議員候補者及選任者ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコト

衆議院議員選舉法第三十六條但書ノ解釋 當選訴訟ノ請求原因ノ審理



ヲ得

選舉事務長ノ選任者(自ラ選舉事務長ト爲リタル者ヲ含ム以下之ニ同シ)ハ直ニ其ノ旨ヲ選舉區内警察官署ノ一ニ届出ツヘシ  
選舉事務長ニ異動アリタルトキハ前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者直ニ其ノ届出ヲ爲シタル警察官署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第九十五條ノ規定ニ依リ選舉事務長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘシ其ノ之ヲ罷メタルトキ亦同シ

同法第三十六條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同シ但シ選舉事務長ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者カ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人カ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ若ハ其ノ者ガ當選人ノ制止ニ拘ラズ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

同法第八十四條 第百十條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムル選舉人又ハ議員候補者ハ當選人ヲ被告トシ第七十二條第一項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

檢事ノ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ニ該ル事件ノ被告人ガ選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルニ因リ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

刑事訴訟法第五百八十七條 裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍内ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラレルコトナシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人保藏ヲ罰金三百圓ニ被告人伊兵衛ヲ罰金三十圓ニ處ス右被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人等ヲ勞役場ニ留置ス被告人伊兵衛ヨリ金十圓ヲ追徴ス訴訟費用ハ全部被告人保藏ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十一年一月二十日施行セラレタル千葉縣會議員選舉ニ際シ被告人石毛保藏ハ同縣海上郡ニ於ケル議員候補者トシテ岩瀬爲吉ヲ同人ノ承諾ヲ得テ推薦シ同月六月之カ推薦届出ヲ爲スト共ニ同人ヨリ金二百圓ヲ出金セシメ之ヲ右被告人ノ名ニ於テ供託シ且同日候補者ノ承諾ヲ得テ同被告人自ラ其ノ選舉事務長ニ就任シ同月十一日之ヲ辭任シ更ニ同月十二日以降候補者ノ選舉委員トナリタルモノ被告人宮内伊兵衛ハ同月十一日右候補者ノ選舉委員ニ選任セラレタルモノナル處

第一 被告人石毛保藏ハ

(一) 右候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

衆議院議員選舉法第百三十六條但書ノ解釋 當選訴訟ノ請求原因ノ審理

(イ) 同月八日同郡旭町ナル同候補者ノ選舉事務所ニ於テ其ノ選舉委員ナル宮野豐藏ニ對シ金十圓ヲ同候補者ノ爲選舉運動ニ從事スルコトノ報酬トシテ供與シ

(ロ) 前同日同所ニ於テ前同選舉委員ナル原審相被告人新行内林之助ニ對シ金五圓ヲ前同趣旨ノ下ニ供與シ

(ハ) 同月十一日前同所ニ於テ被告人宮内伊兵衛ニ對シ金十圓ヲ前同趣旨ノ下ニ供與シ

(ニ) 同月九日前同所ニ於テ前同選舉委員ナル原審相被告人崎山賢太郎ニ對シ前同趣旨ノ下ニ後日金錢ノ供與ヲ爲スヘキ旨ノ申込ヲ爲シ

(二) 同月十二日頃同縣銚子市本通二丁目百八十五番地ナル前記候補者宅ニ於テ同候補者ノ妻なかニ對シ選舉終了後冒頭掲記ノ供託金二百圓ノ還付ヲ受ケタル場合該金錢ヲ同被告人等選舉委員タリシ者ニ對スル運動報酬トシテ供與セラレ度旨要求シ

第二 被告人宮内伊兵衛ハ前掲第一ノ(一)ノ(ハ)ノ年月日場所ニ於テ被告人石毛保藏ヨリ前記趣旨ノ下ニ金十圓ノ供與ヲ受ケ

タルモノニシテ尙被告人石毛保藏ノ前掲各所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人石毛保藏ノ判示第一ノ(一)ノ(イ)乃至(ニ)ノ金錢供與又ハ金錢供與ノ申込ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ判示第一ノ(二)ノ金錢供與方ノ要求ヲ爲シタル點及被告人宮内伊兵衛ノ判示第二ノ金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ執レモ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ各該當スルトコロ被告人石毛保藏ノ右各所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條第十條ヲ適用シ最モ重キ金錢供與ノ罪ノ一罪トシテ處斷スヘク以上ノ所定刑中被告人兩名ニ對シ執レモ罰金刑ヲ選擇シ其ノ所定金額範圍内ニ於テ被告人石毛保藏ヲ罰金三百圓ニ被告人宮内伊兵衛ヲ罰金三十圓ニ各處シ被告人等カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサ

ルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間各被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人宮内伊兵衛ノ判示第二ノ犯行ニ因リ收受シタル金十圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百四條後段ニ則リ同被告人ヨリ右同額ノ金錢ヲ追徵スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人石毛保藏ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙當選無効附帶訴訟ニ於テハ左記ノ事實ニ對シ昭和十一年一月二十日施行セラレタル千葉縣會議員選舉ニ際シ同縣海上郡選舉區ニ於ケル被告ノ當選ハ之ヲ無効トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

原告ハ主文ト同趣旨ノ判決ヲ求ムル旨申立テ其ノ請求ノ原因トシテ被告ハ主文掲記ノ千葉縣會議員選舉ニ際シ昭和十一年一月六日同縣海上郡ヨリ議員候補者トシテ立候補シ同日ヨリ同月十一日迄其ノ選舉事務長トシテ同郡嚙鳴村琴田九十六番地石毛保藏ヲ選任シ同月十二日ヨリ被告自ラ選舉事務長ニ就任シ選舉運動ノ結果前示縣會議員ニ當選シタリ然ルニ右石毛保藏ハ選舉事務長トシテ選舉運動ニ從事中犯シタル府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號及第四號ノ罪ニ付同年二月五日千葉地方裁判所八日市場支部ニ豫審請求セラレタルコト同月二十六日同廳豫審判事ハ右縣會議員選舉罰則違反被告事件ヲ同支部ノ公判ニ付スル旨ノ決定ヲ爲シ同支部ニ於テ審理ノ結果右石毛保藏ハ有罪ノ判決ヲ受ケタルニ依リ控訴ノ申立ヲ爲シ該被告事件ハ目下當院ニ繫屬中ナリ仍テ原告ハ府縣制第三十四條ノ二第三項衆議院議員選舉法第三十六條ノ規定ニ依リ被告ノ當選ハ無効ナリト本訴ヲ提起シタル次第ナリト述ヘ被告訴訟代理人主張ノ抗辯事實ヲ否認シ立證トシテ石毛保藏外二名ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件公訴記録ノ全部ヲ援用シ乙號各證ノ成立ヲ認メタリ

被告訴訟代理人ハ原告ノ請求ヲ棄却ストノ判決ヲ求メ答辯トシテ被告カ原告主張ノ縣會議員選舉ニ際シ千葉縣海上郡ニ於ケル同議員候補者トナリ選舉運動ノ結果當選シタル事實ハ之ヲ認ムルモ原告主張ノ如ク被告カ自ラ議員候補者ト

シテ立候補シ且其ノ届出ヲ爲シ石毛保藏ヲ選舉事務長トシテ選任シタリトノ原告ノ主張事實ハ之ヲ否認ス即被告カ立候補ヲ爲スニ至リタルハ右石毛保藏ノ推薦届出ニ因ルモノニシテ被告ハ其ノ推薦ヲ受クルニ當リ石毛保藏カ他ニ適當ナル選舉事務長ヲ選任シ以テ肅正選舉ノ目的ニ副フヘキコトヲ條件トシテ之ヲ承諾シタルモノナルニ拘ラス石毛ハ他ニ適當ナル選舉事務長ヲ選任スルコト能ハサリシ爲己ムコトヲ得スシテ被告ノ承諾ヲ求ムルコトナク自ラ暫定的ニ選舉事務長ニ就任シタリ而シテ推薦届出ニ因ル立候補ノ場合ニ於テハ他ニ選舉事務長ノ選任ナキ限り推薦届出人カ法律上當然選舉事務長ノ地位ニ就任スルモノナルカ故ニ此ノ場合議員候補者ハ選舉事務長ノ選任ニ關シ何等ノ責任無ク唯其ノ選舉事務長カ選舉運動ニ從事中監督上ノ責任ノミヲ負擔スルモノニシテ其ノ監督上ノ注意義務ハ民法ニ所謂善良ナル管理者トシテノ注意義務ト同一ナリ從テ被告ハ石毛保藏ノ選舉事務長就任ニ關シテハ何等ノ責任ナキモ事務長就任中ノ選舉運動ニ付監督上ノ責任存スルヲ以テ同人カ選舉法規ニ暗ク選舉事務ニ練達セサルコトヲ慮リ同人ノ選舉運動ヲ監督スル意圖ノ下ニ渡邊良策及藤ヶ崎尙壽ノ兩名ヲ勞務者トシテ雇入レ同人等ヲシテ専ラ會計ニ關スル事務選舉費用支出簿記載ニ關スル事務等ヲ取扱ハシメ以テ石毛保藏ノ選舉運動ヲ監視シ其ノ過誤ナキコトヲ期シ尙自ラ常ニ肅正選舉ヲ強調シタル次第ナルニ依リ被告ハ選舉事務長タル石毛保藏ノ監督ニ付前示法律ノ要求スル相當ナル注意ヲ爲シタルニ依リ石毛保藏カ原告主張ノ公訴事實ニ付有罪ノ判決ヲ受ケタルコトアリトスルモ被告ノ當選ハ無効トナルヘキモノニ非サルヲ以テ原告ノ本訴請求ハ失當ナリト述ヘ尙石毛保藏ノ選舉事務長選任届ニ付被告カ候補者トシテ石毛ト共ニ連署ノ上其ノ届出ヲ爲シタル事實ハ之ヲ認ムルモ右被告ノ連署ハ石毛保藏カ選舉事務長タルコトヲ被告ニ於テ承諾シタル意思表示ニ非スト釋明シ立證トシシテ前同縣會議員選舉罰則違反被告事件ノ公訴記録全部ヲ援用シ乙第一號證一乃至四第二、第三號證第四號證一、二及第五號證ヲ提出シタリ

### ○主 文

本件公訴及附帶訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

### ○理 由

私訴上告人訴訟代理人椎名良一郎上告趣意書第一點原審判決ハ審理不盡理由不備ノ不法アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「原告ハ右選舉ニ際シ被告カ自ラ議員候補者トシテ立候補シ且其ノ届出ヲ爲シ石毛保藏ヲ選舉事務長トシテ選任シタル旨主張スレトモ之ヲ確認スルニ足ル證據ナク反ツテ右石毛保藏外二名ニ對スル縣會議員選舉罰則違反被告事件ノ公訴記録殊ニ同被告事件ノ公訴判決ニ證據トシテ引用シタル被告人石毛保藏及證人小川三郎ノ當公廷ニ於ケル各供述ヲ綜合シ被告カ當院ニ於テ自認スル石毛保藏ノ選舉事務長選任届ニ被告カ議員候補者トシテ連署シ之カ届出ヲ爲シタル事實ニ徵スレハ右石毛保藏ハ被告ノ承諾ヲ得テ被告ヲ議員候補者トシテ推薦シ同月六日之カ推薦届出ヲ爲スト共ニ被告ノ承諾ヲ得テ自ラ選舉事務長ニ就任シタルモ同月十一日ニ至リ之ヲ辭任シタル事實ヲ肯認スルニ足レリ」ト判示シ居ルモ被告カ議員候補者トシテ石毛保藏ヨリ推薦ヲ受ケタル際被告カ承諾ヲ與ヘタルヤ否ヤ不明ナリ議員候補者タラントスル者ハ選舉ノ期日ノ公布又ハ告示アリタル日ヨリ選舉期日前七日迄ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ届出スルコトヲ要シ又他人ヲ議員候補者ト爲サントスルトキモ同選舉ノ期日日前七日迄ニ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ原判決カ理由トシテ掲ケタル石毛保藏ノ選舉事務長選任届ニ被告カ議員候補者トシテ連署シ之カ届出ヲ爲シタル事實ヲ以テ直ニ被告カ議員候補者トシテ推薦ニ

承諾ヲ與ヘタルモノナリト判示セラルルハ審理不盡ノ不法アルモノナリ被告カ推薦ニ際シ承諾ヲ與ヘタルヤ否ヤハ選舉長ニ提出シタル推薦届書ト題スル書面ニ依リ形式的ニモ亦事實上承諾ヲ與ヘタルヤ否ヤヲ審理スルニ非サレハ被告カ推薦ヲ承諾シタルヤ否ヤ不明ナリ被告カ承諾セサルモノトスレハ選舉事務長ノ選任ハ議員候補者ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セサルモノニシテ(衆議院議員選舉法第八十八條第二項)選舉事務長ノ選任ニ付テハ被告ニ於テ何等責任ヲ負フヘキ筋合ノモノニ非ス今本件ニ付之ヲ看ルニ公訴ニ於ケル被告人石毛保藏ヲシテ選舉事務長ト爲シタルハ推薦人自ラ事務長トナリタルモノニシテ候補者タル被告ノ知ラサルトコロノモノナリ唯警察當局ニ對スル事務長選任届書ニ議員候補者トシテ連署シタル一事ハ法律ノ要求セサルモノニシテ何等法的效果ヲ生スルモノニ非ス故ニ事務長選任ニ關スル被告ノ責任ハ何等責ヲ負フヘキニ非サルモノナリ假ニ被告ニ於テ責ヲ負フヘキモノトスルモ公訴ニ於ケル被告人石毛保藏ヲ事務長トシテ選任シ置キタルモ石毛保藏ハ地方ニ於ケル名家ノ息ニシテ父ハ三等郵便局長トシテ現ニ其ノ職ニ在リ自ラハ村治ニ直接關係ヲ有シ同地方耕地整理組合ノ理事トシテ十數年ノ長キニ互リ其ノ手腕力量信用ハ絶大ニシテ之以上ノ人物ヲ物色スルハ至難ノ事ニ屬シ被告ニ於テハ相當ノ注意ヲ以テ選舉事務ノ處理ニ當ラセタルモノナリト云ヒ」第二點原判決ハ其ノ理由ニ於テ「府縣制第三十九條ニ依リ府縣會議員選舉ニ準用セラルル衆議院議員選舉法第八十八條第一項同條第二項トヲ對照スレハ推薦届出者カ議員候補者ノ承諾ヲ得テ其ノ推薦届出ヲ爲シタル場合

他ニ選舉事務長ヲ選任シ若クハ自ラ選舉事務長ニ就任スルニ際シテハ何レモ議員候補者ノ承認ヲ得サルヘカラサルモノニシテ此ノ場合議員候補者カ右承諾ヲ與フルニ付テハ議員候補者カ自ラ選舉事務長ヲ選任スル場合ニ於ケルト同一ナル注意即前示衆議院議員選舉法第三十六條但書所定ノ注意ヲ爲スヘキモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ此ノ點ニ關スル右被告ノ抗辯ハ其ノ理由ナキモノト謂ハサルヘカラス」ト判示スルモ被告ノ謂ハントスルトコロハ推薦届出者カ議員候補者ノ承諾ヲ得テ其ノ推薦届出ヲ爲シタルヤ否ヤヲ進ンテ審理スヘキモノナルニ原判示ノ如ク推薦届出者ハ議員候補者ノ承諾ヲ得テ其ノ推薦届出ヲ爲シタルモノト即斷シ居ル點ニ付審理不盡ノ不法アルモノト謂ハサルヘカラス原審ニ於テ警察當局ニ提出シタル事務長選任届書ニ被告カ議員候補者トシテ連署シタル點ヲ以テ推薦届ニ承諾ヲ與ヘタルモノト誤認シ被告ノ抗辯ヲ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

原判決カ公訴判決ニ引用セル被告人石毛保藏及證人小川三郎ノ第二審公庭ニ於ケル供述等ヲ綜合スレハ縣會議員選舉ニ際シ石毛保藏カ私訴上告人ノ承諾ヲ得テ同人ヲ議員候補者トシテ推薦シ昭和十一年一月六日之カ推薦届出ヲ爲スト共ニ私訴上告人ノ承諾ヲ得テ自ラ選舉事務長ニ就任シタルカ同月十一日ニ至リ之ヲ辭任シタル事實ヲ肯定スルニ足り記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルモノアルヲ認メス又原審ノ審理ハ所論承諾ノ有無ニ付盡ササルモノアルヲ見ス本件ハ選舉事務長カ府縣制ニ依リ準用サルル衆議院議員選舉法第一百二十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル理由ニ

依り私訴上告人ノ當選ヲ無効トシタル案件ナルニ依り案スルニ凡ソ選舉事務長ト爲ルニハ第一議員候補者カ選任シタル場合第二議員候補者自ラ選舉事務長ト爲リ又ハ推薦届出者ヲ議員候補者ノ承諾ヲ得テ選任シ若ハ自ラ選舉事務長ト爲ル場合第三議員候補者ノ承諾ヲ得シテ其ノ推薦ノ届出ヲ爲シタル者カ議員候補者ノ承諾ヲ得シテ選舉事務長ヲ選任シタル場合アルコト右選舉法第八十八條第一、二項ノ規定上明ナリ而シテ選舉事務長カ同法第一百十二條乃至第一百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルキハ當選人ニ於テ右第一ノ場合ニハ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルニ非サル限リ其ノ當選ヲ無効トセラレハ同法第三十六條ニ照ラシ疑ナキトコロナルモ右第二ノ場合ニハ選舉事務長ハ推薦届出者カ選任シタルモノナレハ斯ル場合尙議員候補者カ其ノ選任及監督ニ付何レモ相當ノ注意ヲ爲シタルトキニ限り其ノ當選ヲ無効トスヘキヤヲ按スルニ右第三ノ場合ニ於テ見ル如ク議員候補者ノ届出選舉事務長ノ選任カ全然議員候補者ニ關係ナク行ハルル場合ニ於テハ議員候補者ニ於テ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲サントスルモ爲シ得サル事理ナルカ故ニ斯ル場合其ノ注意ヲ爲スヘキコトヲ要求スルハ法ノ趣旨トスルトコロトスルニ非サルヤ明ナリト雖右第二ノ場合ノ如ク推薦届出者カ選舉事務長ヲ選任スルニ付議員候補者カ承諾ヲ與ヘタル場合ニ於テハ議員候補者ハ選舉事務長タルノ適否ニ付判断シテ諾否ヲ決シタルモノニ係リ而カモ爾後其ノ選舉事務長解任ノ權ハ一ニ係ツテ議員候補者ニ存スルニ鑑ミルトキハ斯ル場合ニ於テハ議員候補者ハ推薦届出者ノ選舉事務長選

## 【要旨第一】

任ニ承諾ヲ與フルニ付相當ノ注意ヲ爲スヲ要スルモノニシテ若シ右注意ヲ缺キテ不適當ナル選舉事務長ノ選任ヲ承諾シ其ノ選舉事務長カ前示犯行ニ及ヒタルトキハ議員候補者カ選舉事務長ノ選任ニ付相當ノ注意ヲ缺キタリトシテ其ノ當選ヲ無効トスヘク右選舉法第三十六條但書ノ規定ハ右ノ趣旨ニ解スヘキモノトス若シ然ラスシテ右但書前段ノ規定ヲ當選人カ選任シタル選舉事務長ノ違反ノ場合ノミニ限ルト解スルトキハ當選人ノ承諾ヲ得テ選舉事務長ト爲リタル者カ罪ヲ犯シテ刑ニ處セラレタル場合ニ關スル連座規定ヲ缺如スル結果ト爲リ選舉法カ選舉廓正ヲ目的トシテ立法シタル趣旨ヲ貫徹スヘカラサルニ至レハナリ本件ニ於テ私訴上告人ハ推薦届出者タル石毛保藏カ自己ヲ選舉事務長ニ選任シタルニ對シ之カ承諾ヲ與ヘタルモノナルトコロ私訴上告人カ其ノ承諾ヲ與ヘタルニ付及選舉事務長ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ認ムヘキ證據ナク却テ私訴上告人カ相當ノ注意ヲ用ユルコトナク漫然石毛保藏ニ對シ選舉事務長タルコトノ承諾ヲ與ヘ且監督ニ付缺クル所アリシコトハ原判決ノ確定セル事實ナレハ本件當選ハ府縣制ニ依リ準備サルル衆議院議員選舉法第三十六條本文後段ニ依リ無効ナリト認メタルハ所論ノ如ク違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ其ノ理由中ニ「石毛保藏カ被告ヲ右議員候補者トシテ推薦ノ届出ヲ爲スト共ニ自ラ被告ノ選舉事務長ニ就任スルニ當リ何レモ被告ノ承諾ヲ得タルコト前認定ノ如クナルヲ以テ被告ハ石毛保藏ノ選舉事務長就任ニ付承諾ヲ與フルニ際シテハ須ラク云々」ト判示スレトモ被告カ右石毛保藏ノ

右議員候補者トシテノ推薦ニ對シテ其ノ承諾ヲ與ヘタルヤ否ヤ原告被告共ニ其ノ主張ナク又之ヲ認ムヘキ何等ノ證據ナキニ拘ラス原審ハ其ノ判斷ノ根柢ニ於テ被告カ承諾ヲ與ヘタリトシ之ヲ基礎トシテ被告ノ選舉事務長選任ノ責任ヲ問フハ其ノ當ヲ得タルモノト謂フヲ得サルモノナリ推薦ニ對スル議員候補者ノ承諾ハ選舉事務長選任ニ對スル重要ナル責任ノ分水嶺ヲ爲スモノナリ何トナレハ選舉事務長選任ニ對スル責任ノ有無ハ衆議院議員選舉法上之ヲ三點ニ分類シ得ルモノナリ其ノ一ハ議員候補者自ラ議員候補者トシテ届出ヲ爲シタル場合其ノ二ハ他人ノ推薦ニヨリ議員候補者トシテ其ノ推薦ニ對シ承諾ヲ與ヘタル場合其ノ三ハ他人ノ推薦ニヨリ議員候補者トナリ其ノ届出ニ對シ承諾ヲ與ヘサル場合之ナリ右ノ内第一及第二ノ場合ニ於テハ選舉事務長選任ニ對スル責任ハ共ニ議員候補者之ヲ負擔スヘク第三ノ場合ニ於テハ議員候補者ニ選舉事務長選任ニ對シテハ何等其ノ責任ヲ負フヘキノ理更ニ之無し(衆議院議員選舉法第八十八條參照)原審ハ之ニ對スル審理ヲ盡ササルモノト謂フヘシト云フニ在レトモ

原審ノ審理ハ十分ニシテ盡ササルモノナキコト竝石毛保藏カ私訴上告人ノ承諾ヲ得テ事務長ト爲リシコト第一、二點ニ付説明シタルカ如シ而シテ私訴原告ノ主張ハ石毛保藏ヲ以テ當選人ノ選任ニ依ル事務長ナリト云フニ在リシモ公訴ニ附帶スル私訴ノ原因ハ公訴ノ審理ニ依リ隨時變更スヘキモノナルヲ以テ裁判所ハ其ノ請求ノ因テ來リシ所ヲ審查シ請求ノ當否ヲ判決シ得ヘキモノト是刑事訴訟法第五

【要旨第二】

百八十七條ノ規定ヨリ見ルモ且又當選無効ノ附帶私訴ノ如キ職權訴追主義ヲ採用セル點ヨリ見ルモ毫モ疑ヒナキ所ナリ故ニ原審決ニ於テ石毛保藏ヲ當選人ノ承諾ヲ得テ事務長ト爲リタルモノト認メタルハ違法ニ非ス又之ヲ認ムヘキ證據アルコト第一、二點ニ於テ説明セルカ如クナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法アノモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事一木輔太郎關與

○外國爲替管理法違反及同幫助被告事件 (昭和十一年(レ)第二四七二號 破毀自判)

【上告人】 被告人 佐藤 篤 外一名 辯護人 横田 準 雄

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ノ豫備罪ノ規定

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ノ豫備罪ノ規定

○判決要旨

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ニ密輸出ノ豫備ヲ爲スコトヲ得サル規定ヲ設ケタルハ委任ノ範圍ヲ超越シタル不法ノ命令ナリ

【参照】 外國爲替管理法第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行

爲テ禁止又ハ制限スルコトヲ得

- 一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分
  - 二 通貨、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造又ハ毀傷
  - 三 外國ニ對スル送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
  - 四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本邦内ニ於テ爲ス支拂
  - 五 外國爲替相場ノ取極
  - 六 外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
  - 七 信用狀ノ發行又ハ取得
  - 八 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
  - 九 證券ノ輸出又ハ輸入
  - 十 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出
- 同法第五條第一項 第一條又ハ第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取

引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條 大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出シ又ハ其ノ豫備ヲ爲スコトヲ得ズ

金貨幣ハ之ヲ鑄造シ又ハ毀傷スルコトヲ得ズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人篤一ヲ罰金八千圓ニ同宇太郎ヲ罰金五千圓ニ各處ス被告人等ニ於テ各其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人篤一ヲ二百五十日間同宇太郎ヲ二百日間夫々勞役場ニ留置ス押收ニ係ル純金地金(昭和十一年押第六三七號ノ一、二、三)ハ被告人篤一同宇太郎ヨリ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人佐藤篤一ハ貴金屬製作並卸賣ヲ同土屋宇太郎ハ貴金屬外交ヲ同南德治ハ古物商並金銀分析ヲ業トシ同姚安發ハ日本郵船株式會社貨客船六甲丸乗組船員ナルトコロ

- 第一 被告人佐藤篤一ハ昭和十年五月四日頃其ノ妻佐藤はな 周克嵩被告人姚安發等ト共謀ノ上更ニ同年十二月五日ニハ被告人土屋宇太郎トモ共謀ノ上大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ノ密輸出ヲ爲サンコトヲ企テ
- (一) 昭和十年五月四日頃ヨリ同年十二月六日頃迄ノ間ニ佐藤はなト共ニ被告人土屋宇太郎等ヨリ金地金合計百四

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ノ豫備罪ノ規定

十貫三百五十三・九七匁(價格少クトモ百六十二萬八千圓相當ノモノ)ヲ買集メ之ヲ約四十回ニ互リ東京市下谷區中根岸町三十七番地ナル被告人佐藤篤一居宅其ノ他ニ於テ周克嵩ニ賣却交付シ周克嵩ハ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ其ノ都度船員被告人姚安發其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ橫濱港等ヨリ前記貨客船六甲丸等ニテ中華民國上海港方面ニ輸送陸揚セシメ以テ之カ密輸出ヲ遂ケ

(二) 右周克嵩ト共同出資ニ依リ被告人土屋宇太郎ヲ介シテ原審相被告人大槻道治ニ金地金買入資金ヲ交付シ同人ヲシテ昭和十年十二月五日同市足立區千住仲町五十一番地佐藤賢治ヨリ金地金六百匁(價格少クトモ七千圓相當ノモノ)(昭和十一年押第一三一號ノ一、二、三)ヲ買入レシメ以テ金地金密輸出ノ豫備ヲ爲シ

第二 被告人土屋宇太郎ハ

(一) 被告人佐藤篤一 佐藤はな 周克嵩等カ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ノ密輸出ヲ爲シ居ルノ情ヲ知り乍ラ

(イ) 昭和十年六月二十二日頃ヨリ同年十二月五日頃迄ノ間二百數十回ニ互リ原審相被告人國井彌太郎同大槻道治外二名ヨリ金地金合計百二十六貫九十八・四五匁(價格少クトモ百四十六萬一千圓相當ノモノ)ヲ買求メ

其ノ都度之ヲ被告人佐藤篤一ノ前記居宅ニ於テ同被告人又ハ佐藤はなニ賣却交付シ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ中華民國上海港方面ニ輸送陸揚ケセシメ以テ同人等ノ前記第一ノ(イ)ノ金地金密輸出ヲ幫助シ

(ロ) 被告人佐藤篤一等ヨリ金地金買入資金ヲ受取り原審相被告人大槻道治ニ之ヲ交付シ同人ヲシテ昭和十年十二月五日同市足立區千住仲町五十一番地佐藤賢治ヨリ金地金六百匁(價格少クトモ七千圓相當ノモノ)(昭和十一年押第一三一號ノ一、二、三)ヲ買入レシメ以テ被告人佐藤篤一等ノ前記第一ノ(ロ)ノ金地金密輸出ノ豫備ヲ幫助シ

(二) 昭和十年十二月五日被告人佐藤篤一ノ前記居宅ニ於テ同人被告人姚安發及周克嵩等ト共謀ノ上大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ノ密輸出ヲ爲サンコトヲ企テ之カ買入資金トシテ周克嵩ヨリ現金八萬四千四百圓ノ交付ヲ受ケ以テ金地金密輸出ノ豫備ヲ爲シ

(以下省略)

タルモノニシテ被告人等ノ判示各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人佐藤篤一ノ判示第一ノ各所爲竝同被告人及被告人土屋宇太郎ノ判示第二ノ(二)ノ密輸出豫備ノ所爲ハ夫々昭和八年三月二十九日法律第二八號外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項昭和八年四月二十六日大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條第一項刑法第六十條ニ被告人土屋宇太郎ノ判示第二ノ(一)ノ各所爲ハ夫々右外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項同法ニ基ク右命令ノ件第一條第一項刑法第六十二條第一項ニ各該當スルトコロ各被告人ノ所爲ハ連續犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ各連續ノ一罪トシ被告人土屋宇太郎ニ對シテハ判示第二ノ(二)ノ密輸出豫備罪トシテノ刑ニ從ヒ各被告人ニ付罰金刑ヲ選擇シ右罰條ニ從ヒ被告人佐藤篤一ニ付テハ判示第一ノ(一)ノ密輸出及同(二)ノ密輸出豫備ノ各目的物タル金地金ノ價格合計百六十三萬五千圓ノ三倍ナル四百九十萬五千圓被告人土屋宇太郎ニ付テハ一萬圓ノ各罰金額以下ニテ處斷スヘク被告人佐藤篤一ヲ罰金八千圓ニ同土屋宇太郎ヲ罰金五千圓ニ夫々處シ被告人等ニ於テ各其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人佐藤篤一ヲ二百五十日間同土屋宇太郎ヲ二百日間夫々勞役場ニ留置シ押收ニ係ル純金地金(昭和十一年押第六三七號ノ一、二、三)ハ判示第一ノ(二)及第二ノ(一)ノ(ロ)ノ各犯罪行爲ヲ組成シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第一號第二項ニ則リ被告人佐藤篤一同土屋宇太郎ヨリ之ヲ沒收スヘキモノトス

主 文

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ノ豫備罪ノ規定



原判決中被告人篤一宇太郎ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人篤一ヲ罰金八千圓ニ被告人宇太郎ヲ罰金五千圓ニ處ス

被告人等ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人篤一ヲ二百五十日間同宇太郎ヲ二百日間  
勞役場ニ留置ス

○理 由

被告人篤一辯護人横田隼雄上告趣意書第三點原審判決ハ判斷ヲ遺脱シタル違法存ス原審第一回公判調  
書ニ「横田辯護人ハ被告人……同佐藤篤一……ノ爲……而シテ密輸出ノ豫備ニ付テハ外國爲替管理法  
カ出來タ時ニハナク之ニ豫備ヲ罰スル規定ナキ以上刑法第六十二條ニ依リ直ニ幫助ナリトシテ罰スル  
譯ニ行カス(記録第一〇九五丁)ト述ヘ居ルニ拘ラス原審判決ハ此ノ點ニ關シ何等判斷ヲ爲ササルハ  
刑事訴訟法第三百六十條ノ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ破毀ヲ免レスト云ヒ」第四點原審判決ニハ擬  
律錯誤ノ違法存ス原審判決ハ認定ノ事實假リニ被告人ヲ責ムヘキモノアリトスルモ左ノ點ニ於テ擬律  
錯誤ノ違法アリテ破毀ヲ免レス其ノ一共犯關係ノ點原審判決摘示第一ノ(一)ノ事實ハ被告人ハ周克菫  
ノ依頼ヲ受ケ同人カ金地金ヲ密輸出スルノ情ヲ知リ判示金地金ヲ買求メ之ヲ同人ニ交付シ同人ノ密輸  
出ヲ幫助シタルニ過キササル案件ナレハ刑法第六十二條第一項第六十三條ヲ適用スヘキニ拘ラス原審判  
決ハ被告人ニ對シ刑法第六十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アリ尙又被告人ノ行爲ト被告人ノ妻佐

藤はなノ行爲ヲ共犯ナリト認定セリト雖外國爲替管理法第六條ニハ「……使用人其ノ他ノ從業者カ：  
…又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦  
前條ノ罰金刑ヲ科ス」ト規定シアリテ被告人妻佐藤はなハ從業者ニシテ此ノ規定ヲ適用スヘキニ拘ラ  
ス之ヲ適用セサル原審判決ハ擬律錯誤ノ違法アリト云ハサルヘカラス其ノ二密輸出豫備ノ點原審判決  
ニハ「第一被告人佐藤篤一ハ……(一)……(二)右周克菫ト共同出資ニ依リ被告人土屋宇太郎ヲ介シ原  
審相被告人大槻道治ニ金地金買入資金ヲ交付シ同人ヲシテ昭和十年十二月五日同市足立區仲町五十一  
番地佐藤賢治ヨリ金地金六百匁ヲ買入レシメテ以テ金地金密輸出ノ豫備ヲ爲シ」ト判示シ之カ適條ニ  
ハ「昭和八年三月二十九日法律第二八號外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項昭和八年四月二十  
六日大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條第一項」ト記載シアリ然レトモ右外國爲替  
管理法第一條第二項ニハ「通貨、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄  
潰又ハ毀傷」ト規定シアリ其ノ頃公布セラレタル右外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條第一項ニハ  
「大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出ス  
ルコトヲ得ス」ト規定シ法律及命令共ニ單ニ「輸出」トアリタルモノナルニ其ノ後ニ於テ法律ハ何等改  
正行ハルルコト無ク命令第一條第一項ヲ「大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ金貨幣、金地金、金ノ合  
金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出シ又ハ其ノ豫備ヲ爲スコトヲ得ス」ト變更セラレタルニ過キサ

外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ノ豫備罪ノ規定

ルナリ而シテ凡ソ豫備ヲ罰スルニハ法カ特ニ規定ヲ設ケタル場合ニ限ルヘキモノニシテ前記ノ如ク處罰規定ノ存スル本法第一條ニハ「單ニ物ノ輸出」トアリテ之ニ違反シタル場合ニノミ處罰シ得ヘキ規定カ第五條ニ設ケアリテ其ノ豫備ヲ爲シタル場合何等處罰規定ナキニ前述ノ如ク事實ヲ認定シ之ニ本法第五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤アリト云ハサルヘカラス(參考迄本法公布當時ノ命令條文添付ス)其ノ三沒收言渡ノ點原審判決ハ前記豫備行爲ヲ處罰セルノ外其ノ金地金六百匁ハ「犯罪行爲ヲ組成シタル物」ナリトシテ「刑法第十九條第一項第一號第二項ニ則リ被告人佐藤篤一同土屋宇太郎ヨリ之ヲ沒收シ」ト判示セルモ豫備ハ犯罪トナルヘキモノニアラサルコト前述ノ如ク果シテ然リトセハ之ニ沒收ノ言渡ヲ爲シタル原審ハ擬律ノ錯誤アリト云ハサルヲ得スト云ヒ」同追加補充趣意書第四點其ノ二密輸出豫備ノ點(補充)上告趣意書第四點其ノ二ヲ左ニ補充仕候外國爲替管理法第一條第一號乃至第十號ノ取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ヲ命令ニ委ネタル其ノ第二號ハ「……ノ輸出……」ノ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ法律ニ於テ認メ之ニ基ク「外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件」ヲ公布シテ第一條ニ其ノ輸出ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトニ制限シ「外國爲替管理法ニ關スル施行手續」第二條及第三條ニ於テ許可申請書ノ方式ヲ定メタルカ其ノ後外國爲替管理法ニ關スル施行手續ヲ改正スルコトナクシテ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條第一項ノ「……輸出シ又ハ其ノ豫備ヲ爲スコトヲ得ス」ト改正シタリト雖前記ノ如ク本法タル外國爲替管理法ニ於テ輸出ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ認ムル

ト雖其ノ準備行爲ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ命令ニ委ネ居ルモノニアラス法律カ輸出ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ命令ニ委ネ居ル場合或ハ命令ニ於テ許可ヲ受クル迄輸出ノ準備行爲ヲ禁シ之ニ對シ罰則ヲ附スルコトハ可能ナラムモ之ニ反シ本法ニ於テ輸出ノ準備行爲ニ對シ禁止又ハ制限ヲ認メ居ラサルニ命令ヲ改正シテ本法ノ罰則ヲ適用スルカ如キ許サルヘキモノニアラスト確信ス命令ニ於テ如斯準備行爲ノ豫備ヲ禁シタルハ大正六年大藏省令第二八號公布當時金貨幣ノ蒐集受ケル者多ク之ヲ檢舉シテ同省令ノ「金貨又ハ金地金ヲ輸出セントスル者ハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ……前項ノ規定ニ違反スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」違反ナリトシテ第一第二審共有罪ノ判決ヲ爲シタルニ對シ御院ハ破毀自判無罪ノ判決アリ其ノ後內務省令麻藥取締規則ヲ公布セルカ同規則第二十一條ニ「……輸出移出スル目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ」トノ規定ヲ設ケタル等ノ關係ヲ知ラス本件ノ本法及命令立案ニ當リ之ヲ除外シ法律及命令公布シテ後此ノ種行爲アルヲ知リ命令ニ豫備ヲ加ヘタル改正ヲ行ヒタルモノト察スルニ難カラス然レトモ前述ノ如ク本法ニ豫備ニ對スル禁止又ハ制限ヲ認メ居ラサルニ命令ノミ改正シテ本法ニ依ツテ之ヲ處罰シ得ヘキモノニアラスト信スルモノニシテ結局本命令ハ法律ノ定メタル範圍ヲ超越シタルモノナリト云フニ在レトモ被告人ノ所爲ハ幫助ナリ又ハ其ノ妻佐藤はなハ從業者ナリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ニシテ被告人カ佐藤はな等ト共謀シテ本件密輸出ヲ爲シタルコト上來説明シタルカ如シ故ニ右主張ヲ前提トシ

テ原判決ニ擬律錯誤ノ違法アルカ如ク云爲スルハ當ラサルモノトス然レトモ所論豫備ノ行爲ヲ處罰シ得ヘキヤ否ヤニ付案スルニ外國爲替管理法第一條ニハ金地金ノ輸出ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得ル旨規定シ之ニ違反シタルモノニ付テハ同第五條ニ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍カ一萬圓ヲ超過スルトキハ罰金ハ當該價格ノ三倍以下トスル旨ノ規定アルヲ以テ同法ハ處罰條件ノ全部ヲ自ラ規定セスシテ之ヲ命令ニ委任セルコト洵ニ明ナリ而シテ右委任サレタル命令ナル外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ニ依レハ大藏大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ金地金ヲ輸出シ又ハ其ノ豫備ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ規定アリテ密輸出ノ豫備ニ付テモ右罰條ニ依リ處罰シ得ヘキ旨ノ規定ヲ加ヘタルコト明ナリ仍テ裁判所カ裁判權ヲ行使スルニ當リ先ツ適用スヘキ法令ヲ審査シ得ヘキヤ否ヤヲ稽ヘ併セテ右密輸出ノ豫備ニ關スル規定カ委任サレタル法律ノ範圍内ナリヤ否ヤヲ案スルニ裁判所ハ法律ニ付テハ其ノ形式ニ於テ缺クル所ナキトキハ更ニ其ノ内容カ違憲ノモノナリヤヲ審査シ之カ適用ヲ拒ミ得ヘキモノニ非スト雖委任命令ニ付テハ雷ニ其ノ形式カ要件ヲ具フルヤ否ヤヲ審査スルニ止マラス其ノ内容ニ關シテモ適否ヲ審査シ得ヘキモノトス蓋委任命令ハ行政權ニ基ク意思表示ニシテ行政權ニ對シテハ裁判所ハ對等ノ地位ニ在リ其ノ解釋ニ服從スルモノニ非サレハナリ而シテ犯罪ノ豫備ハ罰スヘカラサルヲ原則トス之ヲ處罰セントスルトキハ特ニ規定ヲ設クヘキモノニシテ猥リニ比附援引スヘキモノニ非サル

## 【要旨】

コト言フ俟タス然ルニ右外國爲替管理法ニハ密輸出ノ豫備ヲ處罰スル規定ナク又之ヲ命令ニ委任シタリト見ルヘキモノナキニ拘ラス外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ニハ密輸出ノ豫備ヲモ加ヘテ之カ取締ヲ爲サントシタルハ委任ノ範圍ヲ超越シタル不法ノ命令ト謂ハサルヲ得ス然ラハ原判決カ被告人ニ金地金ノ密輸出ノ豫備アルモノト認メ右命令ノ件第一條ヲ適用シテ處斷シタル外沒收ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ違法アルト同時ニ辯護人ノ其ノ主張ニ對シ判斷ヲ示ササリシハ違法ニシテ本論旨ハ其ノ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス而シテ敍上破毀ノ理由ハ上告ヲ爲シタル共同被告人宇太郎ニ共通ナルヲ以テ同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決ノ認メタル第一ノ(一)及第二ノ(一)(イ)ノ事實ヲ法律ニ照スニ外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條第一項刑法第五十五條第六十條ニ該當シ尙被告人宇太郎ニ對シテハ第六十二條第一項第六十三條第六十八條第四號ニ依リ減輕シ各所定ノ罰金刑ヲ選定シ其ノ範圍内ニ於テ被告人篤一ヲ罰金八千圓ニ被告人宇太郎ヲ罰金五千圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人篤一ヲ二百五十日間被告人宇太郎ヲ二百日間勞役場ニ留置スルモノトス原判決ハ更ニ密輸出ノ豫備並其ノ幫助ニ付問擬スル所アルモ右ハ連續犯ノ一部トシテ審判サレタルモノナレ

ハ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス  
因テ主文ノ如ク判決ス  
檢事一木輞太郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第二七五七號 一部破毀自判)  
同十二年三月三日第五刑事部判決

【上告人】 被告人 西北勝良 辯護人 (牧野良三  
外二名 新川修三)

【第一審】 飯肥區裁判所 【第二審】 宮崎地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法第一百五條ニ所謂選舉運動ノ費用

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百五條ニ所謂選舉運動ノ費用トハ適法ナル選舉運動ノ費用ヲ指稱シ同法所定ノ犯罪ヲ構成スヘキ不適法ナル費用ハ之ヲ包含セス

用ハ之ヲ包含セス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百五條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシ

同法第八條 警察官吏ハ選舉ノ期日後何時ニテモ選舉事務長ニ對シ選舉運動ノ費用ニ關スル帳簿又ハ書類ノ提出ヲ命シ之ヲ検査シ又ハ之ニ關スル説明ヲ求ムルコトヲ得

同法第三十五條 左ノ各號ニ掲グル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタルトキ

(以下省略)

衆議院議員選舉法施行令第六十一條 選舉事務長ハ左ニ掲グル帳簿ヲ備フヘシ

一 承諾簿

二 評價簿

三 支出簿

同第六十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ選舉事務長ハ直ニ支出金額、其ノ用途ノ大要  
支出先及支出年月日ヲ支出簿ニ記載スヘシ

一 選舉事務長金錢ヲ以テ選舉運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキ

二 選舉事務長第五十九條第一項又ハ第六十條ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル

衆議院議員選舉法第一百五條ニ所謂選舉運動ノ費用

精算書ヲ作成シタルトキ

三 選舉事務長第六十二條第三項ノ規定ニ依リ金錢ノ支出ニ關スル承諾簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 選舉事務長前條ノ規定ニ依リ評價簿ノ記載ヲ爲シタルトキ

同第六十四條ノ二 承諾簿評價簿及支出簿ノ記載ハ内務大臣ノ定ムル様式ニ依ルベシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人西北勝良ヲ禁錮三月ニ被告人谷口與三松同神戸俊一ヲ各禁錮二月ニ各處ス訴訟費用ハ被告人西北勝良及谷口彌(第二審相被告人)ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人西北勝良ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル宮崎縣縣會議員選舉ニ際シ同月四日被告人津曲被夫ノ推薦届出ニヨリ立候補シタルモノナルトコロ

- 一 (一) 自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ右届出前ナル昭和十年八月二十一日宮崎縣南那珂郡榎原村高橋旅館ニ於テ被告人谷口與三松ヲ介シ被告人谷口彌ヲ會長トセル同郡細田村ノ振興會紀念祭開催名義ノ下ニ同被告人ヲシテ豫メ召集セシメ置キタル同會幹部ニシテ選舉人タル原審相被告人杉本倉千代 山下繁 古澤榊水 日高正身 田上秀男外三名ニ對シ被告人ニ當選ヲ得シムル爲選舉運動方ヲ依頼シ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ面接シ
- (二) 自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ前同日前同所ニ於テ被告人谷口與三松ト共謀シテ前記被告人谷口彌等ニ對シ敍上ノ選舉運動ノ報酬トシテ金四十圓ヲ供與シ

(三) 前同様ノ目的ヲ以テ被告人谷口與三松ト共謀ノ上前同様ノ届出前ナル同月二十七日被告人ノ肩書自宅ニ於テ被告人谷口彌ノ代理人トシテ情ヲ知レル被告人谷口政秋ノ案内ニテ被告人方ニ來リタル原審相被告人杉本倉千代ヲ通シ前記被告人谷口彌等ニ對シ前同様趣旨ノ下ニ金四十五圓ヲ供與シ以テ届出前ノ選舉運動ヲ爲シ

二 前同様ノ目的ヲ以テ

(一) 同年九月十六日被告人ノ選舉事務所ナル同縣同郡福島町島田旅館ニ於テ被告人神戸俊一ト共謀シテ被告人谷口彌及原審相被告人田上秀男ニ對シ同人等ニ對スル運動ノ報酬竝同縣同郡細田村各部落内有志ニ對シ選舉運動ヲ依頼スルカ爲ノ變應費トシテ金四十圓ヲ供與シ

(二) 同年同月十九日前同様被告人神戸俊一ト共謀シテ被告人津曲被夫ノ肩書居宅ニ於テ情ヲ知レル同被告人ノ手ヲ經テ被告人谷口彌及原審相被告人田上秀男ニ對シ前同様趣旨ノ下ニ金五十圓ヲ供與シ

三 自ら選舉事務長トナリナカラ制規ノ帳簿ニ右選舉運動ノ費用ヲ記載セス

第二 被告人與三松ト同年九月四日同候補ノ選舉委員トナリタルモノナルトコロ

- 一 被告人西北勝良ニ投票ヲ得シムルノ目的ヲ以テ前顯立候補届出前タル同年八月中旬頃ヨリ同年九月二、三日頃迄ノ間同郡榎原村選舉人立石左馬次同郡大東村選舉人吉國次方ヲ戶別訪問シ同郡榎原村中山三次郎方ニ於テ選舉人中山佐太郎ニ面接シ以テ一面届出前ノ選舉運動ヲ爲シ其ノ後同月五、六日頃前同様ノ目的ヲ以テ同郡福島町選舉人深江豐 森宜義方ヲ歴訪シ以テ戶別訪問ヲ爲シ
- 二 被告人西北勝良ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(一) 同被告人ト共謀ノ上其ノ立候補届出前ナル同年八月二十一日判示第一ノ一ノ(二)記載ノ如ク被告人谷口衆議院議員選舉法第五條ニ所謂選舉運動ノ費用

彌等ニ對シ運動報酬トシテ金四十圓ヲ供與シ

(二) 前同様被告人西北勝良ト共謀ノ上前同様届出前ナル同月二十七日判示第一ノ一ノ(三)記載ノ如ク被告人西北勝良原審相被告人杉本倉千代ヲ通シ被告人谷口彌等ニ對シ前同趣旨ノ金四十五圓ヲ供與シ以テ一面届出前ノ選舉運動ヲ爲シ

(中略)

第四 被告人神戶俊一ハ同年九月四日同候補ノ選舉委員トナリタルモノナルトコロ同候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人西北勝良ト共謀ノ上

一 同年九月十六日前記選舉事務所ニ於テ被告人谷口彌及原審相被告人田上秀男ニ對シ判示第一ノ二ノ(一)記載ノ如ク同人等ニ對スル運動報酬等トシテ金四十圓ヲ供與シ

二 同年同月十九日判示第一ノ二ノ(二)記載ノ如ク被告人津曲被夫方ニ於テ情ヲ知レル同被告人ノ手ヲ經テ右谷口彌田上秀男ニ對シ前同趣旨ノ金五十圓ヲ供與シ

(中略)

タルモノナリ

而シテ被告人西北勝良谷口與三松神戶俊一ノ各金錢供與ノ點ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人西北勝良ノ判示所爲中個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第九十九條ニ届出前ノ選舉運動ノ點ハ同府縣制法條及同選舉法第九十五條ノ二第九十九條ノ二金錢供與ノ點ハ各府縣制第四十條同選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第六十條ニ各該當スル處以上ハ連續犯ニシテ且一所爲數法ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ヲ總括適用シ最モ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從フヘ

ク選舉事務長トシテ制規ノ帳簿ニ運動費用ノ記載ヲ爲ササリシ點ハ府縣制第四十條同選舉法第三百三十五條第一號ニ該當スルヲ以テ夫々所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ前者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處スヘク被告人谷口與三松ノ判示所爲中個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第九十九條ニ戶別訪問ノ點ハ同府縣制法條及同選舉法第九十八條第一項第九十九條ニ届出前ノ選舉運動ノ點ハ同府縣制法條及同選舉法第九十五條ノ二第九十九條ニ金錢供與ノ點ハ府縣制第四十條同選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第六十條ニ各該當スルトコロ右ハ連續犯ニシテ且一所爲數法ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第五十五條第十條ヲ總括適用シ最モ重キ金錢供與罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク被告人神戶俊一ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ被告人西北勝良及谷口彌ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

被告人谷口與三松及神戶俊一ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

原判決中被告人西北勝良ニ關スル部分ハ之ヲ破毀ス

被告人西北勝良ヲ禁錮二月ニ處ス

訴訟費用ハ被告人西北勝良ト原審相被告人谷口彌トノ連帶負擔トス

被告人西北勝良ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル宮崎縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シ自ラ選舉

事務長トナリ同年八月二十一日ヨリ同年九月十九日迄ノ間ニ選舉運動ノ費用金百七十五圓ヲ支出シナカラ之ヲ制規ノ帳簿ニ記載セサリシモノナリトノ公訴事實ニ付テハ無罪

○理 由

各被告人辯護人牧野良三 新家猛 土川修三上告趣意書第二點原審判決ハ判示第一ノ二ノ(二)ニ於テ被告人ハ自ラ選舉事務長トナリナカラ制規ノ帳簿ニ右選舉運動費用ヲ記載セスト摘示シ法令適用ノ部ニ於テ右ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十五條第一號ニ該當スルヲ以テ禁錮刑ヲ選擇スヘシト判示シタリ右制規ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタリト云フ選舉運動費用ト云フハ判示第一ノ二ノ(一)及(二)掲記ノ事實ニシテ(一)ハ昭和十年九月十六日被告人西北勝良カ相被告人神戸俊一ト共謀シテ谷口彌及田上秀男ニ對シ同人等ニ對スル運動報酬竝細田村各部落内有志ニ選舉運動依頼ノ爲響應費トシテ金四十圓ヲ供與シタリト云フ事實ニシテ(二)ハ同年九月十九日前同趣旨ノ許ニ同人等ニ對シ金五十圓ヲ供與シタリト云フ事實ナリ若シ果シテ右認定事實ノ如クンハ本件支出ノ金員ハ選舉法上許サレサル違法ナル選舉運動ヲ爲ス爲ニ支出セラレタルモノナリト謂ハサルヘカラス抑々衆議院議員選舉法第五條ハ選舉事務長ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ帳簿ニ記載スヘキコトヲ命シ且同法施行令第五十八條以下ニ於テ夫々選舉運動費用ノ支出竝帳簿ノ記載ニ付規定シ又同第六十四條ニ於テハ「左ニ掲クル場合ニ於テハ選舉事務長ハ直ニ支出金額其ノ用途ノ大要支出先及支出年月日ヲ

支出簿ニ記載スヘシ」ト規定シテ夫々支出簿ニ記載スヘキ場合ヲ列舉スル處アリト雖右ハ何レモ選舉法上認メラルル適法ナル選舉運動費用ノ支出ニ關スルモノニシテ違法ナル選舉運動ノ爲ニスル不法ナル金錢ノ記載ヲ命シタルモノニアラサルヤ明ナリ即選舉法第五條同第三百三十五條第一號ノ規定ハ適法ナル選舉運動費用ヲ支出シナカラ之ヲ記載セサリシ場合又ハ違法ナル運動費用ヲ支出シタルニ拘ラス之ヲ他ノ適法ナル運動費用ヲ支出シタルカ如ク裝ヒテ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合或ハ適法ナル選舉運動費用ト雖其ノ支出ノ内容ニ付虛偽ノ記入ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ處罰スヘキ趣旨ニ外ナラス然ルニ原審判決カ前敍ノ如ク本件ノ金錢支出ヲ違法ナル支出ト認定シタルニ拘ラス尙之ヲ制規ノ帳簿ニ記載セサル罪トシテ處斷シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト謂ハサルヘカラスト云ヒ」第三點前項ニ述フル如ク本件ハ選舉法第三百三十五條第一號ヲ適用スヘカラサル事案ナルニ拘ラス原審判決ハ「選舉事務長トシテ制規ノ帳簿ニ選舉運動費用ノ記載ヲ爲ササリシ點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三百三十五條第一號ニ該當スルヲ以テ夫々所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ右ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ前者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處スヘキ」旨ノ判決ヲ爲シタルハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ審按スルニ府縣制第三十九條ニ依リ府縣會議員ノ選舉ニ準用セララルル衆議院議員選舉法第五條

衆議院議員選舉法第五條ニ所謂選舉運動ノ費用

ハ選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシト規定シ大正十五年勅令第三號衆議院議員選舉法施行令ハ其ノ第六十一條ニ於テ選舉事務長ノ備フヘキ帳簿トシテ支出簿其ノ他ヲ掲ケ其ノ第六十四條ニ於テ支出簿ニ記載ヲ爲スヘキ場合及記載事項ヲ定メ其ノ記載ヲ爲スヘキ場合ノ一トシテ選舉事務長金錢ヲ以テ選舉運動ノ費用ノ支出ヲ爲シタルトキヲ掲ケタルカ故ニ若シ縣會議員選舉ニ於ケル選舉事務長ニ於テ金錢ヲ以テ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルニ拘ハラズ支出簿ニ右施行令第六十四條所定事項ノ記載ヲ爲ササルトキハ府縣制第三十九條ノ衆議院議員選舉法第一百五條ノ違反トナリ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三十五條第一號ニ依リ處罰セラルヘキコト言ヲ俟タス然レトモ右衆議院議員選舉法第一百五條ニ所謂選舉運動ノ費用トハ適法ナル選舉運動即同法所定ノ制限ノ範圍内ニ於ケル選舉運動ニ付要シタル費用ヲ指稱セルモノニシテ之ヲ支出スルコトカ同法所定ノ犯罪ヲ構成スヘキ不適法ナル費用ノ如キハ之ヲ包含セサルモノト解スルヲ相當トス蓋右ニ反スル解釋ヲ採ランカ選舉事務長ニ對シ自己ノ犯罪ヲ犯シタルコトヲ支出簿(該帳簿ハ警察官吏ニ於テ選舉期日後何時ニテモ其ノ提出ヲ命シ又之ヲ檢査スルコトヲ得ルモノナルコトハ衆議院議員選舉法第八條ノ明定スル所トス)ニ記載スヘキコトヲ命シ之ニ從ハサルトキハ又其ノ所爲ヲモ犯罪ト爲シ之ヲ處罰スルコトトナルヘク斯ノ如キハ犯罪人ニ對シテ其ノ犯行ノ自白ヲ強イ自白ヲ爲ササルトキハ之ヲ罰スト云フト選フ所ナシ人情ニ反スル甚遠クシテ法律ノ精神ニ非サルコト明カナレハナリ故ニ縣會議員

## 【要旨】

選舉ニ於ケル選舉事務長ニ於テ選舉人ニ對シ選舉運動ヲ爲サムコトヲ依頼シテ其ノ報酬金ヲ供與シ又ハ他人ニ選舉運動ヲ依頼スル爲ノ響應費ヲ供與シタル場合ニ前掲衆議院議員選舉法施行令第六十四條所定ノ事項ヲ支出簿ニ記載セサレハトテ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第一百五條第三十五條第一號ヲ以テ問擬スヘキモノニ非サルコト言ヲ俟タス然ルニ原判決ニ依レハ原審ハ被告人勝良ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル宮崎縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シ自ラ選舉事務長トナリ原判決第一ノ一ノ(二)(三)ノ如ク原審相被告人谷口彌等ニ對シ同人等ノ選舉運動ノ報酬トシテ金員ヲ供與シ判決第一ノ二ノ(一)(二)ノ如ク右谷口彌及第一審相被告人田上秀男ニ對シ同人等ノ選舉運動ノ報酬及他人ニ選舉運動ヲ依頼スル爲ノ響應費トシテ金員ヲ供與シタルコトヲ制規ノ帳簿ニ記載セザリシ事實ヲ認定シ其ノ所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第三十五條第一號ノ犯罪ヲ構成スルモノトシ他ノ犯罪トノ關係ニ付刑法併合罪ノ規定ヲ適用處斷シタルモノナルコト明カニシテ即法律ノ解釋ヲ誤リ犯罪ト爲ラサル所爲ヲ犯罪トシ刑ヲ科シタルモノニシテ其ノ違法タルヤ勿論ナルノミナラス此ノ違法ハ原判決中同被告人ニ關スル部分ノ全部ニ影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ原判決中右部分ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明ノ通りニシテ被告人谷口與三松及神戸俊一ノ上告ハ孰レモ理由無キヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ之ヲ棄却スヘク被告人西北勝良ノ上告ハ論旨第二、三點ニ於テ理由アルモノナルヲ以



テ原判決中同被告人ニ關スル部分ハ此ノ點ニ基キ同法第四百四十七條ニ則リ之ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ從ヒ更ニ本院ニ於テ判決ヲ爲スヘキモノトス仍テ原審認定事實(但前敍罪ト爲ラサル原判示第一ノ三ヲ除ク)ニ於ケル被告人勝良ノ所爲ヲ法律ニ照スニ其ノ所爲中原判示第一ノ一ノ個々面接ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十八條第二項第二百二十九條ニ同上立候補前選舉運動ノ點ハ府縣制ノ右同法條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條ニ第一ノ一及二ノ金錢供與ノ點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第六十條ニ該當スル處右金錢供與ノ各所爲ハ連續犯ニ係リ又原判示第一ノ一ノ個々面接及金錢供與ト立候補前選舉運動トハ一所爲數罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十五條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シテ最モ重キ金錢供與罪ノ罪ニ從フヘキモノナルニヨリ其ノ所定刑中ノ禁錮ヲ選擇シ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人勝良ヲ禁錮二月ニ處スヘク尙刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ依リ同被告人ヲシテ原審相被告人谷口彌ト連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシムヘク被告人勝良ニ對スル起訴事實中同被告人ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル宮崎縣縣會議員選舉ニ際シ立候補シ自ラ選舉事務長トナリ同年八月二十一日ヨリ同年九月十九日迄ノ間ニ選舉運動ノ費用金百七十五圓ヲ支出シナカラ制規ノ帳簿ニ其ノ記載ヲ爲サストノ點ニ付テハ論旨第二、三點說明ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事一木輔太郎關與

○恐喝被告事件

(昭和十一年(れ)第三〇四一號  
同十二年三月三日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 柳原正春 辯護人 富田數雄

【第一審】 松山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

職業ヲ背景トスル恐喝罪

○判決要旨

興信所又ハ新聞業者カ銀行會社等ノ關係者ニ對シ諸種ノ口實ノ下ニ金員交付方ヲ要求スル行爲カ獨立シテ關係者ヲ畏怖セシムルニ

職業ヲ背景トスル恐喝罪

足ラサル場合ニ於テモ右職業ヲ背景トスルトキハ兩者相俟テ銀行  
會社ノ信用業務等ヲ害スルニ至ルカ如キ畏怖ノ念ヲ生セシムルニ  
足ルモノナルヲ以テ恐喝行為ナリト云フヲ妨ケス

【参照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲  
役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同  
シ

● 事 實

原判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス但第一審未決勾留日數中  
百五十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

當審ニ於テ認定シタル事實ハ第一審判決摘示ノ事實ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ引用ス

第一審ノ認定セル事實左ノ如シ

被告人ハ昭和三年三月頃ヨリ松山市ニ於テ關西興信所ヲ開設シ且其ノ機關紙トシテ月刊新聞關西興信内報ヲ自ラ編輯  
發行シ之ヲ主トシテ愛媛縣下ニ頒布シ來リシカ右興信所營業カ依頼者ノ爲個人又ハ會社ノ資産信用狀態等内債報告ヲ  
爲スニアルノミナラス其ノ機關紙ヲ有スルコトヲ利用シテ之ヲ背景トシ銀行會社等ノ關係者ニ對シ諸種ノ口實ノ下ニ  
金員交付方ヲ要求シ之ニ應セサルトキハ其ノ信用業務等ヲ毀損スルニ至ルカ如キ行為ニ出ツルヤモ計ラレサルモノト

畏怖セシメ因テ金錢ヲ喝取センコトヲ企テ

第一 松山市三番町株式會社五十二銀行ニ付

(イ) 昭和六年三月二十日過頃同銀行ニ到リ同行支配人片山勝次郎ヲ介シ同行頭取石原操ニ對シ右新聞後援金交付  
方ヲ要求シ因テ同人ヲシテ右要求ニ應セサルトキハ被告人ニ於テ其ノ業務ヲ利用シテ同行ニ如何ナル不利益ヲ與  
フルコトアルヤモ測ラレスト懸念畏怖セシメ因テ同年同月二十八日同銀行ニ於テ同行ヨリ後援金名義ノ下ニ金二  
百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ロ) 昭和七年一月十四日右關西興信内報第十七號(押收ノ證第十一號)紙上ニ五十二銀行株主ニ與フト題シ同行  
ハ預金減少シ資産ノ價值低下セルニ拘ラス依然年八分ノ株主配當ヲ持續セントスルハ同行ノ將來ヲ危クスルモノ  
ナル旨及同行ノ不良貸付額ハ多額ニ上リ且其ノ出張所主任ハ數年間ニ互リ多額ノ行金ヲ費消シタル旨同行ノ信用  
ヲ毀損スヘキ記事ヲ掲載印刷シ其ノ發行前同日松山市出淵町同行支配人北野徳久方ニ到リ同人ニ之ヲ手交シ同人  
ヲ介シテ石原頭取等ニ閱讀セシメ次テ翌十五日被告人肩書居宅ニ於テ同行副支配人林直徳ヲ介シ右頭取等ニ對シ  
其ノ頒布中止ヲ條件トシテ被告人カ同行ヨリ受クヘキ自己ノ興信所ニ對スル會員加盟等ノ前借ニ名ヲ藉リ金二千  
百圓交付方要求シ因テ右頭取等ヲシテ之ニ應セサルトキハ該新聞ヲ其ノ儘發行頒布セラルルニ至リ著シク同行ノ  
信用ヲ失墜スヘキ旨懸念畏怖セシメタル結果同日同行ヨリ金千六百八十圓ヲ交付ス可キ旨約諾セシメ其ノ頃被告  
人肩書居宅ニ於テ其ノ半額ヲ次テ同年五月九日頃松山市湊町所在同銀行出張所ニ於テ其ノ殘額ヲ何レモ林直徳ノ  
手ヲ經テ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ハ) 同年五月十五日頃同行頭取石原操ニ對シ書信(證第二號)ヲ以テ同行ノ株式カ不良株式店ノ惡宣傳ニ依リ市  
場ニ多量流出處分セラレ居ル旨申送り且同日付書面ヲ以テ「自己ノ興信所開業五週年ヲ自祝致慶キニヨリ同行ヨ

リ祝賀廣告ヲ掲載セラレ度ク廣告料ハ金百五十圓ト定メ居ル旨申込ミ因テ右石原頭取ヲシテ判示第一(イ)事實ト同様ニ畏怖セシメタル結果同年六月三十日同行ニ於テ支配人ヲ介シ同行ヨリ興信所開業五週年祝賀廣告料名義ノ下ニ金百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ニ) 同年七月十三日同行石原頭取ニ對シ書信(證第四號)ヲ以テ被告人ニ於テ上京シ度キニ付上京費トシテ銀行又ハ同頭取個人ヨリ金三百圓貸與サレ度ク若シ應セララルトキハ上京不在ト爲ルヘキニ付近日開催セラルヘキ同行株主總會ニハ缺席シ且自己ノ手許ニ存スル株式三株ノ委任狀ヲ送付スヘキモ借入不可能ノ場合ニハ上京計畫ヲ中止スヘキ旨申送り以テ右金員ヲ供與セサルニ於テハ被告人外二名ハ同行株主トシテ近ク開催セラルヘキ該株主總會ニ出席シ其ノ議事ヲ攪亂スヘキコトヲ暗示シ貸借ニ藉口シテ金員交付ヲ要求シタルモ同頭取ニ於テ之ニ回答ヲ爲ササリシ爲同年七月十九日同行樓上ニテ開カレタル株主總會ニ出席シ減配問題ニ付キ石原頭取等ヲ非難攻撃シ且右總會終了後同年八月二日ヨリ約一週間ニ互リ連日同行ニ到リ株主名簿ノ閱覽ヲ求メタル上松田稔及同人家族名義ノ株式取得ニ付不正アリトシ其ノ頃石原頭取及支配人ニ對シ書信ニ依リ之ヲ詰問シ因テ操等ヲシテ被告人ニ相當金員ヲ交付スルニ非サレハ同行ノ信用ヲ害スヘキ行爲ヲ採ルニ至ルヘキコトヲ暗示シ來リシヨリ當時此ノ事ヲ聞知シタル野本氏久ニ於テ被告人ト石原頭取等ノ間ヲ折衝シ其ノ調停ヲ爲サント試ミタルニ被告人ハ其ノ頃肩書自宅ニ於テ氏久ニ對シ右五十二銀行ヨリ金二千圓交付ヲ要求セシニヨリ氏久モ遂ニ其ノ調停ヲ斷念シ之カ爲被告人ハ更ニ同年八月二十日關西興信内報第二十一號(證第十五號)紙上ニ敍上株式取得ノ件ニ付「株式會社〇〇〇〇ノ自行株式取得ニ絡ル重大事件ハ次號ニ發表」スヘキ旨ノ豫告記事ヲ掲載シ超ヘテ同月二十六日石原頭取ニ商法違反ノ所爲アリトシテ松山區裁判所檢事局ニ告發シ且其ノ告發ニ先チ其ノ頃同行取締役同市北柳井町宮内安恭方ニ於テ同人ニ對シ故ラニ右告發ノ意圖ヲ告ケ同行重役等ヲ憂慮セシメ置キタル後同年九月十四日右宮内

方ニ於テ同人ニ對シ同行ヨリ貸借名義ヲ以テ金二千五百圓交付ヲ要求シタルモ重役會ノ決議ニ依リ之ヲ拒絕セラレタルヲ以テ更ニ同年九月十七日右宮内安恭ニ對シ書面(證第七十七號)ヲ以テ同行ノ自己株式取得ノ件ヲ新聞又ハパンフレットニ依リ社會ニ公表スヘキ旨申送り翌十八日右宮内方ニ於テ同人並同人ヲ介シ石原頭取等ニ關西興信所出張所開設費トシテ同行ヨリ二千圓程度ヲ貸與セラレ度キ旨申込ミ因テ之ニ應セサルトキハ右新聞又ハパンフレットニヨリ自行株式取得事實ヲ公表スヘキ旨ヲ暗示シ之カ爲同行頭取等ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果遂ニ同年十月四日右宮内方ニ於テ同人ノ手ヲ經テ同行ヨリ金千三百圓ヲ交付ヲ受ケテ之ヲ喝取シ

(ホ) 昭和八年七月十日頃同行ニ到リ同行庶務課長八木常市郎ヲ介シ石原頭取ニ對シ興信錄發行後援資金ヲ交付セラレ度キ旨申入レ因テ操ヲシテ第一事實ノ(ハ)ト同様ニ畏怖セシメタル結果同年同月十七日同所ニ於テ同行ヨリ其ノ後援資金名義ノ下ニ金三百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ヘ) 昭和九年四月二十日過頃同所ニ到リ前記片山支配人ヲ介シ石原頭取ニ對シ前掲新聞創刊七週年祝賀金交付ヲ要求シ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果同年五月一日同所ニ於テ同行ヨリ右祝賀資金名義ヲ以テ金八十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ト) 昭和十年一月七、八日頃同行ニ到リ同行片山支配人ヲ介シ石原頭取ニ廣告料名義ヲ以テ同行ヨリ金員交付ヲ要求シ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果同年一月十五日同行ニ於テ同行ヨリ廣告料名義ノ下ニ金二百十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(チ) 昭和八年四月以降昭和十年四月迄ノ間數回ニ互リ同行ニ於テ片山支配人及副支配人原正義ヲ介シ石原頭取ニ對シ借用名義ニテ同行ヨリ金員交付ヲ要求シ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果各其ノ頃同所ニ於テ同行ヨリ信用貸借名義ノ下ニ三回ニ合計金一千一百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

職業ヲ背景トスル恐喝罪

第二 同市所在株式會社愛媛農工銀行ニ付

(イ) 昭和八年七月末頃同行支配人西澤定義ニ對シ興信錄ヲ發行スルニ付後援資金約三百圓交付アリ度キ旨申入レ  
同人ヲシテ前同様畏怖セシメ因テ同年八月二日同所ニ於テ同行ヨリ該後援金名義ノ下ニ金百五十圓ヲ交付セシメ  
テ之ヲ喝取シ

(ロ) 同年十一月初頃前同所ニ於テ右西澤支配人ニ對シ興信錄發行後援資金ノ追加交付アリ度キ旨申入レ因テ同人  
ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果同年同月四日同所ニ於テ同銀行ヨリ右追加後援金名義ノ下ニ金七十圓ヲ交付セ  
シメテ之ヲ喝取シ

(ハ) 昭和九年五月十四日前同所ニ於テ右西澤支配人ニ對シ被告人ノ興信所開設七週年祝賀金ヲ交付アリ度キ旨申  
入レ因テ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果翌十五日前同所ニ於テ同行ヨリ該祝賀金名義ヲ以テ金五十圓ヲ交  
付セシメテ之ヲ喝取シ

第三 今治市所在株式會社今治商業銀行ニ付

(イ) 昭和八年五月二十二日同行ニ到リ常務取締役丹下辰世ニ對シ信用名義ヲ以テ金員交付方ヲ要求シ同人ヲシテ  
前同様畏怖セシメタル結果即時同所ニ於テ貸借名義ヲ以テ同行ヨリ金三百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ロ) 昭和八年七月十三日同銀行ニ到リ庶務主任矢野玄之助ヲ介シ前記丹下常務取締役ニ對シ興信錄ヲ發行スルニ  
付其ノ後援金トシテ同行ヨリ約二百圓ノ援助アリ度キ旨申入レ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果即日同所ニ  
於テ同行ヨリ金百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ハ) 昭和九年六月二日前同所ニ於テ前記矢野庶務主任ヲ介シ丹下取締役ニ對シ被告人ノ興信内報創刊七週年ニ達  
シタルニ依リ其ノ祝賀金トシテ同行ヨリ金百圓交付アリ度キ旨申入レ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果同日

同行ヨリ右祝賀廣告料名義ニテ金七十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ニ) 中略

(ホ) 同年六、七月頃同行頭取八木龜三郎ハ其ノ職ヲ辭シタルモノナル處同行ハ昭和二年休業後右八木頭取等ノ努  
力ニヨリ開店小康ヲ得タル折柄右頭取ノ辭任ニヨリ預金者ハ同行ノ將來ニ付多少ノ不安ヲ感シ居リシ爲同行株主  
等ハ後任頭取ヲ熟慮詮衡中ナリシカ當時其ノ候補者ノ一人ナリシ前記丹下辰世ハ同行重役間ニ同人ノ頭取就任ヲ  
希望セサル者アルヲ考慮シテ此ノ際自ラ頭取ニ就任スルヲ避ケ八木龜三郎ノ復任又ハ他ノ候補者推薦ニ盡力シ居  
タルヲ奇貨トシ被告人ハ右ノ情勢ヲ利用シ後任頭取推薦座談會開催ニ藉口シ同行當局者ヲ困惑畏怖セシメテ同行  
ヨリ金員ヲ喝取センカ爲同年十月初頃右丹下常務取締役ヲ後任頭取ニ推薦スル爲株主座談會ヲ開催セントスル趣  
旨ノ同行株主ニ對スル案内書(證第二十一號ノ二第五十四號第六十六號)ヲ印刷ノ上其ノ一部ヲ前記矢野玄之助  
ニ送付シ同人ヲ介シ之ヲ辰世等ニ傳ヘシメ因テ同人等ヲシテ斯ル座談會ヲ開催セハ預金者カ同行ノ信用ニ付有ス  
ル不安ノ念ヲ刺激スルニ至ルモノト懸念畏怖セシメタル結果辰世ヨリ玄之助ヲ介シ其ノ中止方ヲ求メ來ルヤ被告  
人肩書居宅ニ於テ玄之助ニ對シ其ノ中止ヲ條件ニ金三百圓ノ交付方要求シ因テ辰世等ヲシテ前同様畏怖セシメ同  
年十月八日同行ニ於テ同行ヨリ金二百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ヘ) 同年十月末頃後任頭取問題ニテ上京中ノ丹下常務取締役ヲ其ノ宿舍ナル東京市日本橋區本町上總屋旅館ニ前  
後三回訪問シ補助ニ該頭取問題ニ容喙シタル上自己ノ興信所ニ對スル同行ノ加盟料増額ニ名ヲ藉リテ金圓ノ供與  
方申込ミ因テ同人ヲシテ判示第一(イ)事實ト同様ニ畏怖セシメタル結果同年十一月四日右旅館ニ於テ辰世ヨリ  
被告人上京旅費名義ノ下ニ同行行金百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第四 松山市所在株式會社伊豫相互貯蓄銀行ニ付

職業ヲ背景トスル恐喝罪

(イ) 昭和八年七月三十日同行ニ於テ常務取締役大野悌ニ對シ興信錄發行後接金トシテ約百圓供與セラレ度キ旨要求シタルニ因リ悌ニ於テ金錢交付ヲ強要スルトキハ警察ノ問題トナル旨答フルヤ警察ニ申告スルナラセヨ警察ハ引張ラレタラ一層度胸カ出來テ結構タ復タ出テ來テ思ヒ通りノ事ヲシテ遣ルト申向ケ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果其ノ翌三十一日肩書被告人居宅ニ於テ同行ヨリ金五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ロ) 昭和九年九月十九日同行ニ於テ右悌ニ對シ義ニ興信錄發行資金トシテ交付ヲ受ケタル金五十圓ハ同銀行トシテノ出金ナレハ此ノ際貴下自身ヨリモ金員ノ供與アリ度キ旨要求シテ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果即時同所ニ於テ同銀行ヨリ金二十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第五 昭和八年五月三十一日同縣喜多郡大洲町所在株式會社大洲銀行ニ到リ其ノ支配人小野三郎ニ面會ヲ求メタルニ拒絶セラルルヤ直ニ同町ノ株式店ニ於テ同行株式二株ヲ購求シテ同日再ヒ銀行ニ到リ右株式名義書換ヲ求メ且右支配人ニ對シ「君ノ銀行ノ株ヲ二株買ツタカ別ニ株主ニ成リ度クテ買ツタモノテハナイ銀行ノ内部ノ取扱ヲ取調ヘレハ良イノタ而シソレモ本當ノ目的アハナイ」ト申向ケ且金三百圓ヲ貸付名義ニテ供與方要求シタルモ三郎ヨリ之ヲ拒絶セラルルヤ更ニ翌六月一日同行ニ到リ株主名簿貸借對照表損益計算書等ノ閱覽ヲ求メ且前記支配人ニ對シ前日同様三百圓ノ貸與方要求シテ右要求ニシテ容レラレサルニ於テハ株主トシテ同行ノ内容ヲ調査シタル上株主總會ニ出席シテ之ヲ攪亂スヘキ氣勢ヲ示シ同人ヲシテ其ノ旨畏怖セシメ因テ六月一日同所ニ於テ同行ヨリ金二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第六 同年六月十一日同縣西宇和郡八幡濱所在株式會社八幡濱商業銀行ニ到リ其ノ常務取締役菊池昌幸ニ對シ貸借名義ニテ金二百圓供與方要求シ同人ヲシテ判示第一(イ)事實ト同様畏怖セシメ因テ其ノ翌十二日同町鍋屋旅館ニ於テ同行ヨリ貸借名義ニテ金百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第七 同年七月一日同縣同郡川之石町所在第二十九銀行ニ於テ其ノ專務取締役三谷良ニ對シ興信錄發行後接金トシテ約百圓供與セラレ度キ旨申入レシモ當時良ニハ所用ニテ八幡濱市ニ赴クヤ被告人ハ之ニ隨ヒテ同市ニ到リシヨリ良ニハ同日同行八幡濱支店長ニ命シ金三十圓ヲ被告人ノ許ニ持參セシメシニ被告人ハ其ノ金額ヲ不服トシテ更ニ良ニハ同市市役所ニ訪ネ百圓乃至二百圓ノ交付方要求シ之ヲ拒絶セラルルヤ「ヨウシ」ト怒號シテ立上リ脅迫的態度ニ出ツル等執拗ニ金員交付ヲ強要シ因テ同人ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果即日同市鍋屋旅館ニ於テ同行ヨリ右後接金名義ノ下ニ金五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第八 昭和九年八月二十日前掲株式會社八幡濱商業銀行株式會社第二十九銀行及株式會社大洲銀行ノ三銀行合併ノ上株式會社豫州銀行設立セラレタルカ

(イ) 同年五月二十日當時合併ノ準備ヲ進メ居タル前記三銀行ヲ順次歴訪シ第二十九銀行ニ於テハ專務取締役三谷良ニハ八幡濱商業銀行ニ於テハ取締役菊池昌幸大洲銀行ニ於テハ頭取村上莊三ニ對シ各從來ハ右三行ヨリ後接金ノ交付ヲ受ケ居タルモ合併成立ノ上ハ一行ノミヨリ援助ヲ受クルニ過キサルヲ以テ最後ノ感謝ヲ受ケ度シト申入レ右三行ヨリ一行二百圓位宛ノ割合ニ依ル金員ノ交付方要求シタルモ何等ノ回答ナカリシヨリ更ニ右三行合併ヲ付議スヘキ株主總會ノ開催前ナル同年六月十一日頃八幡濱商業銀行ニ到リ菊池專務取締役ニ對シ後接金支出ニ關スル回答ヲ促シ且其ノ要求ニ應セサルトキハ當時同地方ノ一部人士間ニ敍上三行合併反對者アリタルヲ利用シ合併成立妨害ノ舉ニ出ツヘキ事ヲ暗示シ同人ノ手ニ依リ他ノ二行ニ協議セシメタル結果右三銀行ノ前記取締役ヲ前同様畏怖セシメ因テ同日八幡濱市鍋屋旅館ニ於テ高橋英吉ヲ介シテ前記三行ヨリ合計金二百五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ロ) 昭和九年八月三十日八幡濱市株式會社豫州銀行ニ到リ同行頭取佐々木長治及同行取締役兼支配人菊池昌幸ニ

對シ同行並同行頭取個人ヨリ興信所ノ會員加盟料等ノ名義ヲ以テ金員交付方ヲ同時ニ要求シ右兩名ヲシテ判示第一ノ(イ)事實揭記ト同様畏怖セシメ因テ即日同所ニ於テ前記加盟料名義ノ下ニ同行ヨリ金百圓同頭取個人ヨリ金五十圓ヲ各交付セシメテ之ヲ喝取シ

第九 昭和八年六月二十日頃同縣温泉郡三津濱町所在株式會社三津濱銀行ニ到リ同行支配人木村又三郎ニ對シ同行ヨリ貸借名義ヲ以テ金三百圓ノ交付方要求シタルモ拒絕セラルルヤ即日同行ノ株式一株ヲ購入シテ其ノ名義書換ヲ爲シタル上連日ニ互リ株主名簿定款等同行ノ書類閱覽ヲ求メタル上同年九月二日右支配人ニ對シ興信錄發行後援金名義ヲ以テ金員ノ交付方強要シ同人ヲシテ前同様畏怖セシメ因テ即時同所ニ於テ同行ヨリ金五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第十 昭和八年七月二十九日松山市所在株式會社伊豫銀行ニ到リ同行頭取新野伊三郎ニ對シ興信錄發行後援金名義ヲ以テ金員交付方要求シ同人ヲシテ前同様畏怖セシメ因テ即日同所ニ於テ同銀行ヨリ金五十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

第十一 今治市所在今治無盡株式會社ニ付

(イ) 昭和七年十一月中右會社ニ到リ社長村上七三一ニ對シ自己ノ興信所ノ加盟料金百圓口ノ會員ニ加入方ヲ申入レ拒絕セラルルヤ右金員喝取ノ目的ヲ達センカ爲同年十一月三十日及昭和八年一月一日發行ノ關西興信內報今治版(證第七十四號第七十六號)ヲ通シ同會社社長村上ノ名譽信用ヲ毀損スヘキ記事ヲ自ラ執筆掲載シテ發行シ因テ七三一ヲシテ前同様畏怖セシメタル結果遂ニ同年二月二十一日頃今治市住榮町關西興信所今治支局ニ於テ同會社ヨリ原田光三郎ヲ介シ金四十圓ヲ交付セシメテ之ヲ喝取シ

(ロ) 昭和八年四月二日右會社ニ於テ前記村上社長ニ對シ借用名義ヲ以テ金五十圓ノ供與方要求シ同人ヲシテ前同

様畏怖セシメタル結果即時同所ニ於テ同會社ヨリ金五十圓ヲ貸借名義ノ下ニ交付セシメテ之ヲ喝取シ

タルモノニシテ以上ノ各所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ孰レモ刑法第二百四十九條第一項ニ該當スルトコロ判示第八ノ(イ)及(ロ)ハ各一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ夫々同法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ犯情重キ(イ)ハ八幡濱商業銀行ニ對スル恐喝罪(ロ)ハ豫州銀行ニ對スル恐喝罪ノ刑ニ從フヘク以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ所定期刑ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷シ原審未決勾留日數ノ本件算入ニ付同法第二十一條訴訟費用ノ負擔ニ付刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ主文ノ如ク判決ス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人富田數雄上告趣意書第一點原審判決ハ(但第一審判決摘示ノ事實及證據ヲ引用セリ)本件被告ノ行爲ニ付恐喝罪ノ成立ヲ認メ其ノ理由トシテ被告カ昭和三年三月頃ヨリ關西興信所ト稱シテ仲介業ヲ營ミ同時ニ關西興信內報ナル月刊新聞ヲ發行シ之ニ對スル被害者ノ心情ヲ利用シ該新聞及興信所ヲ背景トシテ銀行會社ノ幹部ヲ畏怖セシメ種々ノ名義ノ下ニ金員ノ交付ヲ爲サシメタリト言フニアリ然レトモ恐喝罪ニ於テ被害者ノ畏怖及被告ノ行爲タル害惡ノ告知ハ共ニ缺クヘカラサル成立要素タルト同時ニ又被害者ノ畏怖ハ必ス被告ノ害惡ノ告知タル行爲ヲ原因トシ其ノ結果トシテ生シタル畏怖ナラ

職業ヲ背景トスル恐喝罪

サルヘカラス然ルニ原審判決ハ被害者ノ畏怖ハ實ニ被告カ關西興信所ナル仲介業ヲ營ムコト及被告カ關西興信内報ナル月刊新聞ヲ發行シ居ルコトニ對シ之カ被害者等ノ脅威ノ的ト爲リ居リタル處被告カ之ヲ利用シタリト言フニアリテ被害者ノ畏怖ニ非スシテ被害者カ被告ノ職業ニ對スル一種ノ敬遠的思想ヲ有シタルニ過キス而シテ一般社會通常ノ事例ヨリスルモ諸般ノ職業中一般人カ好感ヲ以テ迎フル職業ト一定ノ範圍ニ之ヲ敬遠セラレツアル職業トアルハ勿論又辯護士カ債務者ニ對スル如ク其ノ職業ニ對スル立場ノ異ルニヨリテ之ヲ忌遠スルコトモ亦認メサルヲ得サル處ニシテ斯ル職業關係ヨリ生スル一般人ノ畏怖ノ如キハ之ヲ以テ恐喝罪ノ構成要素タル被害者ノ畏怖ト認ムヘキニ非ス假ニ被告カ之ヲ利用シタリト認メラルヘキ行爲アリトスルモ其ノ利用行爲ニヨリテ更ニ右職業ニ對スル畏怖ノ外ニ具體的ニ畏怖ノ念ヲ生セシメタル事實アルコトヲ要スヘキナリ此ノ點ニ付原審カ一般職業ノ念ヲ有シタルコトヲ以テ恐喝罪ノ構成要素タル所謂畏怖ナリトシ之ヲ利用スルモ亦恐喝ナリト斷定シテ判決シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルモノナリト云ヒ』第一點(イ)尙恐喝罪ノ成立ニハ常ニ被告ノ行爲ハ被害者ニ對スル生命身體自由名譽又ハ財産ニ對スル害惡ノ告知ナラサルヘカラス然ルニ原審ハ被告カ金員ノ要求ヲ爲シタル點マテヲ判示スレトモ其ノ要求カ如何ナル理由ニヨリテ被害者ニ對シ害惡ノ告知ト爲ルヤノ點ニ付理由ヲ掲ケス即判示第一ノ(イ)ニ於テハ被告人カ新聞後援名下ニ金員交付方ヲ要求シタルコトヲ認ムト雖一步進シテ其ノ後援金要求ヲ以テ何カ故ニ害惡ノ告知行爲ト認ムヘキ

カニ付理由ヲ缺キ直ニ之ヲ以テ被害者ヲシテ畏怖セシメタリトセルハ理由不備ノ判決ナリト言ハサルヘカラス蓋前段第一ニ陳フルカ如ク被告ノ職業ニ對シ本件ノ場合被害者カ嫌疑ノ念ヲ有スルコトヲ以テ一種ノ畏怖ナリト前提シテ右ノ理由不備ヲ歸納的ニ推測スルニ於テハ其ノ間何等理由不備ヲ發見シ得サルモノノ如シト雖斯ル職業關係ニ於テ生スル一般ノ嫌疑的心理ハ以テ恐喝罪ニ所謂畏怖ノ念ニ非スト爲ス以上被告カ被害者ニ對シ新聞後援ノ爲金員ヲ要求シタル行爲其ノモノカ何カ故ニ之ヲ害惡ノ告知行爲ト認ムヘキヤノ理由ヲ付セサルヘカラス(ロ)尙原審判決第一ノ(ロ)ニ於テモ亦然リ被告ノ行爲ハ單ニ祝賀廣告料トシテ金百五十圓ノ交付アリタキ旨申送リタリト言フニアリテ被告ノ行爲其ノモノニ於テ觀察スルトキハ一般通念上何等信用ヲ毀損スル虞レアルモノト思惟スヘキ行爲ニ非サルニ不拘之ヲ以テ直ニ銀行ノ信用ヲ毀損セラルルノ虞レアリト思惟スルニ足ルヘキ行爲ナリト斷定スルニハ其ノ間之ニ對スル行爲ノ違法性ニ付理由ヲ付セサルヘカラス尙原審判示第一ノ(ハ)ノ事實ニ付テモ亦被告カ五十二銀行石原頭取ニ對シ金三百圓ノ上京旅費ノ貸與方ヲ申入レ若シ上京旅費ヲ得ルニ於テハ被告ハ上京シテ不在ナルニ付株主總會ニ缺席スル旨ヲ告ケタリト云フニアリ是亦其ノ行爲自體ノ違法性ニ付何等理由ヲ附セス(ハ)殊ニ右行爲ハ同銀行ニ於テ應セサリシ爲未遂ニ終リタルモノニシテ被告ノ所爲ニ基キ被害者ハ畏怖ノ結果ヲ生シ居ラサルコト明ナルニ不拘之ニ對シ恐喝罪ノ成立ヲ認メ被告ノ行爲ノ違法性ニ對スル理由ヲ遺脱シ且被害者カ畏怖セサリシ爲之ニ應セサリシコトノ反

對事實ヲ看過シ却テ之ヲ恐喝ノ未遂事實ナリト認定シタルハ自家撞著ノ結論ニシテ判決理由ノ齟齬アルモノナリ(ニ)尙原審判決示第一ノ(ヘ)ノ事實ノ如キ被告ハ被害者ニ對シ既ニ商法違反行爲アリトシテ松山區裁判所檢事局ニ對シ告發ヲ爲シ居リタルモノニシテ被告ノ告發行爲ハ刑事訴訟法第二百六十八條ニ基ク權利行爲ナリ而シテ假ニ被害者カ被告ノ告發ニヨリ畏怖ノ念ヲ生シタリトスルモ右ハ被告ノ權利行爲ニ基キ其ノ反射的結果トシテ生スル當然ノ歸結ニシテ被告ノ違法性アル結果ニ非ス從來權利行爲カ恐喝又ハ脅迫ノ罪ヲ構成セサルコト屢々御廳ノ判示セララルル處ニシテ被告ノ本件事實ヲ以テ恐喝罪ノ成立ヲ認メタル原審ハ即告發タル被告ノ權利行爲ト之ニ基ク被害者ノ畏怖トヲ結合シテ之ヲ處罰セントスルモノニシテ即權利行爲ニ對スル恐喝罪ノ成立ヲ認ムルニ至リ法律ヲ不法ニ適用シタルモノニ外ナラス(ホ)原審判決示第一ノ(チ)興信錄後援資金三百圓ノ交付ヲ申入レタル行爲及同第一ノ(チ)新聞刊行七週年ノ祝ヒ金八十圓ノ交付ヲ受ケタル被告ノ行爲同第一ノ(ヌ)決算廣告料及普通廣告料ヲ合セ金二百十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲及借用名義ニヨル千百五十圓ノ交付ヲ受ケタル被告ノ行爲並原審判決示第三ノ(イ)愛媛農工銀行ヨリ興信錄發行ノ後援資金百五十圓ノ交付ヲ受ケタル被告ノ行爲同第二ノ(ロ)前同銀行ヨリ追加後援金名下金七十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲同第二ノ(ハ)興信所開設七週年記念祝賀金五十圓ノ供與ヲ受ケタル行爲及原審判決示第三ノ(イ)今治商業銀行ニ於テ興信錄發行ノ後援金百圓ノ交付ヲ受ケタル行爲同第三ノ(ロ)興信錄七週年記念祝賀金

及廣告料名義金七十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲同第三ノ(ハ)同銀行丹下常務ヨリ興信錄發行ノ追加後援金五十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲同第三ノ(ヘ)ノ貸借名義ニテ三百圓ノ交付ヲ受ケタル行爲及原審判決示第四ノ(ロ)伊豫相互貯蓄銀行ニ付常務取締役大野悌ヨリ興信錄發行ニ付金二十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲原審第五大洲銀行ニ於テ新聞後援金二百圓及株代金六十圓ノ交付ヲ受ケタル被告ノ行爲原審第六ノ八幡濱商業銀行ニ於テ金一百五十圓ヲ借受ケタル行爲原審第七ノ二十九銀行ニ於テ興信錄發行ノ後援金五十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲原審第八ノ(ロ)豫州銀行ニ於テ興信所加盟料及新聞廣告料合計一百圓ノ交付ヲ受ケタル行爲同第八ノ(ハ)同銀行頭取佐々木長治ヨリ後援金五十圓ノ供與ヲ受ケタル行爲原審第九ノ三津濱銀行ニ於テ興信錄發行後援金五十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲原審第十ノ伊豫銀行ニ於テ興信錄發行後援金五十圓ノ交付ヲ受ケタル行爲原審第十一ノ(ロ)今治無盡株式會社ニ於ケル金五十圓ノ借受行爲以上ノ行爲ハ何レモ行爲自體ニ於テ何等違法性ナキ行爲ナルニ原審判決ハ之ヲ以テ直ニ恐喝ノ要素タル害惡ノ告知行爲ナリトシ之ト前第一點ノ處ニ於テ陳フルカ如キ被害者ノ職業的嫌遠ノ心情トヲ結合シテ之ヲ恐喝ナリト認定シタルモノニシテ重大ナル事實ノ誤認アルト同時ニ右ノ如キ一般通念上何等違法性ナキ被告ノ行爲ヲ以テ恐喝行爲ナリト認定スルニハ之ニ對シ其ノ理由ヲ付スヘキモノナルニ不拘之ヲ遺脱シタルモノト言ハサルヘカラスト云フニ在レトモ苟モ人ニ不利益ナル事項ヲ新聞紙ニ掲載スヘキ旨ヲ通告スルトキハ其ノ通告自體ニ於テ人ヲ畏怖セシ



【要旨】

ムルニ足ルヘキモノナルコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリ而シテ銀行會社等ノ關係者ニ對シ諸種ノ口實ノ下ニ金員交付方ヲ要求スル行爲カ獨立シテ關係者ヲ畏怖セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ犯人ノ職業例之興信所及新聞業者カ其ノ職業ヲ背景トスルトキハ兩者相俟ツテ右銀行會社ノ信用業務等ヲ害スルカ如キ畏怖ノ念ヲ生セシムルニ足ルモノナルヲ以テ恐喝行爲ナリト云フヲ妨ケス蓋興信所ヲ利用シテ銀行會社ノ資産信用状態ヲ内偵シ又ハ新聞紙上ニ之ヲ摘發スルコトハ普ク人ノ嫌忌スル所ナレハ右内偵又ハ摘發自體ニ於テモ人ヲ畏怖セシムルニ足ルモノナレハナリ故ニ興信所及新聞業者カ其ノ職業ヲ背景トシ銀行會社等ノ關係者ニ對シ諸種ノ口實ノ下ニ金員交付方ヲ要求シ若シ之ニ應セサルトキハ其ノ信用業務等ヲ害スルニ至ルカ如キ舉止ニ出スルヤモ知レスト通告シ因テ金員ヲ交付セシメタルトキハ恐喝罪ヲ構成スルモノトス原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘錄ノ如クニシテ被告人ノ爲シタル通告カ其ノ職業ト相俟ツテ人ヲシテ畏怖セシムルニ足リ金員交付ト因果結果アリ刑法第二百四十九條第一項ニ當ルコト洵ニ明ナリ故ニ被告人ノ行爲ニ違法性ナキモノト謂ヒ難ク又原判決ハ所論ノ如ク理由備ハラサルモノアルヲ見ス更ニ記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク又被告人ノ行爲中所論ノ如ク權利ノ行使ニ屬スルモノアルヲ認メス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事一木輔太郎關與

○傷害公務執行妨害被告事件

(昭和十一年(九)第三〇六二號  
同十二年三月三日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人

三浦

幸助

辯護人

赤井 幸夫  
原田 治郎  
金子 勝藏

【第一審】 福島區裁判所

【第二審】

福島地方裁判所

○判示事項

巡查ノ職務權限

○判決要旨

巡查力停車場警備中藝妓力醉漢ノ爲連行カルル情報ヲ得タル場合ニ於テ之力救護ノ有無ニ付取調ヲ爲スカ如キハ其ノ職務ノ範圍内ナリトス

巡查ノ職務權限

【參照】 刑法第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

行政警察規則(明治八年太政官達第二十九號)第一章第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

同規則第一章第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス

第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二 健康ヲ看護スルコト

第三 放蕩淫逸ヲ制止スルコト

第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ捜索警防スルコト

同規則第三章第二條 持区内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フトキハ

何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人幸助ヲ懲役二月ニ同三郎ヲ懲役三月ニ各處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和十一年五月十七日山形縣赤湯温泉ヨリ藝妓二名ト共ニ福島縣飯坂温泉へ赴クヘク福島驛ニ下車シタル際同驛構内ニ於テ折柄警備中ノ福島警察署勤務巡查山口一男カ庭坂驛ヨリノ電話依頼ニヨリ右藝妓ヲ取調ヘントスルヤ之ヲ阻止センカ爲先ツ被告人幸助ニ於テ「貴様ノ様ナ非常識ナ巡查カ居ルカラ東北地方ハ振興シナイノタ」「俺達ハ何モ調ヘラレル必要ハナイ」ト大聲暴言シ兩手ヲ以テ同巡查ノ制服胸倉ヲ掴ミ次テ被告人三郎ニ於テ右手拳ヲ以テ同巡查ノ顔面ヲ一回毆打シ尙其ノ右頸部ヲ引搔キ以テ共同シテ暴行ヲ加ヘ同巡查ノ公務ノ執行ヲ妨害スルト共ニ其ノ眉毛部及右前側頸部ニ全治約一週間ヲ要スル打撲傷及擦過傷ヲ負ハシメタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中傷害ノ點ハ刑法第二百四條ニ公務執行妨害ノ點ハ同法第九十五條第一項ニ各該當スルトコロ共犯ニ係ルヲ以テ同法第六十條ヲ適用スヘク且右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人幸助ヲ懲役二月ニ同三郎ヲ懲役三月ニ處スルヲ相當ト認ム仍テ主文ノ如ク判決ス

### ○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

### ○理由

被告人三郎辯護人原田治郎 金子勝藏上告趣意書第一點原判決ハ「被告人等ハ昭和十一年五月十七日山形縣赤湯温泉ヨリ藝妓二名ト共ニ福島縣飯坂温泉へ赴クヘク福島驛ニ下車シタル際同驛構内ニ於テ折柄警備中ノ福島警察署勤務巡查山口一男カ庭坂驛ヨリノ電話依頼ニヨリ右藝妓ヲ取調ヘントスルヤ之

巡查ノ職務權限

ヲ阻止センカ爲……以テ共同シテ暴行ヲ加ヘ同巡查ノ公務ノ執行ヲ妨害スルト共ニ……」ト判示認定シ被告人ノ右所爲ヲ公務執行妨害罪ヲ以テ處斷シタリ惟フニ公務執行妨害罪ハ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニヨリ成立スル犯罪ナリ其ノ職務ノ執行ハ適法ナルヲ要シ當該公務員ノ職務範圍ニ屬セサル事務ヲ執ルニ當リ暴行脅迫ノ舉アルモ公務執行妨害罪ヲ以テ論スヘカラサルハ言ヲ俟タサル所ナリトス右判示判文ニヨリ原審カ確定シタル事實ハ福島警察署勤務山口一男カ庭坂驛ヨリノ依頼ニヨリ右藝妓ヲ取調ヘントシタルニアリ巡查ハ司法警察官吏トシテモ行政警察官吏トシテモ一般的ニ故ナク藝妓ヲ取調フル權限ヲ有スルモノニ非ス「庭坂驛ヨリノ電話依頼ニヨリ」トアルモ如何ナル内容ノ依頼アリタルカハ判文ヲ以テシテハ之ヲ知ルニ由ナキヲ以テ如何ナル理由ニヨリ如何ナル目的ヲ以テ右藝妓ヲ取調ヘントシタルモノナリヤ換言スレハ法令ノ如何ナル根據ニ基ク取調ヲ爲サントシタルモノナリヤハ一切之ヲ知ルヲ得サルナリ尤モ判文ニハ福島驛警備中トアリ假令警備中ナリトスルモ何等カノ事實アルニ非スハ藝妓ト雖之ヲ取調フルハ法ノ許ササル所ナリトス之ヲ要スルニ右判示ノ如ク何等ノ事由キニ不拘藝妓ヲ取調ヘント爲スカ如キハ巡查ノ職務ノ範圍ニ屬セサルモノナリ即原審認定事實ニヨレハ巡查ノ職務ノ範圍ニ屬セサル事務ノ處理ニ當リ被告人カ暴行ヲ加ヘタルモノニシテ公務執行妨害罪ヲ以テ律スヘキモノニ非ス或ハ右巡查山口一男ハ福島驛警備中ナリシヲ以テ當然職務ノ執行ニ當リ暴行ヲ爲シタルモノニ該當スト云フヘキモノアランモ被告人等ノ犯行

時ニ於テハ山口一男ハ只單ナル警備中ノモノニ非ス藝妓ヲ取調ヘント爲シ居ル者ナリ警備ヨリ更ニ積極的ニ他ノ作爲ヲ爲サントシタルモノナリ職務ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤノ判斷ハ警備中更ニ積極的ニ爲サントシタル右藝妓ノ取調行爲ニ關シ與ヘラルヘキモノナリト信ス果シテ然ラハ原判決ハ巡查山口一男ノ職務執行ニ關シ理由不備ノ違法アルカ又ハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ

## 【要旨】

巡查カ停車場警備中藝妓カ醉漢ノ爲連行カルル情報ヲ得タル場合ニ於テハ之カ救護ノ有無ニ付取調ヲ爲スカ如キハ其ノ職務ノ範圍内ナリトス蓋行政警察規則ヲ通覽スルニ巡查ハ警察ニ關シテハ一般的權限ヲ有シ社會公共ノ秩序ニ影響ヲ及ホスヘキモノト認メタルトキハ秩序維持ノ任務ヲ有スル當然ノ結果トシテ之カ取調ヲ爲スヘキ職責ヲ有スルコト明ナレハナリ原判決ノ認メタル事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ措辭妥當ヲ缺クノ憾ナキニ非スト雖其ノ舉示セル證據ヨリ原判決ノ趣旨トスル所ヲ推スニ被告人等ハ昭和十一年五月十七日山形縣赤湯溫泉ヨリ藝妓二名ト共ニ福島縣飯坂溫泉ニ赴ク爲福島驛ニ下車シタル際同驛構内ニ於テ折柄警備中ノ福島警察署勤務巡查山口一男カ庭坂驛ヨリノ電話ニ依リ右藝妓ハ醉漢ニ連行カレタルニヨリ救護ヲ依頼スル旨福島驛員ヨリ告ケラレ右藝妓ヲ取調ヘントスルヤ被告人等ハ判示ノ如ク同巡查ノ公務ノ執行ヲ妨害スルト共ニ暴行傷害ヲ負ハシメタル事實ナレハ傷害罪ノ外公務執行妨害罪ニ該當スルコト言ヲ竣タス故ニ原判決ニハ所論ノ如ク理由不備ノ違法ナキト同時

ニ擬律錯誤ノ違法ナキモトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事一木輒太郎關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件(昭和十一年(九)第二九七五號  
同十二年三月五日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 關 久 一

一

辯護人

(市原) 田中平治  
鎌田豐吉

【第一審】 千葉地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

投票買收ノ爲金員ノ交付ヲ受ケテ之ヲ供與セル場合ノ罪數

○判決要旨

投票買收ノ爲金員ノ交付ヲ受ケタル者力更ニ其ノ金員ヲ選舉人ニ

供與シタルトキハ金員供與罪ノミ成立シ金員ノ交付ヲ受ケタル點  
ハ右供與罪中ニ吸收セラレ別罪ヲ構成セサルモノトス

【參照】

衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ  
三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ  
金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束  
ヲ爲シ又ハ獎勵接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(中略)

五 第一號乃至第三號ニ掲グル行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金  
錢若ハ物品ノ交付交付、ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若  
ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

○事實

第二審ハ被告人カ千葉縣縣會議員ノ選舉ニ際シ候補者松本源十郎ノ爲投票買收方ヲ依頼セラレ之カ資  
金トシテ田中豊ヨリ二回ニ計金二百五十圓ノ交付ヲ受ケタル上該金員ヲ投票若ハ選舉運動ノ報酬トシ  
テ選舉人金尾伯司等ニ分割供與セル事實ヲ認定シ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項  
第一號ノミヲ適用シ被告人ヲ禁錮四月ニ處斷シタリ

○主 文

投票買收ノ爲金員ノ交付ヲ受ケテ之ヲ供與セル場合ノ罪數

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人市原統上告趣意書第一點原判決ハ上告人カ買收費トシテ二百五十圓ノ交付ヲ受ケ他ニ之ヲ供與セル旨認定セラレ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第五十五條ヲ適用スヘキ旨指摘セラルルモ法律ノ所謂供與ハ他ニ利益ヲ贈與スルノ意ニシテ交付ハ相手方ニ所持ヲ移スニ留リ利益ヲ與フル意ヲ含マサルモノト解セサレハ法カ特ニ兩者ヲ區別シテ規定セラルル意ヲ解スヘカラス(美濃部博士所説)從テ本件ハ供與ノ法條ハ指摘セラルルモ交付ニ付テハ法規ノ掲載ヲ缺キ且刑法第五十五條ヲ適用スヘキ罪名ノ指示ヲ缺クト論セラルヘキモノニ非サルヤヲ主張セントスト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人カ千葉縣縣會議員ノ選舉ニ際シ立候補シタル松本源十郎ノ爲投票買收方ヲ依頼セラレ之カ資金トシテ田中豊ヨリ二回ニ金二百五十圓ノ交付ヲ受ケタル上該金員ヲ投票若ハ選舉運動ノ報酬トシテ選舉人タル原審相被告人金尾伯司等ニ分割供與シタル事實ヲ認定セルモノナルコト判文上明白ナルト同時ニ右認定ノ如ク金員ノ交付ヲ受ケタル者カ更ニ其ノ金員ヲ供與シタル場合ニ在リテハ金員ノ供與ヲ受ケタル點ハ是唯供與行爲ヘノ一階梯若ハ一過程ニ過キサルカ故ニ成立シタル金員供與罪中ニ當然吸收セラレ別罪ヲ構成セサルモノト解セサルヘカラス從テ原審カ被告人ノ所爲ニ對シ單ニ供與

【要旨】

罪ニ對スル罰條ヲ適用シタルノミニテ金員ノ交付ヲ受ケタル點ニ付特別ノ擬律ヲ爲ササリシハ固ヨリ相當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヲ得サルヲ以テ論旨ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事徳江治之助關與

○詐欺被告事件

(昭和十一年(れ)第二八四〇號  
同十二年二月二十七日第五刑事部判決)

破毀自判

【上告人】 被告人 橋本藤作 辯護人 市原 統

【第一審】 靜岡地方裁判所沼津支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求

○判決要旨

日本銀行兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ハ縱令相手方ノ欺罔行爲ニ因ル場合ト雖不法ノ原因ノ爲給付シタルモノニ外ナラサルヲ以テ交付者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノト

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求

ス

【参照】 刑事訴訟法第三百七十三條第一項 押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ  
刑法第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

(中略)

三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

民法第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ

請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラ

ス

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七年ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決  
勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス押收物件中ライオン齒磨袋寫真二十枚(昭和十年領第二六號ノ一  
四)ハ之ヲ沒收ス押收物件中現金四百九十圓(同號ノ一、二、四)ハ被害者タル 小川藤一 佐藤喜六  
ノ兩名ニ之ヲ還付ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ十六歲頃郷里ヲ出奔シ爾來諸所ヲ轉々シ其ノ間私文書偽造行使詐欺竊盜強盜傷人等ノ諸罪ヲ累テ數回ノ處罰  
ヲ受ケ其ノ後日本銀行兌換券偽造資金名義ヲ以テ金員ヲ騙取セル等ノ犯罪ヲ爲シタル爲昭和二年八月十一日 宮城控訴  
院ニ於テ詐欺通貨及證券模造取締法違反罪等ニ因リ懲役六年ニ處セラレ宮城刑務所ニ於テ右刑ノ執行ヲ受ケ昭和七年

二月十二日右刑務所ヲ出獄スルヤ同刑務所ニテ知合トナリ被告人ヨリ先ニ出獄シタル千澤藤重ヲ便リテ 靜岡市ニ到リ  
右藤重等ヲ介シテ知合トナリタル者等ニ對シ天然色寫真コロタイプ印刷乃至兌換銀行券郵便小爲替券ノ偽造等ノ技術  
的能力ナク且之カ實行スルノ意思ナキニ拘ラス之アルモノヲ如ク裝ヒ 日本銀行兌換券郵便小爲替券偽造資金又ハ美術  
印刷美術寫真事業資金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和七年二月頃前記千澤藤重ヲ介シテ知合トナリタル鈴木久一郎ニ對シ美術印刷コロタイプ印刷事業資金ノ金  
策ヲ依頼シテ香川隆作ニ對シ該資金ノ調達ヲ求メシメタル上 同年六月頃前後約二回ニ互リ靜岡市内ナル鈴木久一郎  
方居宅ニ於テ香川隆作ニ面接ノ上同人ニ對シ寫真及印刷ノ事ニ關シ種々言辭ヲ弄シタル揚句曩ニ知人西澤量平ノ許  
ヨリ借用シ來レル同人作成ノコロタイプ印刷物ヲ恰モ自己製品ノ見本ノ如ク裝ヒテ提示シ同人ニ對シ暗ニ前記事業  
資金ヲ出資スルニ於テハ直チニ該事業ヲ開始シ多大ノ利益ヲ收メ之ヲ分配スルモノノ如ク欺キ同人ヲ誤信セシメ因  
テ同人ヲシテ同月十四日前記鈴木方ニ於テ右事業資金名義ノ下ニ金千四圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 昭和七年二、三月頃前記千澤藤重ヲ介シテ 風間豊吉ヲ識ルヤ其ノ頃及其ノ後屢靜岡市東若松町ナル當時ノ右千  
澤方其ノ他ニ於テ右豊吉ニ對シ自分ハ元印刷局ニ技師トシテ勤メ居タルカ現在ハ東京高等工藝學校ノ助教授ニシテ  
美術寫真美術印刷ニ優秀ナル技術ヲ有シ眞偽ノ鑑別ヲ爲シ得サル程度ニ日本銀行兌換券ヲ偽造シ得ヘキニヨリ其ノ  
偽造ヲ爲スニ使用スヘキ機械購入資金ヲ出資スルニ於テハ直チニ其ノ仕事ニ著手シ莫大ナル利益ヲ分配スル旨申向  
ケテ同人ヲ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ同年十月初頃靜岡市沓谷ナル當時ノ被告人居宅ニ於テ現金五十圓昭和  
八年三月十日頃東京市足立區興野町ナル當時ノ被告人方ニ於テ現金七十圓同年十月末頃靜岡縣田方郡三島町二日町  
ナル當時ノ被告人方ニ於テ現金十五圓合計金百三十五圓ヲ孰レモ前記日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ自己ニ交  
付セシメテ之ヲ騙取シ

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求

第三 昭和七年三月頃前示千澤藤重ヲ介シテ千澤良雄ヲ識ルヤ同年七月頃静岡市沓谷ナル當時ノ被告人方ニ於テ同人ニ對シ前同様詐言ヲ構ヘテ同人ヲ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ同年十月初頃同市沓谷ナル被告人方ニ於テ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ風間源助ノ手ヲ通シ現金四百圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第四 昭和八年一月中頃前記風間豐吉ヲ介シテ風間松太郎ヲ識ルヤ其ノ頃静岡縣庵原郡飯田村高橋ナル豐吉方ニ於テ右松太郎ニ對シ自己ノ經歷伎倆ニ付前同様詐言シタル上郵便小爲替券偽造資金トシテ出資セラレ度キ旨詐稱シ同人ヲ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ四月十八日頃静岡縣庵原郡前記風間豐吉方ニ於テ郵便爲替券偽造資金名義ノ下ニ現金三百圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第五 昭和八年三月頃前記風間豐吉ヲ介シテ杉山和四郎ヲ識ルヤ其ノ頃同縣志太郡燒津町ナル同人方ニ於テ同人ニ對シ自己ノ經歷及伎倆等ニ付前同様詐言シタル上日本銀行兌換券ヲ偽造シ偽畫ヲ作成シテ多大ノ利益ヲ獲得スルニヨリ其ノ資金ヲ出資セラレ度キ旨申向ケ同人ヲ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ東京市足立區興野町ナル當時ノ被告人方ニ於テ同年五月初頃現金六十圓同年五月五、六日頃現金三十圓同年五月十三日頃現金五十圓同年五月二十二日頃現金二十圓合計金百六十圓ヲ何レモ日本銀行兌換券及偽畫偽造資金名義ノ下ニ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第六 昭和七年十一月、二月頃前記風間豐吉等ヲ介シ石田米七郎ト相識ルニ及豫テ情ヲ知ラサル右豐吉等ヨリ被告人カ東京高等工藝學校助教印刷局技師ノ經歷アリ天然寫眞印刷ニ優秀ナル伎倆ヲ有シ若干ノ資金ヲ得ルニ於テハ日本銀行兌換券ヲ偽造シ莫大ナル利益ヲ擧ケ得ル旨虚偽ノ事實ヲ同人ニ通シアルヲ奇貨トシ其ノ頃前記興野町ナル被告人方ニ於テ同人ニ對シ寫眞機印刷機ヲ購入シ直チニ事業ニ著手シ二箇月位ニテ右兌換券ヲ製作スヘク使用者ノ何人ヲ問ハス眞貨トシテ通用スルヲ以テ其ノ購入資金ヲ出資セラレ度キ旨申欺キ同人ヲシテ眞實被告人カ贋札ヲ造リ利益ヲ自己ニ分ケ吳ルルモノト誤信セシメ因テ同人ヲシテ昭和八年八月十日頃東京市足立區興野町ナル加納長平方ニ

於テ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ現金四百八十圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第七 昭和八年十月十日過頃前記風間豐吉ヲ介シテ山出俊ヲ識ルヤ其ノ頃静岡市新通一丁目ナル當時ノ山出俊ニ對シ前記第二掲記ノ如ク申欺キ同人ヲシテ眞實被告人カ贋札ヲ造リ莫大ナル利益ヲ領テ吳ルルモノト誤信セシメ因テ同人ヲシテ同年二十五日頃静岡縣田方郡三島町田方屋旅館内ニ於テ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ現金七百七十圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第八 昭和八年十一月十日頃友人ナル青木陽吉ヲ介シテ永井忠次郎ヲ識ルヤ其ノ頃静岡縣田方郡三島町二日町ナル當時ノ被告人方ニ於テ同人ニ對シ前同様申欺キ同人ヲシテ眞實被告人カ贋札ヲ造リ莫大ナル利益ヲ分配シ吳ルルモノト誤信セシメ因テ同人ヲシテ同年十一月十六、七日頃前記三島町大中島ナル永井忠次郎方ニ於テ現金百圓同月二十日頃前記三島町小中島ナル青木陽吉方ニ於テ現金八百五十圓合計金九百五十圓ヲ孰レモ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第九 昭和九年三月下旬頃前記青木陽吉ヲ介シテ岩崎八一ヲ識ルヤ其ノ頃静岡縣駿東郡長泉村ナル同人方ニ於テ岩崎八一ニ對シ前同様申欺キ同人ヲシテ眞實被告人カ贋札ヲ造リ巨額ノ利益ヲ分テ吳ルルモノト誤信セシメ因テ同人ヲシテ同年四月七日同縣田方郡修善寺町ナル當時ノ被告人方ニ於テ現金千三百五十圓同月十七日同所ニ於テ現金七百圓同月二十日過頃同所ニ於テ現金三百圓同月二十八日頃同所ニ於テ現金百五十圓同年五月中郡三島町ナル當時ノ被告人方ニ於テ現金七十圓同年九月中同所ニ於テ現金五十圓合計金二千六百二十圓ヲ孰レモ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第十 之ヨリ先偶々小川藤一ヲ識リ更ニ同人ヲ介シテ同年十月五、六日頃佐藤喜六ト相識ルニ至リタルカ其ノ頃前記三島町ナル當時ノ被告人方ニ於テ右兩名ニ對シ各別ニ前同様申欺キ前記兩名ヲシテ眞實被告人カ同人等ノ爲贋札ヲ

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求



造リテ莫大ナル利益ヲ頒チ與ルモノト誤信セシメ因テ同年十月十二日三島町ナル前記被告人方ニ於テ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ藤一ヲシテ現金五百五十圓喜六ヲシテ現金五百圓ヲ夫々自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シタル外翌昭和十年一月十五日迄ノ間各同所ニ於テ前後六回ニ互リ藤一ヲシテ現金合計七百九十五圓ヲ同年一月十三日迄ノ間前後六回ニ互リ右同所外一箇所ニ於テ喜六ヲシテ直接又ハ他人ヲ介シ現金合計千三百七十五圓及額面金一百圓ノ小切手一通ヲ執レモ前同様名義ノ下ニ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第十一 昭和十年一月二十二日頃前記山出俊ヲ介シテ小澤厚平ヲ識ルヤ其ノ頃前記三島町ナル被告人方ニ於テ同人ニ對シ自己ノ經歷伎倆ニ付前同様申向ケタル上ライオン齒磨袋ノ偽造ヲ計畫シ目下其ノ準備中ナルモ機械購入資金ニ窮シ居レルカ若シ資金ヲ出シ吳ルルニ於テハ直ニ偽造ヲ完成シ一週間後ニハ二、三千圓ヲ返済シ尙其ノ後モ利益アル毎ニ之ヲ分配スル旨辭ヲ巧ニ構ヘテ暗ニ金錢出捐方ヲ慫慂シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ即時同所ニ於テライオン齒磨袋偽造資金名義ノ下ニ現金三百金ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スル處前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收物件中ライオン齒磨袋寫眞二十枚(昭和十年領第二六號ノ一四)ハ被告人ニ於テ判示第十一掲記ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ被告人以外ノ所有ニ屬セサルヲ以テ刑法第九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘク押收物件中現金四百九十圓(右同號ノ一、二、四)ハ被告人カ判示小川藤一 佐藤喜六兩名ヨリ騙取シタル贓物ニ係リ被害者タル同人等ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ從ヒ之ヲ同人等ニ還付スヘク 訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ全

部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人藤作ヲ懲役六年八月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入ス  
押收物件中ライオン齒磨袋寫眞二十枚(昭和十年領第二六號ノ一四)及現金四百九十圓(同號ノ一、二、四)ハ之ヲ沒收ス  
訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

○理 由

辯護人市原統上告趣意書第一點原審判決ニ於テ押收物件中現金四百九十圓ハ被害者タル小川藤一 佐藤喜六兩名ニ之ヲ還付スヘキモノト宣シ理由ノ記載ニ於テ小川藤一 竝佐藤喜六カ日本銀行兌換券偽造資金名義ノ下ニ夫レ夫レ金圓ヲ交付シタルコトヲ明示セラレ兩名ニ於テ被告人ト共ニ所謂贖札ヲ作成シテ利益ヲ分配スルコトヲ目的トシタルコト一點ノ疑無キ趣旨ノ認定アリ此等兩名ハ本件他ノ關係人ト共ニ假ニ被告人カ贖札ノ作成ニ著手シタリトセハ當然共犯トシテ論議セラルヘキコトニ疑無ク被告人ニ於テ其ノ意思無カリシ本件ノ如キ場合ニ於テモ偶共同行爲者ノ一人カ犯意ヲ缺キタリト云フニ留リ右兩名ノ行爲ノ不法ヲ阻却スヘキモノニ非ス從テ兩名ニ於テ金圓ヲ交付シタル行爲自體ハ兌換券偽

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求

造行爲ノ要部ヲ構成シ法的社會秩序ニ背反セル有責不法ノモノタルヲ疑ハス民法第七百八條ノ規定ニ因レハ不法ノ原因ノ爲給付ヲ爲シタル者ハ其ノ給付ヲ爲シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ストアリ法文ノ趣旨ハ不法原因ニ基ク給付者カ單ニ返還ノ訴權ヲ缺クノミニアラスシテ法ハ斯ル公ノ秩序ニ反スル行爲ニ全ク保護ヲ與ヘス亦保護スヘキモノニ非サル趣旨ヲ規定セルモノニ外ナラス公秩良俗ニ反スル行爲ノ如キハ金錢給付タルト否トヲ論セス輕忽愚昧其ノ他諸般ノ事情ニ於テ憫諒スヘキモノアル場合ト雖苟モ不法原因ニ基ク給付ナル時ハ絕對ニ法ハ之ヲ放任シテ積極ノ保護ヲ與フヘキモノニ非サル旨ヲ明記セルモノニ外ナラス右兩名カ金錢ヲ交付シタルハ所謂偽造資金ニシテ被告人ニ於テ假ニ其ノ犯意ヲ有スル場合ハ自由ニ目的ノ範圍内ニ於テ處分シ得ヘキ被告人ノ所有ニ屬スルモノニシテ被告人カ兩名ニ代リテ預リ居リタルニ非サルコトモ判旨ニヨリテ明カナリ從テ民法第七百八條ノ給付ヲ爲シタルモノニ相當スヘク兩名カ詐欺ニ因ル意思表示トシテ法律行爲ヲ取消シタルコトモ明示ナシ以上何レヨリ之ヲ觀ルモ押收物件ノ四百九十四圓ヲ小川藤一 佐藤喜六ニ還付シタルハ民法第七百八條ノ精神ニ悖リ嚴格ナル法規ノ解釋トシテ破毀更正サルヘキモノト信スト云ヒ」第二點百尺竿頭一步ヲ進メテ之ヲ觀スルニ刑法詐欺ヲ規定スル所以ノモノハ吾人ノ法益ハ正當ナル智見ノ下ニ保監若クハ處分セラルルヲ要スヘク法律行爲ニ關與セル當事者ノ事實ノ通知ハ社會生活ノ普通ノ觀念ニ於テ正常トセラルルモノタルコトヲ要スヘク社會ノ通念上事實ノ通知ヲ利用サルヘキ正當ナル範圍ニ限リ其ノ眞

實ニ合スルコトヲ要求スルモノニ外ナラス法カ社會ノ信用ヲ維持セントスルハ嚴ニ其ノ範圍内ニ限定セラレ社會生活ニ關係無キ若クハ社會生活ニ反スル智見ノ眞實ニ合スルコトヲ法カ保障セントスル如キハ法律觀念トシテ之ヲ想像スルコトヲ得ス詐欺ノ事案ニ於テ其ノ用ヒラレタル言語動作ノ要旨ノ判決ニ記載セラルルヲ要スル所以モ一面ニ於テハ論旨ノ如キヲ是認スヘキ基礎タルヘキモノト信ス公秩良俗ニ反セサル行爲ニ非スシテ彼レニ殺人ノ伎倆アリヤ紙幣偽造ノ伎倆アリヤ否ヤト云フ如キハ社會生活ニ於テ之ヲ知ルノ必要無ク社會生活ニ於テ其ノ眞實ニ合スル所以ヲ保護スルノ必要無シ信用ヲ保護スル所以ノ刑法詐欺ノ規定ハ斯ル範圍ノ誠實ナル通知ヲ要求スルモノニ非スト信ス原審判決ニ因レハ被告人ニ於テ其ノ伎倆能力無キニ拘ラス其ノ能力ヲ有スルモノノ如ク裝ヒ相手方ヲ誤信セシメタルコトヲ要件ノ一トシテ騙取ノ罪ノ成立ヲ論セラレタルハ以上ノ意味ヲ正當ナルモノトスレハ聊カ不備ヲ免レサル法律ノ解釋トスヘキニ非サルカ相手方ニ於テ判決明示ノ如ク偽造紙幣其ノ他何レモ犯行ヲ構成スヘキ行爲ニ共同シテ之ニ因リテ得タル不法莫大ノ利益ヲ取得セントシタル第一點所論ノ如ク共犯關係ニ入りタルモノニ外ナラス犯罪ヲ共同ニスヘキ者ニ對シテ一々眞實ノ通知ヲ要求スヘキモノトナスカ如キハ果シテ刑法詐欺ノ規定ノ本旨ト解スヘキカ辯護人ハソノ消極說ヲ主張シテ賢明ナル諸公ノ批判ヲ仰カントスルモノナリト云ヒ」第三點原審判決ニ因レハ被告人カ贋札作製等ノ意思無キニ拘ラスコレ有ルモノノ如ク裝ヒ相手方ヲ錯誤ニ陥ラシメタルカ本件詐欺罪ノ要件トセラレタルコト明カ

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之カ返還請求

ナリ假ニ第二點ノ所論カ正當ナルモノトスレハ同様ニコノ點法ノ解釋ヲ誤認セルモノト爲スヘキカ如シ犯行ノ意思アルニ拘ラス無之モノノ如ク裝ヒ相手方ニ於テモ其ノ意思無キ社會秩序ニ順應セル事情ニ共鳴シテ金錢給付ヲ爲セル如キ場合トハ事情ヲ全然別ニスルモノト謂ハサルヘカラス社會ハ共存共榮ノ秩序ニ基キ他人ノ社會順應性ニ重大ナル關心ヲ有スヘキハ生活ニ於テ最モ重要ナルコトニ屬シ其ノ智見ノ眞實ニ合スルコトヲ要求スルハ共存ノ秩序ヲ維持スルモノニ外ナラス反之犯罪敢行ノ意思無キニ拘ラス犯罪敢行ヲ希望シテ止マサル相手方ヲシテ其ノ意思アル如キ錯誤ニ陷レシメタリト云フ如キハ希望自體ニ於テ社會ト相容レス希望ニ基ク條件トシテ共犯者カ誠意ヲ以テ共犯ノ意思ヲ通知スヘシトイフ如キハ果シテ法ノ要求スヘキ所トナスヘキカ御批判ヲ仰カントスル所以ナリ却テ斯ル場合ハ相手方ニ於テ其ノ責ノ大半ヲ負フヘキカ正當ナル法理ノ要求スル所ニアラサルカ民法第七百八條ノ規定ハ斯ル詐欺ニ基ク場合モ等シク不法ノ給付トシテ返還ヲ要求シ得サルモノト信スト云ヒ」第四點同一行爲ハ共犯トシテ論セラルル場合ハ被害者タルコトヲ得ス被害者タルハ共犯ニ非サル場合ニ限り共犯ニシテ同時ニ被害者タル場合ハ想像スルコトヲ得スト信ス原判決ニ因レハ本件被害者ト目セラルル全部ハ何レモ他人ノ有責不法ノ犯行ヲ目途トシ之ニ資金ヲ提供シテ犯行ヲ共同幫助セルハ明瞭ナリ然ルニ原審ハ被害金ニ付テハ沒收セスシテ還付ヲ命シ且小川 佐藤等何レモ明カニ被害者ト認定セラレタルハ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリト信ス(刑事訴訟法第四百十四條)被告

人ニ於テ偶犯行ノ意思無カリシハ社會的ニ幸トスヘク之カ爲相手方ノ行爲ハ未遂トナルモ不能トナルモノニ非スト云フニ在リ

然レトモ原判決ノ確定シタル事實ハ要スルニ被告人ハ天然色寫眞コロタイプ印刷乃至兌換銀行券郵便小爲替券偽造等ノ技術的能力ナク且之ヲ實行スルノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ日本銀行兌換券郵便小爲替券偽造資金又ハ美術印刷美術寫眞事業資金名義ノ下ニ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ判示香川隆作外十一名ニ對シ夫々判示ノ如ク欺罔手段ヲ弄シテ同人等ヲ錯誤ニ陷レ因テ同人等ヨリ夫々判示金員等ノ交付ヲ受ケタリト云フニ在リテ右事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リ之ヲ認定スルニ足リ記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得ス而シテ彼上ノ如ク被告人カ香川隆作外十一名ヲ欺罔シ因テ同人等ヨリ金員等ノ交付ヲ受ケタル以上之ニ依リテ直ニ詐欺罪ヲ構成スヘク縱令同人等ノ目的トシタルトコロカ兌換券等ノ偽造ニ因リ巨利ヲ博セムトスルカ如キ不法ノ行爲ヲ敢行セシメムトシタルニ存シタリトスルモ之カ爲同罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ルコト言フ俟タス若夫レ右被害者ヲ以テ兌換券偽造ノ共同正犯者又ハ幫助者ナリトスル論旨ニ至リテハ全ク獨自ノ見解ニ基キ判示ニ副ハサル事實ヲ主張シテ原判決ヲ攻撃スルモノニシテ固ヨリ探ルニ足ラス左レハ原判決カ判示事實ヲ認メ之ヲ詐欺罪ニ問擬シタルハ洵ニ正當ニシテ此ノ點ニ關シ所論ノ如ク事實誤認又ハ法律誤解ノ違法アルモノト云フヲ得ス更ニ進ムテ原判決カ押收ニ係ル現金

四百九十圓(昭和十年領第二六號ノ一、二、四)ニ付被害者還付ノ言渡ヲ爲シタルコトノ當否ヲ按スルニ押收ニ係ル贓物ニシテ被害者カ民法上其ノ物ノ交付ヲ請求スルノ權利ヲ有スルコト記録上明白ナルカ如キ場合ニ於テハ其ノ所有權カ被害者ニ屬スルト否トヲ問ハス之ヲ同人ニ還付スルノ處分ヲ爲スヘキモノナルコト刑事訴訟法第三百七十三條第一項ノ規定ニ徴シ疑ナキトコロナルモ之ニ反シ贓物ニシテ不法原因ノ爲給付セラレ被害者ニ於テ其ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ有セサルモノナルトキハ之ヲ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非サルコト亦論ヲ俟タス本件ニ付之ヲ觀ルニ判示被害者小川藤一佐藤喜六ノ兩名ハ被告人カ日本銀行兌換券ヲ偽造シ因テ得ヘキ利益ヲ分配セラルルモノト誤信シ其ノ資金名義ノ下ニ判示金員及小切手ヲ被告人ニ交付シタルモノナレハ該金員ハ右兩名カ不法ノ原因ノ爲之ヲ被告人ニ給付シタルモノト云フヘク右兩名ハ其ノ返還ヲ請求シ得サルコト民法第七百八條ノ規定ニ照シ極テ明白ナリトス從テ該金員ハ敍上ノ理由ニ依リ之ヲ被害者ニ還付スルコトナク宜シク其ノ押收ヲ解クカ或ハ刑法第十九條ニ則リ之ヲ沒收スルノ措置ニ出ツヘキモノナルニ拘ラス原判決ハ事茲ニ出テス該金員ヲ判示第十ノ詐欺行爲ニ因リ得タル贓物ナリト認メナカラ之ヲ被害者タル小川藤一佐藤喜六ノ兩名ニ還付スヘキ理由明白ナリトシ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ之カ還付ノ言渡ヲ爲シタルハ同法條ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノト云ハサルヲ得ス然ラハ所論ハ右金員ヲ被害者ニ還付シタルコトヲ攻撃スル點ニ於テ正當ニシテ其ノ論旨ハ結局理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レサ

ルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀スヘク而モ破毀ノ理由ハ原判決ノ爲シタル事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササルカ故ニ同法第四百四十八條ニ則リ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

仍テ原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ判示ノ前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年八月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス而シテ刑法第十九條第二項ハ獨リ物ノ所有權カ犯人以外ノ者ニ屬セサル場合ノミナラス其ノ物ノ返還請求權カ犯人以外ノ者ニ屬セサル場合ニ於テモ亦之ヲ沒收スルコトヲ得ルノ法意ナリト解スルヲ相當トス然ルニ本件ニ於ケル押收物件中現金四百九十圓(昭和十年領第二六號ノ一、二、四)ハ判示小川藤一佐藤喜六ニ於テ不法原因ノ爲被告人ニ給付シタルモノニシテ右兩名ニ返還請求權ナク犯人以外ノ者ニ屬セサルノミナラス被告人カ判示第十ノ犯行爲ニ因リ得タルモノナルコト明白ナルヲ以テ右ノ理由ニ基キ刑法第十九條第一項第三號第二項ニ從ヒ該金員ハ之ヲ沒收スヘク又押收物件中ライオン齒磨袋寫眞二十枚(右同號ノ一四)ハ被告人ニ於テ判示第十一ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項

兌換券偽造ノ資金トシテ交付シタル金員ト之ヲ返還請求

ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス尙訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與

○國外移送誘拐被告事件 (昭和十一年(九)第三〇二一號 棄却)  
同十二年三月五日第四刑事部判決

【被告人】 被告人 藤田 稔 辯護人

赤松 永東 中井 幸夫 中山 伊佐 河野 彦治 山崎 佐六 外一名

【第一審】 長崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

誘拐罪ノ謀議ト共同正犯——上海ヘノ移送ト國外誘拐罪又ハ國外移送罪ノ成立——人ヲ誘拐シテ國外ニ移送セル場合ノ擬律

○判決要旨

一 國外移送ノ目的ヲ以テ人ヲ誘拐シ其ノ被誘拐者ヲ國外ニ移送スルコトヲ謀議シタル者ハ其ノ實行行爲ヲ分擔セサリシトキト雖 國外誘拐竝 國外移送罪ノ共同正犯タル刑責ヲ負フヘキモノトス

【要旨第一】

二 上海ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ誘拐シ之ヲ同地ニ移送シタルトキハ直ニ國外誘拐罪竝 國外移送罪ノ成立ヲ來スヘク同地ニ帝國軍隊ノ駐屯スルト否ト帝國裁判權ノ行ハルルト否トハ犯罪ノ成立ニ關係ナキモノトス【要旨第二】

三 國外移送ノ目的ヲ以テ人ヲ誘拐シタル者力其ノ被誘拐者ヲ國外ニ移送シタルトキハ其ノ誘拐ノ點ニ付刑法第二百二十六條第一項移送ノ點ニ付同條第二項ヲ各適用シ其ノ間ニ手段結果ノ關係アルモノトシテ同法第五十四條第一項後段ニ照シ處斷スヘキモノトス【要旨第三】

【参照】 刑法第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル誘拐罪ノ謀議ト共同正犯 上海ヘノ移送ト國外誘拐罪又ハ國外移送罪ノ成立 人 二五五 (五)

者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス  
帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移  
送シタル者亦同シ

同法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス  
同法第五十四條一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結  
果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ被告人等カ婦女ヲ誘拐シテ上海ニ移送シ醜業ニ從事セシメンコトヲ謀議シタル上被告人富雄  
以外ノ被告人等カ其ノ謀議ニ基キ長崎地方ニ於テ十數名ノ婦女ヲ誘拐シ之ヲ上海ニ移送シタル事實ヲ  
認定シ被告人等ヲ執レモ共同正犯ナリト判定シ其ノ行爲中誘拐ノ點ニ對シテハ刑法第二百二十六條第  
一項移送ノ點ニ對シテハ同條第二項ヲ各適用シ尙右兩行爲ノ間ニ手段結果ノ關係アルモノト認メ同法  
第五十四條第一項後段ニ照シテ處斷シタリ

○主文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理由

被告人村上富雄辯護人松永東 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ被告人村上富

雄ハ昭和五年十一月頃ヨリ中華民國上海ニ於テ其ノ雇入ニ係ル婦女ヲシテ同地駐屯ノ帝國軍人ヲ顧客  
トシ醜業ニ從事セシメ居タル處昭和七年一月所謂上海事變ノ勃發ニ因リ多數帝國海軍軍人ノ駐屯ヲ見  
ルニ至リタルヲ以テ海軍指定慰安所ナル名稱ノ下ニ從來ノ營業ヲ擴張センコトヲ欲シ豫テ知合ノ亡梶  
原伊吉ニ其ノ意圖ヲ告ケ同人ノ紹介ニ依リ同年三月七、八日頃上海文路江星旅館ニ於テ被告人藤田稔  
岡崎安太郎ノ兩名ニ面談シ右ノ企圖ヲ諮リ之カ贊同ヲ得茲ニ被告人富雄ニ於テ家屋其ノ他ノ設備ヲ提  
供シ伊吉及被告人稔ノ兩名ニ於テ該營業所ニ於テ醜業ニ從事スヘキ日本婦女ヲ日本内地ニ於テ雇入レ  
移送スルコトヲ擔當シ被告人安太郎ニ於テ之カ雇入資金ヲ提供スルコトヲ約スルト共ニ婦女雇入レニ  
際シテハ其ノ專ラ醜業ニ從事スルモノナルコトノ情ヲ祕シ單ニ女給父ハ女中トシテ雇フモノノ如ク欺  
罔シ勸説誘惑シテ上海ニ移送セムコトヲ謀議シ伊吉ニ於テ直チニ之ニ贊同スルト共ニ安太郎等ノ旨ヲ  
受ケテ其ノ頃長崎市ニ於ケル被告人安太郎ノ妻ナル被告人岡崎雪野ニ右ノ協議内容ヲ通知シテ婦女ノ  
雇入方ヲ求メ被告人雪野ハ其ノ旨ヲ被告人稔ノ妻ナル被告人藤田ミキ及被告人中田丈太郎ノ兩名ニ通  
スルト共ニ被告人ミキトノ間ニハ之カ實行ヲ兩名ニ於テ分擔スヘキ旨ノ協議ヲ遂ケ次テ被告人丈太郎  
トノ間ニハ安太郎等ノ協議セル前記方法ニ基キ婦女ヲ雇入ルヘキコトヲ謀議シ居タルカ更ニ同月十四  
日被告人安太郎ニ於テ長崎市ニ歸來スルヤ直チニ同市内ナル同人方ニ西田五三郎及被告人ミキヲ招致  
シ同人等竝被告人雪野ニ對シ前敍上海ニ於ケル協議ノ結果ヲ告ケテ婦女移送方ヲ促シ同人等モ之ニ贊

誘拐罪ノ謀議ト共同正犯 上海ヘノ移送ト國外誘拐罪又ハ國外移送罪ノ成立人 二五七 (五七)  
ヲ誘拐シテ國外ニ移送セル場合ノ擬律

同ノ上被告人雪野ニ於テハ同年三月下旬頃被告人原田春吉原審相被告人上田虎壽ヲ介シテ原審相被告人  
 人川田市之助ノ三名ニ五三郎及被告人ミキニ於テハ同月十四日頃被告人松島章二ニ夫々安太郎等ノ協  
 議セル前記方法ニ依リ婦女ヲ誘拐シテ上海ナル前示慰安所ニ移送センコトヲ諮リタルトコロ被告人春  
 吉章二及原審相被告人虎壽市之助ハ孰レモ之ニ賛同シ因テ第一乃至第七ノ如ク順次山口キクエ以下  
 十五名ノ婦女ヲ長崎ヨリ乗船セシメテ之ヲ誘拐シタル上孰レモ上海ニ上陸セシメ以テ同女等ヲ帝國外  
 ニ移送シタルモノナリト判示シ刑法第二百二十六條第一、二項第五十五條第六十條等ヲ適用シテ有罪  
 ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ右事實理由ニ依レハ上告人村上富雄ハ上海ニ在リテ判示ノ營業ヲ爲シ居リ  
 日本國內ヨリ婦女ヲ雇入ルコトヲ協議シタルニ止マリ判示婦女ヲ判示ノ手續ニヨリ上海ニ送りタル一  
 切ノ事項ニハ全然關與スル處ナキモノナリ即伊吉雪野ミキ其ノ他ノ者ニ於テ順次相謀議シ判示ノ如  
 キ手段ニヨリテ判示婦女ヲ上海ニ赴カシメタル事實ニ付テハ全然其ノ實行ニ關與シタルモノニアラサ  
 ルノミナラス其ノ之ニ關シテ全ク其ノ認識ヲ有セサルモノニシテ隨テ之ヲ其ノ共同正犯ナリト斷スル  
 ヲ得サルモノナリトス加之記録ヲ閱スルニ上告人ハ當局ノ認許ヲ受ケ上海ニ於テ永ク判示營業ヲ經營  
 シ居リタルモノニ係リ同地ノ狀勢更ニ其ノ擴張ヲ要スルニ至レルヨリ判示伊吉等ニ其ノ協議ヲ爲シタ  
 ルニ止マルモノニシテ其ノ際判示ノ如キ甘言ヲ以テ婦女ヲ誘拐センコトヲ謀議シタルニアラス判示  
 ノ如キ手段ヲ以テ判示婦女ヲ欺キタリトセハ并ハ現實長崎縣下ニ於テ婦女ノ雇入ニ從事セル者等ニ於

テ爲シタル處ノモノナリ然ルニ原判決カ前示ノ如ク上告人富雄ニ於テモ判示婦女誘拐海外移送ノ罪ノ  
 共同正犯ナリトシテ前示法條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ノ誤認アルコト顯著ナル事由ア  
 ルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

所論ノ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ徴シ之ヲ肯定スルニ足リ記録ヲ查スルモ原審ノ事實認定ニ重大  
 ナル誤謬アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由ナキノミナラス凡ソ國外誘拐罪ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ  
 以テ人ヲ誘拐スルニ依リテ成立シ又國外移送罪ハ被誘拐者ヲ帝國外ニ移送シタルトキニ於テ成立スル  
 モノニシテ其ノ被誘拐者ノ何人ナルヤハ敢テ問フ所ニ非サルカ故ニ苟モ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ  
 人ヲ誘拐シ其ノ被誘拐者ヲ帝國外ニ移送スルコトヲ謀議シタル以上之ニ參加シタル者ノ一部カ其ノ謀  
 議ニ基キ被誘拐者ヲ物色シ之ヲ誘拐シテ國外ニ移送シ爾餘ノ者ハ其ノ實行行爲ニ全然關與セサリシト  
 キト雖其ノ實行行爲ニ關與セサリシ者モ亦之ニ依リ自己ノ犯意ヲ實現セル結果トナルカ故ニ國外誘拐  
 竝國外移送罪ノ共同正犯タル刑責ヲ負フヘキハ當然ノコトト云ハサルヘカラス從テ本件ニ於テ被告人  
 富雄カ相被告人等ト醜業ニ從事セシムヘキ婦女ヲ誘拐シテ上海ニ移送センコトヲ謀議シ其ノ結果相被  
 告人等カ長崎地方ニ於テ山口キクエ外十數名ノ婦女ヲ誘拐シテ之ヲ上海ニ移送シタルコト原判決認定  
 ノ如クナル以上縱令被告人富雄カ右犯罪ノ實行行爲ニ全然關與セサリシトテ其ノ共同正犯トシテノ罪  
 責ヲ免ルヘキニ非ラサルハ勿論ニシテ原審カ其ノ判示スルカ如キ擬律ニ依リ被告人等ヲ處斷シタルハ

【要旨第一】

誘拐罪ノ謀議ト共同正犯ノ上海ヘノ移送ト國外誘拐罪又ハ國外移送罪ノ成立人  
 ナ誘拐シテ國外ニ移送セル場合ノ擬律

相當ナルヲ以テ論旨ハ理由ナキモノトス

同第三點原判決ハ上告人等ノ所爲ヲ以テ帝國外移送ノ目的ヲ以テ婦女ヲ誘拐シ且之ヲ帝國外ニ移送シタルモノナリトシテ刑法第二百二十六條ヲ適用處斷シタリ然レトモ當時上海ハ我帝國軍隊駐屯シ吾裁判權及警察權ノ及ヒシ場所即吾主權ノ及ヘル場所ナルヲ以テ土地ソノモノハ中華民國ニ屬セルモノナルヘシト雖斯ル場所ニ人ヲ移送スルハ刑法第二百二十六條ニ所謂帝國外ニ移送スルモノト謂フヘカラスアリシモノト信ス果シテ然ラハ原判決ハ不當ニ法律ヲ適用シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ誘拐罪ニ付刑法第二百二十六條ニ特別規定ノ設ケラレタル理由ハ畢竟國情ヲ異ニシ歸還ノ容易ナラサル他國ニ被誘拐者ヲ移送シ又ハ移送スルヲ目的トスルカ如キハ普通ノ誘拐行爲ニ比シ情狀輕カラサルモノアルニ因ルコト勿論ニシテ其ノ他國ニ帝國軍隊ノ駐屯スルト否ト我裁判權並警察權ノ行ハルルト否トハ問フ所ニアラサルカ故ニ被告人等カ支那領土タル上海ニ移送スル目的ヲ以テ婦女ヲ誘拐シタル上之ヲ同地ニ移送シタルコト原判決認定ノ如クナル以上前記法條ノ適用アルヘキハ當然ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

【要旨第二】

同第六點原判決ハ其ノ法律理由中「被告人等ノ所爲中誘拐ノ點ハ刑法第二百二十六條第一項第五十五條ニ被誘拐者帝國外移送ノ點ハ同法第二百二十六條第二項第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ右ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ犯情重キ被誘拐者帝國外移送罪ノ

刑ニ從ヒ云々處斷シ」ト說示シタリ然レトモ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者其ノ被誘拐者ヲ帝國外ニ移送シタル場合ニ於テ其ノ後段ノ所爲ハ其ノ前段ノ所爲ノ當然ノ結果トシテ別ニ他罪ヲ構成セサルモノナルコト夫ノ他人ノ物ヲ竊取シタル者カ其ノ目的物ヲ處分スルモ別ニ横領罪ヲ構成セス之ヲ他ニ運搬スルモ贓物罪ヲ構成セサルト異ナル處ナキモノナリト然ルニ原判決カ前示ノ如ク刑法第二百二十六條第二項ヲモ適用處斷シタルハ違法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

刑法第二百二十六條第一項ノ國外誘拐罪ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ誘拐スルニ依リテ成立シ必スシモ其ノ被誘拐者ヲ帝國外ニ移送スルコトヲ要スルモノニアラス又同條第二項ノ國外移送罪ハ單ニ同法第二百二十四條乃至第二百二十六條第一項ノ被誘拐者又ハ被害者ヲ帝國外ニ移送スルニ依リテ成立シ移送者自ラ人ヲ誘拐シ若ハ賣買スルコトヲ必要トセサルカ故ニ兩者ハ夫々構成要件ヲ異ニスル別個ノ犯罪ニシテ其ノ一方カ成立スルトキハ他方ハ當然之ニ包含又ハ吸收セラレテ別罪ヲ構成セサルモノト謂フコト能ハス從テ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ誘拐シタル者カ其ノ被誘拐者ヲ帝國外ニ移送シタルトキハ其ノ行爲中誘拐ノ點ハ前示第二百二十六條第一項ニ移送ノ點ハ同條第二項ニ各該當シ尙其ノ兩行爲ノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用スヘキモノト解スヘク原審カ其ノ判示スルカ如キ擬律ニ依リ被告人ヲ處斷シタルハ相當ト認ムヘキカ故ニ論旨

【要旨第三】

誘拐罪ノ謀議ト共同正犯 上海ヘノ移送ト國外誘拐罪又ハ國外移送罪ノ成立人  
誘拐シテ國外ニ移送セル場合ノ擬律



ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事徳江治之助關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(レ)第三〇五七號 棄却)  
(同十二年三月五日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 松浦善太郎 辯護人 (赤井幸夫 高見喜四郎)

【第一審】 富山區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

推薦狀ノ表書ニ使用スル勞務者ト其ノ選任

○判決要旨

推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ當リ推薦狀ノ表書ヲ爲サシムル爲

ニ使用スル勞務者ト雖選舉事務長ニ非サレハ之ヲ選任スルコトヲ  
得サルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第八十九條第一項 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設  
置シ又ハ選舉委員若ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス  
同法第三十一條 第八十九條第一項、第九十九條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタル  
者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
府縣制第三十九條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章  
並第四百四十四條第二項、第四百四十二條及第四百四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者  
一人ニ付定ムヘキ選舉委員ノ數、選舉運動ノ爲使用スル勞務者ノ數及選舉運動ノ費  
用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル  
同法第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記事實ヲ認定シ右事實ニ付府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第八十九條第一項  
第三百三十一條ヲ適用シ被告人ヲ懲役四月ニ處ス但未決拘留日數中二十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決  
ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年九月二十五日施行ノ富山縣會議員選舉ニ際シ同月九日同議員ニ立候補セシ安井忠重ノ當選ヲ得シム  
ル目的ヲ以テ

推薦狀ノ表書ニ使用スル勞務者ト其ノ選任

(中略)

(三) 同月二十一日富山市千石町高見之通方ニ於テ右候補者ノ爲居町選舉人中約千二百名ニ對スル自己竝安井文雄ノ連名ニ係ル推薦狀ヲ郵送セントスルニ當リ同候補者ノ選舉事務長ニ非スシテ其ノ勞務者ニ非サル中上美孝ヲシテ同日及翌二十二日右推薦狀千八百枚ノ表書ヲ爲サシメ且夫等ヲ郵便ニ付シテ發送セシメ以テ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任シタルモノナリ

## ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

## ○理 由

辯護人赤井幸夫高見喜四郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由中「被告人松浦善太郎ハ同候補者(縣會議員候補者安井忠重)ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ(中略)(二)右候補者ノ爲安井文雄ト共ニ同人ト連名ニテ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ當リ選舉事務長ニ意思ヲ通セス從ツテ其ノ文書ニ依ル承諾ヲ得スシテ同月(昭和十年九月)二十日頃富山市千石町高見之通方ニ於テ同候補者ノ選舉委員高安滋次ヨリ推薦狀ノ實費トシテ貸借名義ノ下ニ金二十圓ノ供與ヲ受ケ(三)同月二十一日右高見之通方ニ於テ右候補者ノ爲居町選舉人中約千二百名ニ對スル自己竝安井文雄ノ連名ニ係ル推薦狀ヲ郵送セントスルニ當リ同候補者ノ選舉事務長ニ非スシテ其ノ勞務者ニ非サル中上美孝ヲシテ同日及翌二十二日右推薦狀千八百枚ノ表書ヲ爲サシメ且夫等ヲ郵便ニ付シテ發送セシメ以テ選舉ノ爲使用スル勞務者

ヲ選任シ」ト判示シ其ノ法律理由中「被告人松浦善太郎ノ金錢供與ヲ受ケタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第四號第一號ニ選舉事務長ニ非スシテ勞務者ヲ選任シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第八十九條第一項第三百一十一條ニ各該當ス」ト說示シ有罪ノ言渡ヲ爲シタリ然レトモ命令ノ定ムル處ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スコトハ何人ニモ許容セララルル處ニシテ(衆議院議員選舉法第九十六條第一項但書)又其ノ命令ノ定ムル制限ハ(一)選舉人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ若クハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコトヲ得ス(二)演說會告知ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌ヲ利用スルコトヲ得ス(三)演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ付強テ議員候補者又ハ選舉事務長ノ承諾ヲ求ムルコトヲ得サルニ止マル(衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三)而シテ其ノ費用ニ付テモ何人カ之ヲ支出スルモ妨クル處ナシ(衆議院議員選舉法第一百一條第二項但書)右ノ如ク演說又ハ推薦狀ニヨル選舉運動ハ衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三ノ規定ヲ遵守スルニ於テハ何人ニモ許容セララルル處ニシテ又其ノ費用ハ何人ト雖之ヲ支出スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ上告人カ判示ノ如ク推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スニ當リ貸借名義ノ下ニ金二十圓ヲ判示高安滋次ヨリ供與ヲ受ケタリトスルモ其ノ運動ノ報酬ニアラスシテ其ノ實費タルコト原判決ノ明示スルカ如クナル以上何等選舉法ニ觸ルル處ナキモノナリ又推薦狀ヲ發送スルニ當リ其ノ名義人自ラ其ノ全文ヲ筆記スルト之ヲ印刷ニ付スルトハ問フ處ニアラサ

推薦狀ノ表書ニ使用スル勞務者ト其ノ選任

ルヘク之ヲ作成スルニ當リ自ラ之ヲ爲スト他人ニ委囑スルト之ヲ配付スルニ付自ラ其ノ任ニ當ルモ使  
者ヲ使用スルモ郵便ニ付スルモ(又郵便ニ付スルニ當リ使者ヲ用フルモ)何等妨クル處ナキモノナリ  
ト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決カ右上告人ノ行爲ニ對シ前示法條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタル  
ハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

衆議院議員選舉法第九十七條ハ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者カ豫メ議員候補者又ハ選舉事  
務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ其ノ運動ヲ爲ストキハ其ノ運動實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得ル旨規定ス  
ルカ故ニ同條ノ裏面解釋トシテ之等ノ運動ヲ爲スニ付豫メ右承諾ヲ得サルトキハ其ノ實費ノ辨償ヲ受  
クルコトヲ得サルモノト解スヘク之カ供與ヲ受ケタルトキハ同法第一百二十二條第四號第一號ノ犯罪ヲ構  
成スルモノナルコトハ當院判例ノ示ストコトナリトス所論原判示ハ證據說示ト對照スルトキハ判示選  
舉事務長若ハ議員候補者ノ何レノ文書ニ依ル承諾ヲモ豫メ得シテ被告人等ハ推薦狀ニ依ル運動ヲ爲  
シタリトノ趣旨ニ解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ被告人カ高安滋次ヨリ右推薦狀ノ實費トシテ金  
二十圓ノ供與ヲ受ケタル事實ニ付判示法條ヲ適用處斷シタルハ洵ニ正當ナリ又推薦狀ニ依ル選舉運動  
ヲ爲スニ當リ推薦狀ノ表書ヲ爲サシメ之ヲ郵便ニ付シ發送セシムル爲ニ使用スル勞務者ト雖選舉事務  
長ニ非サレハ之ヲ選任スルコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トスルカ故ニ原判決カ所論事實ニ付判示  
法條ヲ適用處斷シタルハ之亦正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論  
旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十一年(レ)第三〇八九號 同十二年三月五日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小林長兵衛 辯護人 鈴木正義 一男  
【第一審】 米澤區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

選舉情勢ノ報告ト選舉運動

○判決要旨

新聞通信員カ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同候補者ノ

選舉情勢ノ報告ト選舉運動

爲其ノ選舉委員ニ對シ選舉情勢ノ報告ヲ爲ス行爲ハ選舉運動ナリトス

【參照】衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ  
第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金八十圓ニ處ス右罰金ヲ完納セザルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ山形縣第一區ヨリ立候補シタル佐藤啓ノ選舉委員ナリシトコロ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ原審相被告人竹田貞吉カ其ノ新聞通信員タル地位ヲ利用シ同候補ノ爲被告人ニ對シ選舉情勢ノ報告ヲ爲ス等ノ選舉運動ヲ爲ス報酬トシテ同年同月十一日犯意繼續ノ上居町長井町大字小出丸萬旅館及森旅館ニ於テ同人ニ對シ金二圓五十九錢相當ノ酒食ノ饗應ヲ爲シ且森旅館ニ於テハ金四圓五十錢ヲ供與シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處スヘク被告人ニ於テ右罰金ヲ完納セザルトキハ刑法第十八條ニ則リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ヲ適用シ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木義男 小林正一 二關敏上告趣意書第三點原判決ハ衆議院議員候補者佐藤啓ノ選舉委員タル上告人カ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ第一審相被告人竹田貞吉ニ於テ其ノ新聞通信員タルノ地位ヲ利用シ同候補ノ爲被告人ニ對シ選舉情勢ノ報告ヲ爲ス等ノ選舉運動ヲ爲ス報酬トシテ昭和十一年二月十一日右竹田貞吉ニ對シ判示饗應竝金錢供與ヲ爲シタル旨認定シ其ノ證據トシテ「一、被告人ニ對スル檢事ノ聽取書ニ自分カ昭和十一年二月十一日竹田貞吉ニ對シ丸萬旅館及森旅館ニ於テ御馳走シタリ金ヲ與ヘタリシタルカ同人ハ私方ニ出入シ自分ハ國民同盟ノ支持者テアルト申シ又木村武雄ヤ松田實カ立候補シタ事等ヲ早ク私ニ知ラセテ吳レタリ等シタル爲私ハ竹田ハ新聞記者テモアル故警察等ニ出入シ選舉界ノ情勢カ判リ居ルモノト思ヒ同人ニ金ヲ遣レハ私ニ選舉界ノ情勢ヲ早ク報ラセテ吳

レタリ又佐藤啓ニ有利ノ記事ヲ通信シテ吳レルモノト思ヒ馳走シタリ致シタルナリトノ旨供述記載」ト引用説明シタリ然レトモ右被告人ノ檢事聽取書ニ依ルモ上告人カ新聞通信員タル竹田貞吉ニ判示饗應等ヲ爲シタルハ同人ノ歡心ヲ買ヒ置カハ選舉界ノ一般情勢ヲ報告シ又候補者佐藤啓ニ有利ナル通信ヲ爲シ吳レルモノト考ヘタル爲ナリトノ趣意ヲ認メ得ルニ過キス而シテ新聞通信員カ其ノ職務上探知シタル選舉界一般情勢ヲ報ラスル行爲若ハ通信員トシテ新聞社ニ通信スル行爲ノ如キハ之ヲ目シテ選舉運動ナリト謂フコト能ハサルノミナラス上告人ハ斯カル行爲ヲ竹田貞吉ニ對シ依頼シタルニモ非ス又暗黙ニ之等ノ行爲ヲ爲スヘキコトヲ合意シタリト謂フニモ非ス平素ヨリ新聞通信員等ニ饗應又小使錢等ノ供與ヲ爲ス慣習アリタル爲偶然ノ機會ニ慣習ニ從ヒ僅ノ饗應ヲ爲シ且要求セラレテ小使錢四圓五十錢ヲ與ヘタルニ過キサル本件ヲ目シテ選舉運動ノ對價ナリト稱スヘカラサルコト洵ニ明白ナリ而シテ其ノ他原判決ハ上告人カ第一審相被告人竹田貞吉ニ對シ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ判示饗應竝金錢供與ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ヘキ證據ヲ舉示セサルヲ以テ結局原判決ニハ理由齟齬ノ違法アリテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ハ其ノ舉示スル證據ヲ綜合シテ原判示事實ヲ認定シタルモノニシテ該證據ヲ綜合スレハ原判示ノ如ク被告人カ判示議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ竹田貞吉ニ對シ同人カ其ノ新聞通信員タル地位ヲ利用シ同候補者ノ爲被告人ニ對シ選舉情勢ノ報告ヲ爲ス等ノ選舉運動ヲ爲ス報酬トシテ判示

## 【要旨】

ノ如ク饗應及金錢供與ヲ爲シタル事實ヲ證明シ得ヘク被告人カ竹田貞吉ニ對シ暗黙ニ右ノ如キ報告等ヲ爲スコトヲ依頼シ其ノ報酬トシテ右饗應及金錢供與ヲ爲シタル事實ヲ推認シ得ヘシ而モ新聞通信員カ議員候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同候補者ノ爲其ノ選舉委員ニ對シ選舉情勢等ノ報告ヲ爲ス行爲ハ右候補者ノ選舉運動ヲ有利ニ展開セシメ得ヘキ行爲ナルカ故ニ固ヨリ選舉運動ニ外ナラサルヲ以テ被告人カ新聞通信員タル右竹田貞吉ニ對シ敍上ノ如キ報告等ノ選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ敍上ノ如キ饗應及金錢供與ヲ爲シタル以上ハ被供與者タル右貞吉カ右運動方ノ承諾ヲ爲シタルト否トヲ問ハス選舉運動ニ對スル報酬供與罪ノ成立スルコト勿論ナリ然リ而シテ記録ニ徵スルモ原判決ニハ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトナク所論ノ如キ事情ハ之ヲ肯定シ難キヲ以テ原判決カ本件被告人ノ行爲ヲ原判示法條ニ間擬處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○殺人未遂被告事件(昭和十一年(九)第三〇八二號 棄却)

(昭和十一年三月六日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 甲斐伊勢松 辯護人 (大高三千助 繁本國武)

【第一審】 宮崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

未遂犯ノ實例

○判決要旨

犯人カ人ヲ殺サントシテ短刀ヲ抜キ其ノ胸部ヲ突刺シタルモ流血ノ送ルヲ見テ恐怖心ニ驅ラレ之ヲ止メタルトキハ障碍未遂犯ニシテ中止犯ト爲ラサルモノトス

【參照】 刑法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止タル時ハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス  
同法第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス  
同法第二百三條 第九十九條第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年ニ處ス押收ニ係ル短刀一振(證第一號)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十年六月初旬頃延岡市大字本町通疊商塚友一ヨリ家屋建築ヲ請負ヒ同月末頃之ヲ竣工シテ引渡シタルカ右請負外ニ湯殿ノ板圍及疊製作臺ノ工作ノ依頼ヲ受ケタルヨリ之ヲモ殆ント同時ニ完成シ遣リタルニ拘ラス友一ニ於テ右請負外ノ工事ニ對スル工賃合計六圓九十錢ノ支拂ヲ爲サリシヲ以テ家人ヲ遣ハシ屢之カ支拂方ヲ請求セシメタルモ其ノ支拂ヲ爲ササルヨリ被告人ハ痛ク憤慨シ同年九月十四日ノ朝自ラ之カ請求ヲ爲スヘク友一方ニ赴キタルモ同人カ不在ナリシ爲一旦立歸リタルトコロ同日午後五時頃友一カ被告人方ヲ訪レ來リタルヨリ更メテ同人ニ右賃金ノ支拂方ヲ請求シ且其ノ不誠意ヲ難シタル結果友一モ漸ク自己ノ非ヲ悟リ燒酎二合餘ト酒五合ヲ買求メ被告人ニモ侑メタル後結局翌日支拂ノ引合ヲ爲スヘキ旨約シテ歸リ掛ケタルモ更ニ引返シ來リ被告人ニ對シテ「僅カノ金ヲ請求セヌテモ宜イテハナイカ」ト不遜ノ言辭ヲ弄シタルヨリ被告人ハ酒氣モ手傳ヒ極度ニ昂奮シ意地ニテモ同夜中ニ右賃金ヲ取立テンモノト同夜七時頃自宅ニ在リタル白鞘短刀(證第一號)ヲ密ニ懷中爲シ友一ト同道シテ同人方ニ到リ二階六疊ノ間ニ於テ友一ト相對座シ怒氣ヲ含テ再ヒ右賃金ノ請求ヲ爲スヤ友一ハ「甲斐サン僅カノ事テソソナニ立腹セヌテモ宜イテハナイカ金ハ今晚ハ無イ」ト云ヒ容易ニ請求ニ應スル色無カリシ爲被告人ハ友一カ飽ク迄自己ヲ愚弄シ賃金ノ支拂ヲ肯セサルモノト思惟シ憤激ノ極茲ニ同人ヲ殺害シテ怨ヲ霽サムコトヲ決意シ直ニ右手ニテ前記所携ノ短刀ヲ引抜キ様友一ノ胸部ヲ突刺シタルモ急所ヲ外レタル爲同人ノ胸部及左手等ニ治療日數約四十日ヲ要スル切創ヲ蒙ラシムニ止リ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

未遂犯ノ實例

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百三條第九十九條ニ該當スルニ依リ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年ニ處シ押收ニ係ル短刀一振(證第一號)ハ本件犯行ノ供用物件ニシテ被告人ノ所有ニ屬スルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙辯護人ハ假ニ被告人ニ塚友一ヲ殺害スルノ意思アリタルトスルモ被告人ハ友一ヲ短刀ニテ一回突刺シタル後其ノ餘裕ノアリシニモ拘ラス自己ノ意思ニ依リ更ニ續イテ危害ヲ加フルコトヲ中止シタルモノニ他ナラサル旨辯疏スレトモ前敘證據説明ノ部ニ掲ケタル當公廷ニ於ケル被告人ノ供述(證據説明ノ點省略)ニ依リテ窺知シ得ル如ク被告人カ判示兇行後續イテ友一ニ危害ヲ加ヘサリシ所以ノモノハ結局友一ノ胸部ヨリ吹出シタル流血ヲ見テ遽ニ恐怖心ニ驅ラレ其ノ恐怖心ノ爲ニ危害ヲ加ヘントシテ加ヘ得サリシカ爲ニ他ナラス被告人自ラ任意ニ之ヲ中止シタルモノニアラサルヲ以テ右辯護人ノ辯疏ハ採用シ難シ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大高三千助上告趣意書第二點原審ニ於テハ被告人ノ辯護人ハ假リニ被告人ニ殺意アリタリトスルモ被告人ハ被害者ヲ短刀ニテ一回突キ刺シタル後尙其ノ餘裕アリシニモ不拘自己ノ意思ニヨリ更ニ續イテ危害ヲ加フルコトヲ中止シタルモノナルニヨリ刑法第四十三條後段ニ該當スルモノナル旨主張

シタルコト明也然ルニ原審ハ之ニ對シ判決證據説明ノ部ニ掲ケタル當公廷ニ於ケル被告人ノ供述ニ依リテ窺知シ得ルカ如ク被告人カ判示兇行後續イテ被害者ニ危害ヲ加ヘサリシ所以ノモノハ結局被害者ノ胸部ヨリ吹出シタル流血ヲ見テ遽ニ恐怖心ニ驅ラレ其ノ恐怖心ノ爲ニ危害ヲ加ヘントシテ加ヘ得サリシカ爲ニ他ナラス被告人自ラ任意ニ之ヲ中止シタルモノニ非サルヲ以テ辯護人ノ辯疏ハ採用シ難シト判示シ右法條ノ適用ヲ排シタリ然レトモ原判決ハ證據説明ノ部ニ掲ケタル當公廷ニ於ケル被告人ノ供述ニヨリテ窺知シ得ルカ如クト言ヘトモ此ノ點ニ關スル原判決證據説明ニ依ルモ「……自分ハ懷中ノ短刀ヲ右手ニテ拔取り様何所ト言フ見當モ無ク友一ノ座ツテ居ルトコロヲ一突キ突キタリスルト其ノ時友一ノ胸ノ邊リカラバット血カ吹出タノテハット我ニ歸リ友一ニ對シ濟マヌコトヲシタト詫ヲ言フタ後自分ハ死ンテ詫ヲスル積リテ右短刀ヲ自分ノ腹ニ突刺シタルモノナル旨ノ供述」トアルニ止マリ被告人カ爾後ノ犯行ヲ中止シタルハ被告人ノ任意ニヨルニ非スシテ恐怖ノ爲爾後ノ犯行ヲ續クル事能ハサリシニヨルモノナルコトハ辯護人ノ不敏ナルカ如何ニ窺ハントスルモ窺ヒ知り得サル次第ナリ「バット血カ吹出タノテハット我ニ歸リ」ト言フ丈ケノ事ニテ恐怖ノ餘リ爾後ノ犯行ヲ續ケントスルモ續クル能ハストマデ解釋シ敷衍スルハ果シテ如何ノモノニヤ擬律錯誤ノ非難ヲ受クルニ庶キモノナラン乎然レトモ未遂カ任意ニヨルカ障礙ニヨルカノ論ノ如キハ抑々末ナリ要ハ本件ニ就キ殺人ノ故意ヲ肯認スルノ誤ヲ犯セルニヨリ血カバット出タノテハット我ニ歸リタリト言フ丈ノ事ニテ殺人ノ犯

未遂犯ノ實例

行ヲ恐怖ノ餘リ中止セリト言フカ如キ常識上行過キノ觀アル推定ヲ爲スノ必要ヲ生ムニ至レルモノナルヘシ重ネテ論旨第一點ニ付十分ナル御審理ヲ賜度次第ナリト云ヒ辯護人繁本國武上告趣意書第二點假リニ第一點ノ理由ヲ認メ得ストスルモ原判決ハ中止未遂ヲ障害未遂ト誤認シタルコトニ關スル違法アルヲ免レサルモノト信ス一 原判決ハ原審辯護人ノ中止犯論ヲ排斥シテ曰ク「前段證據説明ノ部ニ掲ケタル當公廷ニ於ケル被告人ノ供述ニ依リテ窺知シ得ル如ク被告人カ判示兇行後續イテ友一ニ危害ヲ加ヘサリシ所以ノモノハ結局友一ノ胸部ヨリ吹き出シタル流血ヲ見テ遽ニ恐怖心ニ驅ラレ其ノ恐怖心ノ爲ニ危害ヲ加ヘントシテ加ヘ得サリシカ爲ニ外ナラス被告人自ラ任意ニ之ヲ中止シタルモノニ非ス」ト二、然レトモ原判決摘示ノ被告人ノ供述ハ「友一ノ胸邊リカラバット血カ吹き出タノテハット我ニ歸リ友一ニ對シ濟マヌ事ヲシタト詔ヲ言フタ後自分ハ死ンテ詔ヲスル積リテ右短刀ヲ自分ノ腹ニ突刺シタリ」トイフニ在リテ決シテ恐怖心ニ驅ラレテ危害ヲ加ヘ得サリシニ非スハット我ニ歸リ濟マヌ事ヲシタト詔ヲ言ヒ自己ノ犯行ヲ非ナリト覺リテ自發的ニ中止シタルノ證據歴然タルニ非スヤ恐怖心ニ驅ラレテ危害ヲ加ヘ得サリシモノカ何カ故ニ自分ハ死ンテ詔ヲスル積リニテ自殺ヲ圖リタリヤ到底常識上理解シ能ハサル判示ナリト謂ハサルヘカラス則チ本件ハ百歩ヲ譲リ假リニ殺人未遂ナリトスルモ中止未遂ト認定スヘキカ當然ニシテ從テ擬律トシテ刑法第四十三條但書ヲ適用スヘキモノナルニ事茲ニ出テサリシ原判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト信ス三、而モ原判決カ右ノ如ク被告人ハ恐怖

心ニ驅ラレテ危害ヲ加ヘントシテ加ヘ得サリシカ爲ニ外ナラスト判斷シタルハ畢竟被告人ニ當時殺意ナカリシコトヲ肯認セントシテ之ヲ肯認シ得サリシ誤リニ由來スルモノト推量シ得ヘク此ノ點ハ殺意アリトノ認定カ著シク本件諸般ノ情況證據ニ背馳スル一證左ト斷スルニ難カラサル所ナリト云フニ在レトモ

## 【要旨】

犯人カ人ヲ殺サントシテ短刀ヲ拔キ其ノ胸部ヲ突刺シタルモ流血ノ迸ルヲ見テ翻然之ヲ止メタルトキハ障碍未遂犯ニシテ中止犯ト爲ラサルモノトス蓋中止犯タルニハ外部の障碍ノ原因存セサルニ拘ラス内部的原因ニ由リ任意ニ實行ヲ中止シ若ハ結果ノ發生ヲ防止シタル場合ナレハ流血ノ迸ルヲ見テ止ムルハ意外ノ障碍ニ外ナラサレハナリ故ニ原判決ハ殺上ノ見解ニ基キ本件ヲ障碍未遂犯ト認定シタルハ相當ナレハ被告人ノ行爲ハ刑法第四十三條前段ノ未遂ヲ以テ論スヘク同條但書ノ中止犯ヲ以テ擬律スヘキモノニ非ス從テ原判決ニ於テ辯護人ノ中止犯ニ關スル辯疏ヲ排斥シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事武松久吉關與



○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第二九七七號 同十二年三月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小谷 祐通 辯護人 原 玉重  
外一名

【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第一百十二條第五號後段ノ犯罪ノ成立ト目的意思ノ要否

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第五號後段ノ犯罪ハ第一號乃至第三號掲記ノ行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ交付セラルル金員ナルコトヲ知りナカラ之ヲ受ケ又ハ交付ノ申込ヲ承諾スルニ因リテ成立シ第一號乃至第三號掲記ノ行爲ヲ爲スヘキ目的意思アルコトヲ要セス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ

三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
- 四 第一號若ハ前號ノ供與、應接待ヲ受ケ若ハ要求シ第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ
- 五 第一號乃至第三號ニ掲グル行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動者ニ對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小谷祐通ヲ罰金百圓ニ被告人井階作太郎ヲ

衆議院議員選舉法第一百十二條第五號後段ノ犯罪ノ成立ト目的意思ノ要否

罰金百五十圓ニ處ス被告人祐通及作太郎ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人等ヲ夫々勞役場ニ留置ス(沒收並追徴ノ點省略)スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ被告人ハ何レモ兵庫縣第五區選舉區ヨリ立候補シタル植村嘉三郎ノ選舉委員トシテ選舉運動ニ從事シタルモノナルトコロ

第一 被告人新之助ハ

一 昭和十一年二月四日頃兵庫縣多紀郡篠山町吳服町三十八番地中野竹次郎方ナル右候補者ノ選舉事務所ニ於テ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人祐通ニ對シ同被告人ヲ副組合長トスル同郡土木建築業組合ノ組合長石田金太郎外同組合員中選舉有權者ノ投票取纏方ヲ請託シ其ノ資金トシテ金百圓(證第二號)ヲ交付シ

(中略)

五 同月二十四日頃前同所ニ於テ被告人作太郎ニ對シ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ

(中略)

第二 被告人祐通ハ同年二月四日頃前示選舉事務所ニ於テ被告人新之助ヨリ前記第一ノ一記載ノ如キ請託ニ依ル投票取纏メノ資金ナルコトヲ知り乍ラ金百圓ノ交付ヲ受ケ

第三 被告人作太郎ハ同月二十四日頃前記第一ノ五記載ノ如ク被告人新之助ヨリ右候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ供與セララルモノナルコトヲ知り乍ラ金五十圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人祐通ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第五號後段ニ被告人作太郎ノ所爲ハ同法同條第

一項第四號ニ該當スルトコロ被告人祐通作太郎ニ付テハ何レモ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ各其ノ罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人作太郎ヲ罰金百五十圓被告人祐通ヲ罰金百圓ニ處シ被告人作太郎祐通ニ對シテハ夫々刑法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人小谷祐通同井階作太郎辯護人原玉重上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リテ之ヲ適用シタル違法アルノミナラス重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ且審理不盡理由不備ノ不法アリ抑衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第五號後段ノ罪ノ成立ニハ交付ヲ受クル側ニ於テ同條項第一號乃至第三號ニ掲クル行爲ヲ爲スヘキ目的ヲ以テ其ノ交付ヲ受ケタルコトヲ要スルコト同號前段ト對照シ又本條制定ノ趣旨ヨリシテ誠ニ明カナルトコロニシテ此ノ目的ナキニ於テハ罪ノ成立ナキコト恰モ刑法第五百十條偽貨收得罪ニ於テ行使ノ目的ナキニ於テハ同條犯罪成立ナキト同様ナルモノナリ交付ヲ受クル者ニ於テ敍上ノ目的ナキニ於テハ或ハ他ノ犯罪(例ヘハ詐欺罪)ノ成立スル場合アルヘシト雖本條犯罪ノ構成要件ヲ欠缺シ其ノ成立ナキモノナリ然リ而シテ原審判決理由中被告人小谷祐通カ植村新之助ヨリ金百圓也ノ交付ヲ受ケタル點ニ於テ其ノ金員ヲ石田金太郎外多紀郡

衆議院議員選舉法第一百二十二條第五號後段ノ犯罪ノ成立ト目的意思ノ要否

土木建築業組合員中選舉有權者ノ投票取纏方ノ資金トシテ之ヲ植村新之助カ被告人小谷祐通ニ交付スルノ事情ヲ被告人小谷祐通ニ於テ知り之ヲ受領シタルモノナルコトハ所論ニ於テ明ナリト雖右金員ノ受領ニ當リ被告人小谷祐通カ斂上目的アリタリトコトニ付テハ一言半句ノ説明アルコトナシ即原審判決ハ此ノ點ニ於テ理由不備ノ違法アルノミナラス原判決理由中證據説明ニ於テ援用セル新之助ノ豫審第一回調書及祐通ノ豫審第一回訊問調書ニ於テモ右目的ノ存在シタル供述ノ認ムヘキモノナキハ勿論却テ被告人小谷カ斂上ノ目的ナクユキカカリ上止ムナク單ニ一時預リ置クトノ意思ニ過キサリシコトヲ認メ得ヘク且右受領ニ係ル金百圓ヲ二月十一日新之助ノ子清ニ預ケ置キタル事實(昭和十一年五月一日附植村清ノ豫審ニ於ケル證人訊問調書及豫審並公判ニ於ケル被告人小谷ノ供述)ヨリシテ明カニ認メ得ルモノナリ而ルニモ不拘原審ハ新之助及被告人小谷ノ右豫審第一回訊問調書ヲ唯一ノ證據トシ援用シ被告人小谷ニ對スル犯罪事實ヲ認定シタルハ審理不盡ノ違法アルノミナラス重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリ假ニ被告人小谷祐通ニ對スル犯罪ノ成立ニ付斂上目的ヲ要セストノ解釋ノ下ニ原審カ之ニ對シ衆議院議員選舉法第百十二條第一項第五號後段ヲ適用シタルモノナリトセハ實ニ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノト云フヘキナリ以上ノ如ク原審判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリ且審理不盡理由不備又ハ法律ノ解釋ヲ誤リテ適用シタルノ不法アリ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

## 【要旨】

衆議院議員選舉法第百十二條第一項第五號後段所定ノ場合ニ在リテハ情ヲ知リテ同法條第一項第一號乃至第三號掲記ノ行爲ヲ行ハシムル目的ヲ以テ爲サル金品等ノ交付ヲ受ケ又ハ之カ交付ノ申込ヲ承諾スルニ依リテ直チニ犯罪ヲ構成シ敢テ其ノ交付ヲ受ケ又ハ交付ノ申込ヲ承諾スル者ニ於テ如上ノ行爲ヲ爲スヘキ目的意思アルコトヲ要セサルモノト解スルヲ相當トス(當院昭和八年(レ)第二七一號同年五月十三日第三刑事部判決參照)然リ而シテ本件ニ於テ被告人小谷祐通カ判示金員ノ交付ヲ受ケルニ當リ該金員カ植村候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ判示選舉有權者ニ對シ供與セラルヘキ投票取纏資金トシテ交付セラレタルモノナルコトヲ認識シ居リタル事實ハ原判論文ヲ通讀スルニ依リ容易ニ觀取シ得ヘキトコロニシテ原判決舉示ノ當該證據ヲ綜合スレハ右事實ハ極メテ明瞭ナルヲ以テ本件被告事件タル犯罪事實ノ判示トシテ毫モ缺クルトコロナシ從テ之ニ反スル見解ニ立脚シ原判決ニハ事實ノ誤認若ハ審理不盡又ハ理由不備ノ違法アリトスル論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事正木亮關與

○詐欺被告事件(昭和十一年(れ)第三〇二三號 棄却)

【上告人】 被告人 近藤次男 辯護人 (山本本二 池田遠思 夫耶)

○判示事項

【第一審】 小倉區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判決要旨

被告事件ノ要旨ノ陳述ト其ノ基ツク書類  
第二審ニ於テ檢事力被告事件ノ要旨ヲ陳述スルニハ第一審判決ニ  
基ツクモノナリ

【參照】 刑事訴訟法第三百四十五條 裁判長被告人ニ對シ第三百三十三條ノ訊問ヲ爲シ  
タル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ  
前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但シ第一審ニ於ケル未決  
勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ第一 昭和十年九月末頃當時一株ノ時價約四十圓相當ノ東京市麴町區ニ本店ヲ有スル日本鑛業株式會社ノ株  
券ト事務取締役ノ氏名並資本總額等ハ相違スレトモ會社名同一ニシテ之ト甚ク類似セル五十株券一枚ヲ入手シタル  
ヨリ該株券ハ一株ニ付僅々數圓ニテ殆ント無價値ニ等シキモノナルコトヲ知悉シナカラ該株券ヲ以テ他ヨリ金員ヲ  
騙取センコトヲ企テ中平貢ニ情ヲ告ケテ同人ト共謀シ中平貢ニ於テ同月三十日門司市磯部清方ニ至リ同人ニ對シ右  
株券ヲ示シ時價二千圓相當ノモノナルカ之ヲ擔保ニ金千圓ヲ貸與セラレ度旨申向ケ以テ同株券ヲ恰モ一株時價約四  
十圓相當ノ右日本鑛業株式會社ノ株券ナルカ如ク裝ヒ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上右株券ヲ擔保トスル貸金  
名義ノ下ニ同日並其ノ翌日ノ二回ニ合計金千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 次イテ右犯行ノ發覺ヲ恐レ中平貢ト更ニ同様ノ手段ニ依リ他ヨリ金員ヲ騙取シテ前記磯部清ニ返済センコトヲ  
共謀シ直チニ被告人ニ於テ東京ニ至リ前同様ノ五十株券一枚(證第一號)ヲ一株ニ付金二圓五十錢ニテ入手シテ八  
幡市ニ歸リ昭和十年十月五日頃中平貢ニ之ヲ手交スルヤ中平貢ニ於テ同月十一日中津市天神町二丁目篠原サト方ニ  
至リ同人ニ對シ右株券ヲ示シ同株券ヲ二、三人ニ見セタルカ立派ナルモノト云ヒ居リタルカ之ヲ擔保ニ金千二百圓  
ヲ貸與セラレ度旨申向ケ以テ恰モ該株券ヲ一株時價約四十圓相當ノ前記日本鑛業株式會社ノ株券ナルカ如ク裝ヒ同  
人ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上之ヲ擔保トスル貸金名義ノ下ニ同日金千二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ  
タルモノニシテ右ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期範圍  
内ニ於テ被告人ニ對シ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク同法第二十一條ヲ適用シ原審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部ヲ右本刑

被告事件ノ要旨ノ陳述ト其ノ基ツク書類

尙第二審第一回公判調書ニハ檢事ハ原審判決書ニ基キ被告事件ノ要旨ヲ陳述シタリ裁判長ハ被告人ニ對シ右檢事ノ陳述ト同旨ノ被告事件ヲ告ケ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヤヲ問ヒタリトノ記載アリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人坂本哲夫上告趣意書第一點ハ原審公判調書ニ徵スレハ公判開始ニ當リ裁判長ハ被告人ニ對シ其人違ナキコトヲ確ムルノ訊問ヲ爲シタル後「檢事ハ原審判決書ニ基キ被告事件ノ要旨ヲ陳述シタリ裁判長ハ被告人ニ對シ右檢事ノ陳述ト同旨ノ被告事件ヲ告ケ(中略)裁判長ハ更ニ被告人ニ對シ問然ラハ此ノ事實ハ間違ナイカ此ノ時原審判決記載ノ第一事實ヲ讀聞カス」(記錄四四〇丁)ノ記載アリテ次ニ又原審判決第二事實ヲ讀聞カセテ事實ヲ審理シタル旨ノ記載アリ(記錄四五二丁)原審公判ハ檢事ノ被告事件ノ陳述カ公判請求書ノ公訴事實ニ基カスシテ開始セラレ從テ原審ノ審判カ公訴事實ヲ對象トセサリシ事跡アルヤ明白ナリ然レトモ元來裁判所ハ司法權ヲ行フ國家ノ機關ニシテ司法權ノ作用ハ裁判權ニシテ其ノ骨子ハ審判權ニアリ而シテ之ニ對シ檢事ハ裁判所ニ屬スル刑罰請求權ヲ實行スル國

家機關ニシテ其ノ職權訴追ノ制ト裁判所ノ職權審理ノ制トハ相互ニ他ノ處分權ノ爲ニ拘束ヲ受ケス各獨立機關ヲ形成スルヲ我國司法制度ノ大精神トシ我刑事訴訟ノ本體ハ訴ノ提起ニ始リ審理ニ移リ判決ヲ以テ終局スルモノナルトコロ審判ハ訴追ヲ前提トシ訴ヲ受ケスシテ審判スルコトヲ許サス所謂不告不理ヲ原則トシテ訴追ノ作用ト審判ノ作用トヲ分別シ審判ノ前提トシテ訴ノ提起ヲ要スルヲ特色ト爲スナリ仍テ檢事ノ職權訴追タル刑事訴訟法第二百七十八條第二百八十八條及第二百九十條ニ依リ原則トシテ書面ヲ以テ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リ公訴ノ提起ヲ爲スモノナルヲ以テ其ノ公判請求書又ハ豫審請求ニ對スル豫審終結決定書ハ所謂被告事件トシテ裁判所ヲシテ職權審理ノ對象トシテ公判ニ於テ審理セシムヘキ事件ノ範圍ヲ限定スル書面ニシテ特ニ重要ナル意義ヲ有スルナリ從テ一度公訴ノ提起アリテ訴訟物體裁判所ノ手ニ歸センカ檢事ハ濫リニ公判請求書又ハ豫審終結決定書ノ公訴事實ヲ離レ之ヲ左右シ得ヘキニ非ス單ニ之ヲ維持シ之ヲ續行スルノ任務アルニ過キス從テ被告事件裁判所ノ審理ニ移レハ檢事ノ主要ナル任務ハ終了シタルモノトスヘキモ特ニ我刑事訴訟法ハ至公至平ヲ期スル上ニ於テ公判ノ審理ハ口頭辯論ニ依ルヲ要スルヲ以テ彈劾訴訟ノ形式上檢事ヲシテ公訴ノ維持續行ヲ圖ラシムル爲公判期日ニ於ケル辯論ハ檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ以テ之ヲ開始スヘキ規定アル所以タルナリ仍テ其ノ被告事件ノ陳述タル被告事件トアル文字ノ意義ヨリスルモ必スヤ檢事カ職權ニ依リ被告人ニ對シ裁判所ニ訴追シタル公訴事實タラサルヘカラサルヤ論ナシ固ヨリ本件ハ豫審ヲ伴ハサル

被告事件ノ要旨ノ陳述ト其ノ基ツク書類

モノナルヲ以テ公訴事實ノ記載アル檢事ノ作成シタル公判請求書ヲ措イテ他ニ被告事件ヲ求ムルニ由ナキナリ然ルニ原審公判ニ於テ檢事ハ第一審判決書ニ基イテ被告事件ノ要旨ヲ陳述スト雖斯ノ如キハ正ニ裁判所ノ職權範圍ヲ侵害スルモノニシテ被告事件ノ意義ヲ失ヒタルモノト謂フヘク判決書ハ裁判所カ其ノ職權ニ於テ獨自ノ立場ニ立チ被告事件ヲ檢事ノ意見ニ羈束セラルルコトナク審判シタル結果ヲ表示スル書面ナルヲ以テ或ル場合ニ於テハ其ノ内容被告事件ト異ルコトアルヘク偶其ノ内容同一ナリトスルモ判決書ノ性質上檢事カ判決書ニ基キテ被告事件ノ要旨ヲ陳述スルカ如キハ刑事訴訟法第三百四十五條カ公判開始ノ要件タルニ鑑ミ同法第二百九十五條ノ豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキヤ否ヲ決スルヲ目的トストノ規定ニ照シ更ニ裁判所構成法第六條第二項並第八十一條ノ規定ノ存スルアリ檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フヘク如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得サルモノナルヲ以テ斯ノ如キハ絶對ニ裁判所ト檢事トノ職權ノ混淆ヲ來スモノトシテ許スヘカラサルモノナリト信ス從テ原審裁判所カ被告人ニ對シ檢事ノ陳述ト同旨ノ被告事件ヲ告ケ第一審判決書記載事實ヲ讀聞カセテ事實ヲ審理シタルノ失當ナルヤ論ヲ俟タス固ヨリ舊刑事訴訟法ノ時代ナリトセハ控訴ノ理由アルト否トニ由リテ原判決ヲ取消シ又ハ控訴棄却ノ言渡ヲ爲スモノナルヲ以テ控訴裁判所ハ第一審判決ヲ批判スルノ地位ヲモ保有スルコトヲ認ムルヲ得ヘク從テ唯控訴ヲ爲シタル者ヨリ其ノ申立ヲ爲シタル趣旨ヲ陳述シテ控訴裁判所ノ第一審判決ニ對スル批判ヲ

求ムルヲ以テ足り檢事ハ第一審ト同シク被告事件ノ陳述ヲ爲スコトヲ要セス固ヨリ本件ノ如ク第一審判決書ノ陳述ニ依ルモ敢テ不當ニ非サリシナルヘシト雖現行刑事訴訟法第四百一條及第四百七條ノ規定ニ依レハ控訴ノ審判ハ特別ノ場合ヲ除クノ外第一審ニ於ケル審判ト同一ニシテ第一審ニ於ケルト同一ナル審判ヲ再度反覆スルニ在ルヲ以テ所謂覆審ノ制ヲ採用シタルモノナルコト疑ヲ容レヌ從テ既ニ覆審ノ制ヲ採用シタリト觀ルヘキ以上第二審ニ於テモ第一審ノ當初ニ遡リ第一審ニ於ケルト同シク檢事ハ公判請求書又ハ豫審終結決定書ニ基キ被告事件ノ要旨ヲ陳述シ以テ裁判所ニ對シ如何ナル被告事件ニ付審判ヲ求ムルヤヲ告ケ裁判所ハ審判ヲ爲スヘキ事項ヲ之ニ依リテ了知シタル後ニ於テ始メテ被告人ノ訊問及證據ノ取調ヲ爲スコトヲ得ヘク之ニ違背スルトキハ之ヲ覆審ノ制ト認ムヘカラサルモノナルヲ以テ其ノ公判ノ審理ハ之ヲ判決ノ基本ト爲スコトヲ得サルモノトスヘキナリ(御院大正十三年(レ)第八五號同年三月二十七日第二刑事部判決刑集第三卷二四六頁御參照)仍テ上敍ノ理由アルニ依リ結局原審ハ檢事ノ被告事件ノ陳述ナクシテ審判シタルコトニ歸シ原判決ハ刑事訴訟法第四百十條第十二號ニ依リ破毀セラルヘキモノニシテ我刑事訴訟法ノ根本精神ニ違反スルノ違法アルナリト云フニアレトモ

刑事訴訟法第三百四十五條ニハ檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシトアリテ其ノ陳述ニ基ク書類ヲ限定セサルカ故ニ苟モ起訴ノ範圍ヲ知り得ル程度ナラハ可ナリ必ラス公判請求書ニ基クニアラサレハ其

【要旨】

ノ陳述ハ不適法アリト謂フヘキニ非ス普通ハ起訴ノ範圍ヲ知ルニ最モ簡捷便宜ナリトシテ檢事ハ公判請求書又ハ豫審終結決定書ニ基キ陳述スルヲ例トスレトモ控訴審ニ於テハ第一審判決力寧ロ一層明確ニシテ適切ナルコトアルヲ以テ起訴範圍ヲ脱セサル以上ハ之ニ基キ陳述スルモ何等不當ノ點ナシ本件公判調書ニハ檢事ハ第一審判決ニ基キ被告事件ノ要旨ヲ陳述シタリトノ記載アリ而シテ該要旨ハ公判請求書記載ノ事實ト同趣旨ナルヲ以テ原判決ニハ所論違法ノ點ナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事猪俣治六關與

○竊盜被告事件

(昭和十一年(九)第三一三七號  
同十二年三月十日第三刑事部判決)

棄却)

【上告人】

被告人

鍋島定吉

外一名

辯護人

赤井松定  
下井幸夫  
森下龜太郎

【第一審】大阪區裁判所 【第二審】大阪地方裁判所

○判示事項

共同保管ノ侵害ト竊盜

○判決要旨

倉庫責任者ノ補助トシテ貨物入出庫ノ勞務ニ從事スル者ハ倉庫責任者ト共同シテ貨物保管ノ責ヲ負フ者ナレハ擅ニ之ヲ處分スルトキハ倉庫責任者ノ占有ヲ侵害シタルモノトシテ竊盜罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人定吉ヲ懲役八月ニ同利平ヲ懲役十月ニ各處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人船越利平ハ昭和九年十月初頃ヨリ同年十二月二十一日頃迄ノ間三回ニ互リ株式會社住友倉庫所屬ノ大阪市港區北海通倉庫ニ於テ同倉庫責任者畑源吉保管ニ係ル他人所有ノ玄米合計二十一俵ヲ竊取シ

第二 被告人等ハ共謀ノ上昭和十年七月二十九日頃ヨリ昭和十一年三月二十八日頃迄ノ間八回ニ互リ右倉庫ニ於テ右畑源吉保管ニ係ル他人所有ノ玄米合計二百七十五俵ヲ竊取シ

共同保管ノ侵害ト竊盜

タルモノニシテ被告人等ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ夫々刑法第二百三十五條第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期限範圍内ニ於テ被告人鍋島定吉ヲ懲役八月ニ同船越利平ヲ懲役十月ニ各處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人鍋島定吉辯護人一松定吉 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人等ハ共謀ノ上昭和十年七月二十九日頃ヨリ昭和十一年三月二十八日頃迄ノ間八回ニ互リ株式會社住友倉庫所屬ノ大阪市港區北海岸通倉庫ニ於テ同倉庫責任者畑源吉保管ニ係ル他人所有ノ玄米合計二百七十五俵ヲ竊取シタルモノナリ」ト判示シ刑法第二百三十五條等ヲ適用處斷シタリ然レトモ記録ヲ閱スルニ判示倉庫内ノ米ノ現實ノ所持者ハ上告人等ナルコト自ラ明ナリトス即判示倉庫内ノ米ハ或ハ理論上判示畑源吉ニ存スヘキ筈ナルカ如シト雖竊盜罪ニ於ケル所謂所持又ハ橫領罪ニ於ケル所謂占有ハ唯單ニ理論的形式的ノモノニアラスシテ現實ノ所持現實ノ占有ヲ意味スルモノナルコト茲ニ多言ヲ要セサル處而シテ(一)原判決ニ引用シタル株式會社住友倉庫築港營業所北海岸通倉庫責任者畑源吉ニ對スル檢事聽取書ニ依ルモ同人ハ唯單ニ理論上判示倉庫ノ鍵ニ付責任ヲ有スルモ現實ニ於テハ自ラ保管セサル

モノナルコト明ニシテ(二)記録ヲ通覽スルニ上告人鍋島並船越等ニ於テハ現實自由ニ右鍵ヲ用ヒテ判示倉庫ヲ開閉シ判示倉庫内ノ貨物ヲ出入シ居リタルコト極メテ明ニシテ(三)殊ニ第一審公判調書ニ於ケル船越ノ供述記載ニヨレハ倉庫内ノ貨物ノ出入ノ間違ニ付キテハ同人ニ於テ辨償ヲ命セラルル實情ニ在リ且(四)原審ニ於ケル上告人等ノ供述ニ依レハ糯米引渡ニ付俵數ニ不足ヲ生シタル場合ニ於テ上告人等ニ於テ其ノ引取主ト交渉ノ上之ヲ解決シタル事實アリテ此等各般ノ事實ヲ綜合スルトキハ判示倉庫ニ於ケル貨物ニ付キテハ源吉ニ於テ所持スヘキ筈ナリト雖右ハ唯單ニ倉庫ノ規定上然ルニ過キスシテ事ノ實際ニ於テハ其ノ現實ノ所持ハ上告人等ニ存在シタルモノナルコト極メテ明ニシテ從ツテ上告人等ニ於テ現實所持スル物ニ付上告人ニ對シテ竊盜罪ヲ認メ得ヘカラサルヤ言ヲ要セサル處ナリ左レハ上告人等ニ對シテハ或ハ橫領ノ罪ヲ認メ得ヘカラサルニ非スト雖上告人等ノ前示所爲ヲ以テ竊盜罪ヲ構成スト斷シタル原判決ハ事實ノ誤認アルコト顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアリ

仍テ案スルニ原判決ノ事實認定ハ其ノ辭句簡ニ失スルノ憾ナキニ非スト雖判示事實ヲ援用ニ係ル證據ト對照考覈スルニ其ノ趣旨トスルところハ要スルニ被告人兩名ハ株式會社住友倉庫ノ仲仕トシテ同會社所屬大阪市港區北海岸通倉庫ニ於テ同倉庫責任者畑源吉ノ指揮監督ノ下ニ其ノ機械的補助者トシテ同人保管ニ係ル寄託玄米ノ入出庫ニ關スル勞務ニ從事中單獨又ハ共謀ノ上判示日時判示玄米ヲ竊取シ



【要旨】

タリト謂フニ外ナラサルヲ以テ同事實ニ依レハ被告人等ハ單ニ畑源吉ノ機械的補助者トシテ判示玄米ノ出入庫ニ關スル勞務ニ從事シ居リタリト謂フニ過キスシテ判示玄米ハ畑源吉ト共同保管ニ係ルモノニ外ナラサレハ被告人カ其ノ出入庫ニ關シ之ヲ支配シ得ル地位ニ在リタレハトテ畑源吉ノ占有ヲ侵害シタル點ニ於テ竊盜罪ヲ構成スルヤ言フ俟タス論旨ハ畢竟判示ニ副ハサル獨自ノ見解ニ基キ原判決ノ事實認定ヲ攻撃スルモノニ外ナラスシテ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事一木輔太郎關與

○名譽毀損被告事件

(昭和十一年(九)第二六八五號 棄却)  
同十二年三月十一日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 吉田 淺吉 辯護人 倉金熊次郎

【第一審】 下妻區裁判所 【第二審】 水戸地方裁判所

○判示事項

一所爲數法ニ觸ルル親告罪ノ犯行ノ一部ニ告訴アリタル場合ト審判ノ範圍

○判決要旨

一所爲數法ニ觸ルル行爲カ告訴ヲ俟ツテ論スヘキ場合ニ於テ其ノ一部ニ對シ告訴アリテ第一審裁判所之ヲ審判シ第二審ニ於テ其ノ他ノ部分ニ對シ更ニ告訴アリタルトキハ之ヲ含メテ全部ノ審判ヲ爲スヘキモノトス

【參照】 刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ

結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

刑事訴訟法第二百八十條 公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ボサス

同法第二百五十八條 犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金一百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ茨城縣眞壁郡雨引村村會議員ナルトコロ昭和十年十月中「村民各位ニ訴フ」ト題スル小冊子ヲ印刷シ右小冊

一所爲數法ニ觸ルル親告罪ノ犯行ノ一部ニ告訴アリタル場合ト審判ノ範圍

子中二

第一 「(延島) 太一(成田) 正七郎の兩議員は書記問題にて役場に暴れ込んだので眞壁警察署に檢舉せられ留置せられたのでありますが取調べが済んで翌日釋放せられて書類のみが下妻検事局に送られ其の後太一 正七郎の兩人共に村長も召喚せられて御取調の結果太一 正七郎の兩人は今後の行動を戒められ起訴猶豫となつて歸されたのであります」トノ

第二 「雨引村収入役笠倉市三郎は學校の先生や商人に金を支拂ふに當りまして關係者が支拂を請求致しても其の都度役場には金がないと申して眞直には必ず金を支拂はぬとの事であります其の場合に請求者は直に支拂をして貰ひ度い所から酒一升持つて行くと漸く支拂つて呉れるのだそうであります其の事は既に一般關係者の評判となつて居りますので私は笠倉氏の其の不純なる行動を責め同時に収入役をもやめて貰ふべく村長に迫りたるところある議員達の意見としては収入役の之れ迄の行動は誠に遺憾であるにより今後は絶対に左様な事はさせない萬一再び左様な事を致しました場合には何時にても退職せしめますにより今回は特に寛大にして笠倉氏の殘任期迄は是非勤めさして呉れとの議員の盡力を了察して心ならずも其の儘にしたのでありますそれ以來先生方より酒をもらふ事はやめた様であります但其の他の商人連中に對しては矢張り評判がよくないのであります如何なる人々でも全部に涉りまして少しの落度もない様にと斷言する事は出来ませんが笠倉氏の如き立派な財産の持主でありながら僅かな俸給者等より假令一升の酒でももらはなければ支拂をせぬ等の事は笠倉個人の問題ばかりでなくして雨引村の恥辱であります」トノ

各記事ヲ掲載シ其ノ頃該小冊子七八百部ヲ雨引村各村民及同村並其ノ隣村各役場等ニ頒布シ以テ公然事實ヲ摘示シテ判示第一ノ記事ニ付眞壁郡雨引村村會議員延島太一ノ名譽ヲ判示第二ノ記事ニ付同村収入役笠倉市三郎ノ名譽ヲ各毀

損シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ延島太一並笠倉市三郎ニ對スル名譽毀損ノ所爲ハ孰レモ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ犯情重キ笠倉市三郎ニ對スル名譽毀損罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金一百圓ニ處シ右罰金不完納ノ場合ノ勞役場留置處分ニ付同法第十八條ヲ適用スヘキモノトス(下略)

尙公判請求書ニハ被告人ハ笠倉市三郎ノ名譽ヲ毀損スル記事ヲ掲載シタル小冊子ヲ頒布シタルモノナリトノ起訴事實ノ記載アリ第一審判決ハ該事實ヲ有罪ト認メ被告人ヲ罰金百圓ニ處シタルニ被告人ハ之ヲ不服トシ控訴ヲ申立テタルヨリ第二審裁判所ハ公然事實ヲ摘示シタル小冊子ヲ頒布シ延島太一及笠倉市三郎ノ名譽ヲ各毀損シタルモノナリト認定シ被告人ヲ罰金一百圓ニ處シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人倉金熊次郎上告趣意書第三點ハ原判決ハ法律違背ノ違法アリ原審ハ原審檢事ノ追訴ニ係ル延島太一告訴ニ係ル名譽毀損罪ノ審理ヲ爲シタルモ之法律違背ノ違法ナリト云ハサルヘカラス本件上告人ノ所爲ハ印刷物ニ依ルモノナリ故ニ其ノ所爲單一ナリ即一行爲ナリ一行爲數人ノ名譽ヲ毀損センカ其

一所爲數法ニ觸ルル親告罪ノ犯行ノ一部ニ告訴アリタル場合ト審判ノ範圍

ノ罪タルヤ數罪ナルヘシト雖其ノ一人ニ對スル罪ニ依リ起訴セラレ既ニ第一審判決ヲ受ケンカ茲ニ中斷セラルヘキモノト信ス況ンヤ控訴審タル原審ニ於テ第一審ノ審理ヲ經サル事件ノ審理ヲ爲スト云フカ如キハ我カ刑事訴訟法上之ヲ觀念シ得ル處ニアラサルナリ然ルニ原審ハ原審檢事ノ追訴ニ基ク延島太一ニ對スル事案ノ審理ヲ爲シタルハ明ニ法律違背ノ違法アリ御院ニ於テ破毀セララルモノト信スト云フニアレトモ

一 所爲數法ニ觸ルル行爲アリタルトキハ其ノ一部ニ付起訴セラレタルトキト雖其ノ全部ニ付審判スヘキモノトス唯其ノ部分中親告罪アリタルトキハ告訴ナキ以上ハ之ヲ處罰スルヲ得サルニ過キサルカ故ニ其ノ後ニ於テ告訴アリタルトキハ起訴事實ニ明記ナキトキト雖固ヨリ之ヲモ審判スヘキモノトス本件ニ於テハ第一審判決ハ起訴セラレタル部分ニ對シ判決シタルモ之ト一所爲數法ノ關係ニアル他ノ名譽毀損ノ點ハ告訴ナキカ故ニ之ヲ爲ササリシニ止リシカ第二審ニ於テハ其ノ部分ニ付テモ告訴アリタルヲ以テ之ヲモ含メテ全般ノ審判ヲ爲シタルモノニシテ何等違法ノ點ナキノミナラス第一審判決ハ未タ確定セサルカ故ニ之ニ因リ右關係ヲ中斷シタルモノト謂フヘキニアラス原判決ニハ所論違法ノ點ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事池田克關與

【要旨】

○傷害教唆同幫助公務執行妨害教唆同幫助建造物侵入教唆暴行  
被告事件

(昭和十一年(九)第二九五四號  
同十二年三月十日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 小林重太郎 辯護人 林真逸 林山 西本 正一 松  
外四名  
【第一審】 甲府地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方——間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立——公訴事實ノ同一性

○判決要旨

一 有罪判決ノ證據說示トシテハ判示事實ヲ認メタル證據ヲ舉示ス

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實  
ノ同一性

レハ足り其ノ證據ヲ取捨シタル所以ノ理由ヲ明示スルコトヲ要セサルモノトス【要旨第一】

二 刑法第六十一條第二項及第六十二條第二項ハ正犯ニ對スル一切ノ間接教唆及間接幫助ヲ處罰スルコトニ付テノ例示規定ト解スヘキニ因リ間接教唆ニ對スル幫助モ刑法第六十二條第六十一條第二項ニ則リ處罰スヘキモノトス【要旨第二】

三公務執行妨害ノ起訴事實ニ付之ヲ教唆犯ト認メ建造物侵入ノ起訴事實ニ付之ヲ教唆犯ト認メ又共謀ニ因ル傷害ノ起訴事實ニ付單獨暴行ノ事實ヲ認ムルモ公訴事實ノ同一性ヲ害スルモノニ非ス【要旨第三】

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ  
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ  
刑法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス  
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

同法第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

同法第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

刑事訴訟法第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人小林重太郎同秋山清同三井知造同田中恒雄ヲ各懲役六月ニ被告人飯島浩ヲ懲役四月ニ各處ス但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人小林重太郎同秋山清ニ對シテハ各三十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス被告人飯島浩同三井知造同田中恒雄ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ三年間夫々右刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

甲府市ニ於テハ同市助役長田孝吉カ昭和九年四月十八日任期滿了シテ退職スルヤ甲府市會ハ其ノ後就任者ヲ決定スルニ付引續キ右孝吉ノ就任ヲ要望スル市政研究會所屬市會議員ノ一派ト之ニ反シ市長新海榮治ヲ支持シテ同市長ノ推薦スル者ヲ助役ニ就任セシメントスル甲府革新黨及革正會所屬市會議員ノ一派トニ別レテ對立抗爭スルニ至リタルカ同市長カ市政研究會一派ノ要望ヲ顧スシテ元山梨縣理事官藤原忠夫ヲ助役ニ推薦シ直ニ市會ヲ召集シテ一舉ニ之ヲ可決セシメントスル企圖ノ下ニ同年十月十三日午後一時ニ市會ヲ開催シテ助役決定ノ件ニ付議決ヲ爲サシムルコトトシ同

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實 三〇一 (七)

月七、八日頃市政研究會所屬市會議員ニシテ同市會副議長ノ職ニ在リタル飯島浩ヲ招致シテ市政研究會ノ了解ヲ希望シタル上同月十日各市會議員ニ對シ右招集ノ通知ヲ發シタルニ因リ市政研究會一派ノ市會議員ハ急遽相集リ之カ對策ヲ討究スルニ至リタルカ被告人小林重太郎同秋山清同三井知造同田中恒雄同飯島浩ハ孰レモ市政研究會所屬ノ同市會議員ニシテ共ニ前記市長ノ措置ヲ以テ同市長カ同年四月頃助役ノ推薦ニ關シ前市會議長今井茂右衛門ト公約シタル趣旨ニ背戾スルノミナラス豫メ市會議員ノ協議會ヲ開キテ之ニ諮ルノ前例ヲ無視スルモノニシテ痛ク同被告人等同志ノ市會議員ノ面目ヲ蹂躪スルモノナリト思料シテ痛憤シタルモ其ノ同志ノ數ヲ以テシテハ到底市長ヲ支持スル市會議員ニ對抗シ難ク其ノ儘右市會ニ臨ムニ於テハ忽チ敗戦ニ陥ルノ情勢トナレルヲ知ルヤ自派ノ體面ヲ保持センカ爲同年十月十日頃ヨリ甲府市櫻町ナル料亭紅梅方等ニ於テ協議ヲ重ネ同月十日頃同所ニ於テ先ツ市長ヲ支持スル市會議員中ノ數名ヲ物色シテ之ヲ勸誘シ被告人等ト同一行動ニ出テシメムコトヲ決定シタルカ更ニ右勸誘效ヲ奏セサル場合ハ同市會ニ於テ同市長新海榮治ヲ詰問シ同市長カ尙態度ヲ改メサルニ於テハ同被告人等ニ於テ市長席ニ迫リテ暴行ヲ加ヘ且ツ豫メ同市會傍聽席ニ暴力團員ヲ潛入セシメ置キ之ト相呼應シテ喧騒ヲ爲サシメ議場ヲ混亂ニ陥レテ同市會ヲ流會ノ止ムナキニ至ラシムルコト其ノ他二、三事項ニ付種々協議ヲ重ネタルカ差當リ各自分擔ヲ定メテ右反對派市會議員ノ勸説ニ努ムルコトトナシ其ノ頃被告人浩ハ同市會議員雨宮豐ヲ被告人重太郎同清ハ相共ニ同市會議員秋山幸右衛門ヲ次テ同雪江明雄ヲ被告人重太郎同知三ハ相共ニ同市會議員寺田七男ヲ夫々訪問シテ前記ノ趣旨ヲ以テ勸説シタルモ孰レモ之ヲ拒絶セラレタル爲茲ニ於テ

第一 被告人小川重太郎、同秋山清、同三井知造、同田中恒雄ハ其ノ頃前記紅梅ニ會シ右雪江明雄、秋山幸右衛門、上野庚午郎等ノ市長支持派ノ市會議員ヲ被告人三枝實太郎等ノ輩下ノ暴力團員ヲ利用シテ脅迫シ前記市會當日同市會議員ヲ缺席セシメテ其ノ議事ヲ爲スヲ得サランシメ同市會ヲ自派ニ有利ニ展開セシメムコトヲ共謀シ因テ同月十二

日頃夜同被告人等ハ前記紅梅ニ被告人實太郎ヲ招致シ同人ニ對シ前記目的趣旨ヲ以テ同被告人等ノ輩下ヲ市長ヲ支持スル市會議員上野庚午郎、同雪江明雄、同秋山幸右衛門方ニ遣ハシ同人等ヲ同市會ニ出席セシメサルヤ脅迫セシムヘキコトヲ委囑シ因テ同被告人ニ後記第二記載ノ犯行ヲ爲スノ決意ヲ生セシメ以テ同被告人ヲ教唆シ其ノ結果更ニ同被告人ノ教唆ニ因リ原審相被告人伊藤三郎等ヲシテ同記載ノ各犯行ヲ實行スルニ至ラシメ以テ被告人重太郎同清、同知造、同恒雄ハ共同シテ右教唆者タル被告人實太郎ヲ教唆シ

第二 被告人三枝實太郎ハ甲府市ニ於テ土木請負業ヲ營ミ三枝ノ親分ト稱セラレ其ノ配下ニ屬スル乾兒ヲ擁シ被告人重太郎トハ同人ヲ所謂叔父分トシテ特ニ懇親ノ間柄ニ在リ被告人清トモ平素昵懇ノ關係ニ在ルモノナル處前記第一記載ノ日時場所ニ於テ同記載ノ如ク被告人重太郎、同清、同知造、同恒雄ヨリ前記趣旨ノ依囑ヲ受クルヤ平素懇親ナル被告人重太郎同清等トノ關係上之ヲ應諾シ

(一) 同月十二日夜其ノ肩書居宅ニ於テ被告人三枝正夫ト共謀共同シテ自己ノ乾兒タル伊藤三郎及右正夫ノ乾兒タル鹽島伊七、同塚田久吉ニ對シ前記市會議員上野庚午郎方ニ赴キ前記目的ノ爲ニ脅迫スヘキコトヲ命シ因テ同夜同人等ヲシテ甲府市若松町十一番地ナル革正會所屬市會議員上野庚午郎方ニ到リ共同シテ同人ノ妻壽惠ニ對シ「明日ノ市會ハ揉メルソウダ危險ダカラ出席セヌ方ガヨイ」「明日ノ市會ニ出テ見ロ土手腹ヲ抉ツテ了フゾ、命ガ惜シクバ來ルナトソウ言ヘ」等ト申向ケシメ以テ同女ヲ介シ庚午郎ニ對シ同人ヲシテ議員トシテ前記市會ニ出席シ其ノ議事ヲ爲スコトヲ得サランシムルカ爲同人カ右市會ニ出席スルニ於テハ同人ノ生命身體ニ危害ヲ加フヘキ言辭ヲ示サシメテ同人ヲ脅迫セシメ

(二) 同月十三日朝肩書自宅ニ於テ自己ノ乾兒タル志村勇治、同伊藤三郎ニ對シ前記市會議員雪江明雄及同秋山幸右衛門方ニ赴キ同人等ヲ前記目的ノ爲前同様ニ脅迫スヘキコトヲ命シ因テ同人等ニ該犯行ヲ決意セシメ以テ教唆

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方

間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實

シ同人等ヲシテ被告人正夫ノ乾兒ニシテ自ラ進ンテ該犯行ニ加擔セル原審相被告人坂田安義ト共ニ同月十三日午前七時三十分頃同市朝日町一番地ナル甲府革新黨所屬市會議員雪江明雄方ニ到リ同人ニ對シ「今日市會へ行クカ行クト爲ニナラメゾ何ガ出ルカ分ラネエゾ」等ト申向ケシメ引續キ同日同市東青沼町六百二十九番地ナル甲府革新黨所屬市會議員秋山幸右衛門方ニ到リ同人ニ對シ「今日ノ市會デハ四人許リノ議員ヲヤツテ終フト言フコトデ其ノ中ニ貴方ノ名モアツタカラ知ラセニ來タ、オ氣ヲツケ下サイ、行カナイ方ガイイデスヨ」等ト申向ケシメ孰レモ同人等ヲシテ市會議員トシテ右市會ニ出席シ其ノ議事ヲ爲スコトヲ得サラシムル爲同人等カ右市會ニ出席スルニ於テハ同人等ノ身體ニ危害ノ及フヘキ旨ノ言動ヲ示サシメテ夫々同人等ヲ脅迫セシメ

第三 被告人秋山清、同小林重太郎ハ同年十月十二日頃前記第一記載ト同一ノ目的趣旨ヲ以テ市長支持派ノ市會議員古屋重雄ニ對シ被告人清ノ輩下ヲシテ脅迫セシメムコトヲ共謀シ依テ被告人清ニ於テ同日夜同被告人肩書自宅ニ於テ被告人清ノ輩下ナル原審相被告人新津今朝吉ニ對シ右古屋重雄方ニ赴キ同人ヲ前記目的ノ爲ニ脅迫スルコトヲ委囑シ因テ同人ニ該犯行ノ決意ヲ生セシメテ以テ教唆シ同人ヲシテ同月十三日朝甲府市紅梅町六番地ナル革新黨所屬市會議員古屋重雄方ニ到リ同人方ノ女中柳井利代ニ對シ「當家ノ主人ハ電力會社ノ重役ヲシテ居ナガラ市ノ金ヲ費ヒ込ンダ、今日市會へ行クト其ノ儘デハ置カヌカラ主人ニヨクソウ云ヘ」ト申向ケ女中ヲ通シ右重雄ニ對シ同人ヲシテ前記市會議員トシテ右市會ニ出席シ其ノ議事ヲ爲スヲ得サラシムル爲同人カ右市會ニ出席スルニ於テハ同人ノ身體ニ危害ヲ加フヘキ言動ヲ示シテ同人ヲ脅迫セシメ

第四 被告人小林重太郎、同秋山清、同三井知造、同田中恒雄ハ前記冒頭記載ノ如ク同月十日頃前記紅梅ニ於ケル協議決定ニ基キ夫々秋山幸右衛門等市會議員數名ヲ勸誘シタルモ何レモ拒絕セラレタル爲遂ニ被告人等ハ前記第一記載ノ如ク被告人三枝實太郎ニ於テ委囑シタルカ尙同被告人等ハ更ニ前記冒頭記載ノ同月十日夜右紅梅ニ於テ協議シ

タル如ク厭クマテ右市會ヲ流會ニ了ラシムル爲更ニ暴力團員ヲ利用シテ市長新海榮治及同派市會議員ニ對シ暴行傷害ヲ加ヘ同市會ニ於ケル同人等ノ職務ヲ行フコトヲ得サラシムルコトヲ企テ其ノ後前記紅梅等ニ於テ謀議ヲ重ネテ之ヲ共謀決定シタル上同月十二日頃夜右紅梅ニ於テ被告人實太郎ニ對シ被告人重太郎、同清ヨリ右共謀ニ基キ右ノ如ク市會議員脅迫ノ件ヲ委囑シタル際同被告人ニ對シ併セテ前記趣旨ノ依頼ヲ爲シ同日被告人浩ヨリ調達ヲ受ケタル金四百圓中三百圓ヲ其等ノ報酬トシテ右被告人實太郎ニ交付シ同日更ニ被告人正夫及同佐藤文次郎ヲ右紅梅ニ招致シテ同人等ニ對シ被告人重太郎ヨリ右兩名ニ對シ右市會當日被告人實太郎及正夫ノ輩下ト共ニ同議場ニ赴キ右市長及市長派市會議員ヲ毆打シ其ノ職務ノ執行ヲ妨ケ議場ヲ混亂セシメラレ度キ旨ヲ委囑シタルカ其ノ際右實太郎ヨリ電話ヲ以テ右市長等ニ對スル暴行ニ關スル依頼ヲ拒絕セラレタルニヨリ同人ニ手交シタル右三百圓ヲ被告人正夫ニ供與スルコトトシタルカ更ニ其ノ翌十三日朝右紅梅ニ於テ被告人重太郎、同清、同知造等ハ右共謀ノ趣旨ヲ確實ニ實行セシムル爲右正夫ニ對シ市長ニ對スル暴行傷害ハ同市長ノ登廳スルヲ擁シ同市役所外ニ於テ之ヲ決行シ同市長ニシテ同市會ニ於ケル議事參與ノ職務ヲ行フコトヲ得サラシムルコトトセラレ度シト依頼シ其ノ後同市長カ既ニ登廳シタル旨ノ報告ニ接スルヤ被告人重太郎ハ右共謀ノ趣旨ニ基キ被告人正夫ニ對シ然ラハ同市役所内市長室ニ侵入シテ右犯行ヲ爲ス可キ旨ヲ懇懇シテ因テ同被告人ニ後記第五ノ(一)(二)記載ノ犯行ヲ爲スノ決意ヲ生セシメテ同記載ノ如ク更ニ原審相被告人鹽島伊七、同塚田久吉等ヲ教唆シテ同記載ノ犯行ヲ實行セシムルニ至ラシメ以テ被告人重太郎、同清、同知造、同恒雄ハ共謀シテ教唆者被告人正夫ニ對シ右市長ノ職務上ノ處分ヲ爲ササラシムル爲暴行傷害ヲ加ヘシメンコトヲ教唆シ被告人重太郎ハ教唆者被告人正夫ニ對シ尙右犯行ノ手段トシテ建造物不法侵入ヲ教唆シ第五 被告人三枝實太郎ハ被告人實太郎ノ長男ニシテ平素運送業ニ従事スル傍ラ乾兒數名ヲ有シ右實太郎ト同様所謂親分ト稱セラレ居ル者ナル處

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實

(一) 前記第二ノ(一)記載ノ如ク被告人實太郎カ被告人重太郎等ヨリ依頼セラレタル趣旨ニ基キ同市會議員上野庚午郎ヲシテ前記市會ニ缺席セシメテ其ノ議事ヲ爲ス能ハサラシムル爲之ヲ脅迫スル目的趣旨ヲ以テ被告人實太郎ト共同シテ同記載ノ日時場所ニ於テ右伊藤三郎及自己ノ乾兒ナル鹽島伊七、同塚田久吉ニ對シ同記載ノ如キコトヲ命シ同人等ヲ教唆シテ同記載ノ如キ犯行ヲ爲サシメ

(二) 被告人重太郎ヨリ前記第四事實記載ノ如キ經緯ヲ以テ同記載ノ如キ依頼及示唆ヲ受ケテ結局同記載ノ如キ目的趣旨ヲ以テ市長新海榮治ニ對シ自己ノ乾兒ヲシテ暴行傷害ヲ加ヘシムコトヲ決意シ同月十二日夜及同月十三日朝肩書自宅及其ノ他ニ於テ自己ノ乾兒ナル原審相被告人鹽島伊七、同塚田久吉ニ對シ前記ノ如キ目的趣旨ヲ告ケテ當初ハ市會議場或ハ市役所ノ屋外ニ於テ最後ニ被告人小林重太郎ノ慫慂ニ因リ同市役所内市長室ニ侵入シテ同市長ニ暴行傷害ヲ加フ可キコトヲ命シ因テ同人等ヲシテ該犯行ヲ決行スルノ犯意ヲ決定セシメテ同人等ヲシテ自ラ進ンテ該犯行ニ加擔セル原審相被告人横山重春ト共ニ同年十月十三日午前十一時頃不法ニ同市役所内ナル市長室ニ侵入シ右伊七及久吉ハ孰レモ其ノ前日被告人佐藤文次郎等ヨリ示唆セラレタル如クコンクリート破片ヲ以テ(右重春ハ手拳ヲ以テ)相共同シテ市長新海榮治ノ頭部ヲ毆打シ因テ同人ノ顛頂部右額部ニ治療約二週間ヲ要スル創傷ヲ蒙ラシメ

第六 被告人佐藤文次郎ハ被告人清ノ眷顧ヲ受ケ同人ト特別昵懇ノ關係ヲ有スルモノナル處前記第四事實記載ノ如ク同日時場所ニ於テ被告人重太郎ヨリ同記載ノ如キ趣旨ノ暴行等犯行ヲ爲スヘキコトヲ被告人正夫ト共ニ依頼セラレルルヤ之ヲ應諾シ右正夫等ト共同シテ右依頼ノ如キ趣旨ノ犯行ヲ爲サンコトヲ決意スルニ至リタルカ同月十三日朝被告人正夫ノ肩書住居又ハ其ノ附近ニ於テ同人及同人ノ教唆ニ依リ既ニ同市長ニ對スル公務員ノ處分妨害ノ爲ノ暴行傷害ノ決意ヲ爲シタル其ノ乾兒ナル右鹽島伊七、坂田久吉等ト同市長ニ對スル暴行傷害ノ實行方法ニ付話合ヒタル

際右伊七及久吉等ニ對シ該犯行ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ右傷害ノ爲ニ使用スル兇器トシテハ石塊等ヲ使用ス可シト申向ケ以テ同人等ノ前記第五ノ(二)事實記載ノ右市長傷害ノ實行方法ニ付助言ヲ與ヘテ其ノ兇器トシテ同記載ノ如キ物件ヲ使用セシメテ該犯行(但シ同市長ニ對スル傷害及同市長ノ公務員トシテノ處分妨害ノ點)ヲ幫助シ第七 被告人飯島浩ハ前記冒頭記載ノ如ク同月十日頃右紅梅ニ於ケル會合ニ列席シ同記載ノ如キ協議ニ加ハリ其ノ決定ニ基キ其ノ翌日頃市會議員兩宮豐ヲ訪ネテ勸説シタルモ拒絕セラレ其ノ後前記秋山幸右衛門其ノ他ノ市會議員モ右勸誘ニ應セサルコトヲ聞知シ此ノ儘ニテ同市會ニ臨ムトキハ被告人一派ノ收北トナルコト明トナリタルニヨリ右會合ニ於テ論議シタル前記ノ如キ手段ヲ以テ同市會ヲ流會セシムルノ舉ニ出ツルモ止ムナシト思惟スルニ至リタルカ同月十二日頃被告人重太郎ノ求メニヨリ右紅梅ニテ同被告人及被告人清ト會見シ被告人重太郎ヨリ前記ノ如ク被告人實太郎等輩下ノ暴力團員ニ交付ス可キ金圓ノ調達ヲ依頼セラレ右ハ被告人重太郎等カ前記ノ如ク右暴力團員ヲシテ右市長及市會議員等ニ暴行ヲ加ヘシムル爲之ヲ右實太郎等ニ依頼教唆シ其ノ報酬トシテ交付スヘキ金圓ナルコトノ情ヲ知リナカラ之ヲ諾シ他ヨリ金四百圓ヲ借受ケ同日同所ニ於テ被告人重太郎ニ手交シ因テ同被告人ヲシテ其ノ内三百圓ヲ前記ノ如ク被告人實太郎ノ手ヲ經テ結局被告人正夫ニ交付シテ前記ノ如キ犯行ヲ委囑シ其ノ結果前記第五ノ(二)記載ノ如ク同市長ニ對スル公務員ノ處分ヲ妨害スル爲暴行傷害ノ決行ヲ見ルニ至ラシメ以テ此ノ點ニ關スル被告人重太郎等ノ前記被告人正夫ニ對スル教唆罪ニ付其ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第八 被告人三井知造ハ同年十月十三日午後二時三十分頃前記甲府市役所内ノ市長室ニ於テ市長ヲ支持セル甲府革新黨所屬市會議員百瀬幾彌カ市會ノ開會ニ關シテ暴言ヲ吐キタルヲ憤リ同人ノ胸座ヲ捉ヘテ突倒シ以テ暴行ヲ爲シタルモノニシテ

右原審相被告人伊藤三郎ノ判示所爲及同鹽島伊七、同塚田久吉ノ判示各所爲中公務妨害ノ點ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノ有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實 三〇七 (七)

ノトス

法律ニ照スニ被告人小林重太郎、同秋山清、同三井知造、同田中恒雄ノ判示所爲中同被告人四名ノ共謀ニ係ル各公務員ノ處分妨害ノ教唆者三枝實太郎及同正夫ヲ教唆シタル點ハ夫々刑法第六十條第九十五條第二項第六十一條第二項第一項ニ傷害教唆者三枝正夫ヲ教唆シタル點ハ同法第六十條第二項第六十一條第二項第一項ニ各該當スル處以上ノ點ニ關スル正犯ノ所爲ハ前敘説述(省略)スル如ク相次關連シテ連續犯及想像的數罪ノ關關アルヲ以テ右各被告人ニ對シテモ同法第六十一條第二項第一項ニ則リ正犯ニ準シ同法第五十四條第一項前段同法第五十五條第十條ヲ適用シ結局最モ重キ傷害教唆者ヲ教唆シタル罪ノ刑ニ從ヒ被告人小林重太郎ノ建造物侵入教唆者三枝正夫ヲ教唆シタル點ハ同法第三十條第六十一條第二項第一項ニ該當スル處同正犯ノ所爲ハ前記(省略)市長傷害ト手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第六十一條第二項第一項ニ則リ正犯ニ準シ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ傷害教唆者ヲ教唆シタル罪ノ刑ニ從ヒ以上各被告人ニ對シ懲役刑ヲ選擇シ被告人小林重太郎同秋山清カ共謀シテ新津今朝吉ニ對シ公務員ノ處分妨害教唆ノ點ハ同法第六十條第九十五條第二項第六十一條第一項ニ該當スルヲ以テ同被告人等ニ對シ執レモ懲役刑ヲ選擇シ被告人三井知造ノ暴行ノ點ハ同法第二百八條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ被告人小林重太郎、同秋山清、同三井知造ニ對シテハ夫々數罪併發ニ係ルヲ以テ同法第四十七條第十條ヲ適用シ執レモ最モ重キ右傷害教唆者ヲ教唆シタル罪ノ刑ニ基キ法定ノ加重ヲ爲シ以上各所定期刑範圍内ニ於テ被告人小林重太郎、同秋山清、同三井知造、同田中恒雄ヲ各懲役六月ニ處シ被告人飯島浩ノ判示所爲中公務員ノ處分妨害教唆ノ幫助ノ點ハ同法第六十二條第九十五條第二項第六十一條第二項第一項ニ傷害教唆ノ幫助ノ點ハ同法第六十二條第九十五條第二項第六十一條第二項第一項ニ傷害教唆ノ幫助ノ點ハ同法第六十二條第九十五條第二項第六十一條第二項第一項ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル正犯ニ對スル教唆者ヘノ教唆ヲ幫助シタル從犯ナルヲ以テ同法第六十二條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ最モ重キ傷害教唆幫助罪ノ刑ニ從ヒ其

ノ所定期刑中懲役刑ヲ選擇シ從犯ノ故ヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ正犯ノ刑ニ照シ法定ノ輕減ヲナシ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役四月ニ處シ刑法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人小林重太郎、同秋山清ニ對シテハ各三十日ヲ夫々右各懲役刑ニ算入シ尙被告人三井知造、同田中恒雄、同飯島浩ニ對シテハ情狀ニヨリ刑法第二十五條ヲ適用シ夫々本裁判確定ノ日ヨリ三年間右各刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人飯島浩辯護人林貞夫上告趣意書第二點原判決ハ證據ノ判斷ニツキ著シキ誤認アルモノナリ蓋原判決ハ被告人ニ對スル本件ノ責任ニツキ有罪ノ判斷ヲ爲スニ當リ其ノ證據トシテ被告人及其ノ他ノ相被告人ニ對スル豫審訊問調書ヲ以テ之ニ充テタルモ該調書ヲ一貫シテ閱讀スルトキハ判示ノ如キ被告人ニ對スル不利益ナル陳述ナキニシモ非スト雖反面之カ判定ヲ覆スニ足ルヘキ前示各部分ノ如キ被告人ニ對シ有利ナル部分多キノミナラス更ニ第一審及控訴審ノ公判調書ニ於テハ被告人ハ本件ニ對スル公訴事實ノ大部分ヲ否認シ且原審ニ於ケル證人鶴田一朗丸茂義藏ノ證言等ハ右調書ノ有利ナル部分ト相俟ツテ事實ノ真相ヲ立證スルニ足ルヘキモノナリ然ルニ原判決ハ此ノ點ニツキ何等言及セス徒ニ調書ノ一部分ノミヲ擧ケテ以テ斷罪ノ資料トナシタルハコレ證據ニ關スル判斷ヲ謬リ因テ以テ事實ヲ誤

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ説示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實



認シタルモノナリト謂ハサルヘカラス若シ原判決カ前示被告人ニ有利ナル調書ノ部分ヲ以テ信ヲ置クニ足ラサルモノナリトセハ宜シク判決理由中ニ信ヲ置クニ足ラサル理由ヲ判示シ以テ之ヲ排斥スルニ非サレハ案件ノ全斑ヲ審理シ盡シタルモノト謂フコトヲ得サルハ論亡キ所ナルヘシト云フニ在レトモ事實ノ認定カ證據ニ依ルコトヲ要スルハ言ヲ俟タサレトモ其ノ證據ノ取捨タルヤ判事ノ自由ナル判斷ニ任セラルル所ナルヲ以テ原審カ職權ヲ適正ニ行使シテ爲シタル證據ノ取捨判斷ヲ攻撃スル所論ハ當ラス而シテ法律ハ有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リテ之ヲ認メタルノ理由ヲ説明スヘキコトヲ要求スルト雖其ノ證據ヲ取捨シタル所以ノ理由ニ至リテハ之ヲ明示スルコトヲ要求セサルカ故ニ原判決ハ此ノ點ニ於テモ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ

第三點原判決ハ法律ノ適用ニツキ著シキ違法アルモノナリ被告人ニ對スル擬律ニツキ原判決理由ハ「被告人飯島浩ノ判示所爲中公務員ノ處分妨害教唆ノ幫助ノ點ハ同法第六十二條第九十五條第二項第六十一條第二項第一項ニ傷害教唆ノ幫助ノ點ハ同法第六十二條第二百四條第六十一條第二項第一項ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル正犯ニ對スル教唆者ヘノ教唆ヲ幫助シタル從犯ナルヲ以テ同法第六十二條第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ最モ重キ傷害教唆幫助罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ從犯ノ故ヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ正犯ノ刑ニ照シ法定ノ輕減ヲ爲シ云々」ト判示シ即被告人ハ公務執行妨害並傷害ノ正犯行爲ニツキ教唆ノ教唆

(即間接教唆)ヲ幫助シタルモノト斷定シ該當法條ヲ適用シタリ然ルニ本件事案ヲ通覽スレハ極メテ明瞭ナルカ如ク原判決カ被告人ニ於テ幫助シタリト判斷セル相被告人重太郎 清 知造 恒雄等ハ先ツ同實太郎ヲ教唆シ右實太郎ハ次テ正夫 文治郎等ヲ教唆シ正夫 文治郎等ハ伊七 久吉 三郎 勇次等ヲ教唆シ以テ本件正犯行爲ヲ爲サシメタルモノニシテ從テ右重太郎 清 知造 恒雄等ハ正犯行爲ニ對シテハ教唆ノ教唆ノ教唆(即再間接教唆)トナリ被告人ハ該再間接教唆ヲ更ニ幫助シタルコトトナルモノナリ原判決カ理由第五ノ(二)ニ於テ三枝正夫ノ事件ニ對スル關係ニツキ「被告人實太郎等ヨリ前記第四記載ノ如キ經緯ヲ以テ同記載ノ如キ犯行ノ委囑及示唆ヲ受ケテ結局同記載ノ如キ目的趣旨ヲ以テ市長新海榮治ニ對シ自己ノ乾分ヲシテ暴行傷害ヲ加ヘシムル事ヲ決意シ云々」ト判示スルモ右委囑及示唆ナル文字ハ明カニ正夫カ實太郎ノ教唆ニ基キ前示正犯行爲者ヲ教唆シタルモノナルコトヲ言外ニ顯ハシタルモノナルコトハ一點ノ疑ナキトコロナリ然ルニ結論ニ於テ被告人ノ責任ヲ問フニ當リ教唆ノ教唆(即間接教唆)ノ從犯ナリト斷シタルハ擬律ノ違法モ亦甚シト言ハサルヘカラス再間接教唆カ間接教唆ト均シク刑法第六十一條第二項ニヨリ教唆犯トシテ處罰サルヘキモノナルコトハ屢次御院判例ノ判示スルトコロナリ(大正十年(れ)第二〇五五號事件大正十一年三月一日判決參照)然レトモ教唆ノ幫助又ハ從犯ノ幫助ハ之ヲ處罰スヘキモノナリヤ否ヤニ就キテハ未タ判例ノ示サレタルモノナク學說モ積極消極ノ二說ニ分ル(法律評論第三卷刑法二四七頁刑法通義一六二頁以下參照)況ンヤ再

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方

間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實

三一

(7)

間接教唆ノ幫助ノ如キハ之ヲ犯罪トシテ處罰スヘキモノナリヤ否ヤハ甚タ疑問ナリト云ハサルヘカラス蓋因果關係ハ先ツ第三ノ教唆ニヨリ第二ノ教唆ハ中斷セラレ第二ノ教唆ニヨリ第一ノ教唆ハ中斷セラルルモノニシテ而モ第一ノ教唆即再間接教唆ヲ幫助シタルモノハ其ノ責任ニツキ該幫助行為ハ再間接教唆行為ニヨリ更ニ中斷セラルルノ結果トナルモノニシテ刑法上ノ相當因果關係說ヨリ觀察スルモ斯ノ如キ累次ノ中斷アル行為ニ對シテ責任ヲ問フヘキモノニ非サルコトハ論ヲ要セサルトコロナリト謂ハサルヘカラス因テ原判決カ被告人ニ於テ本件正犯行為ニ對シ教唆者ヲ教唆シタルモノ（間接教唆者）ヲ幫助シタルモノナリト斷定シテ擬律シタルハ明カニ違法ナリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

所論事實ハ原判決ノ舉示セル證據ニ依レハ其ノ證明十分ナルノミナラス之ヲ法律的ニ考察スルトキハ所論ノ如ク再間接教唆ノ幫助ト斷センヨリハ寧ロ間接教唆ノ幫助ト斷スルノ至當ナルヲ認ム而シテ本院判例ニハ曩キニ所論再間接教唆ヲ認メタル大正十一年三月一日ノ判決（判例集第一卷第九頁）ノ外間接從犯ヲ認メタル大正十四年二月二十日ノ判決（判例集第四卷第七三頁）ノ存シタルノミナラス近ク間接ニ正犯ヲ幫助シタル行為モ亦從犯ナリトシタル昭和十一年十一月十二日ノ判決（判例集第一卷一四三頁）アルヲ見ル夫レ共犯ニ付テハ二ツノ解釋アリ其ノ一ハ個人ヲ單位トシテ因果關係ノ理論ヲ應用シテ共犯現象ヲ解セントスル個人的共犯論ナリ從來主觀主義又ハ共犯獨立犯說ト稱セラルルモノ是ナリ其ノ二ハ個人ヲ單位トセスシテ群衆

ノ特殊心理ヲ酌ミテ共犯現象ヲ解セントスル團體的共犯論ナリ從來客觀主義又ハ共犯從屬犯說ト呼ハラルルモノ是ナリ惟フニ此等從來ノ稱呼必スシモ當レリト謂フヲ得サレトモ我判例カ後說ヲ採レルコトハ共謀ニ因ル共同正犯ノ成立ヲ認ムルニ依リテ之ヲ知ルヘシ然レトモ我判例ノ採レル共犯團體說ヲ以テ因果關係中斷論ヲ前提トスル所謂從屬犯說ト混同視スルコトナキヲ要ス何トナレハ正犯ノ故意行為ノ介入ニ因リテ因果關係ノ中斷セラルルコトヲ認メナカラナホ教唆ノ責任ヲ問ハントスルカ如キハ不當ニ迂曲シタル論法タルノミナラス又實ニ矛盾セル論法ナレハナリ而シテ我判例カ因果關係中斷論ヲ採レルモノニ非サルコトハ再間接教唆ニ付此ノ如キ場合ト雖其ノ教唆行為ナカリセハ正犯ノ犯罪行為ハ行ハレサリシモノニシテ前者ハ後者ニ對シ一ノ條件ヲ成シ事實上相當ナル因果ノ連絡アルノ故ヲ以テ刑法第六十一條第二項ノ適用アリト爲シ又從犯ノ幫助ニ付苟モ正犯カ犯行ヲ爲スノ情ヲ知ツテ其ノ實行ヲ容易ナラシムルニ於テハ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス均シク因果ノ關係ヲ有シ幫助ノ效ヲ致スモノナルノ故ヲ以テ刑法第六十二條第二項ノ適用アリト爲シ以テ此等ノ規定カ正犯ニ對スル間接教唆乃至間接幫助處罰ノ上ニ於ケル例外規定ト解セスシテ例示規定ト解セルコトニ徴シテ明瞭ナリ然ラハ此等ノ規定ヲ特別例外規定タルコトヲ前提トシテノ所論ハ概ネ當ラサルニ止ラス却テ原判決カ被告人ニ間接教唆ノ幫助ノ罪ヲ認メ之ニ刑法第六十二條第六十一條第二項等ヲ適用シタルハ洵ニ至當ノ措置ト謂フヘク一點ノ非議ヲ容ルルノ餘地アルヲ見ス論旨ハ理由ナシ

【要旨第二】

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實  
ノ同一性

被告人小林重太郎 三井知造辯護人林逸郎上告趣意書第一點第二審判決ヲ査閲スルニ其ノ冒頭ニ於テ「小林重太郎ニ對スル公務執行妨害建造物侵入及公務執行妨害傷害ノ教唆三井知造ニ對スル公務執行妨害建造物侵入公務執行妨害ノ教唆及傷害被告事件ニ付昭和十年四月九日甲府地方裁判所ニ於テ宣告シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人等ヨリ夫々適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事一木輒太郎關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ」ト明示シタリ依テ第一審第一回公判調書ヲ査閲スルニ「小林重太郎 三井知造ニ對スル公務執行妨害傷害被告事件ニ付昭和十年三月十一日甲府地方裁判所刑事部ニ於テ裁判長判事野村熊太郎判事堀切順同小田久藏裁判所書記久保川啓吉列席ノ上檢事松城雄二郎立會公判ヲ開廷ス」ナル旨ノ記載アリ次ニ豫審終結決定書ヲ査閲スルニ「小林重太郎 三井知造ニ對スル公務執行妨害傷害被告事件ニ付豫審ヲ遂ケ決定スルコト左ノ如シ」ナル旨ノ記載アリ更ニ豫審終結意見書ヲ査閲スルニ「公務執行妨害小林重太郎公務執行妨害傷害三井知造右被告事件左ノ理由ニ依リ甲府地方裁判所ノ公判ニ付スルノ決定可相成モノト思料候也」ナル旨ノ記載アリ茲ニ於テ豫審請求書ニ基キ檢事カ公訴ヲ提起シタル被告事件ヲ探究スルニ「昭和九年十一月八日甲府地方裁判所檢事局石井檢事甲府地方裁判所豫審判事御中公務執行妨害傷害小林重太郎公務執行妨害傷害三井知造」ナル旨ノ記載アルニ止ル由是觀之小林重太郎三井知造兩名ニ對シ公訴ノ提起アリタルハ僅ニ各公務執行妨害並傷害ノ二罪ノミナルコト毫モ疑ノ餘地ナシ果シテ然ラハ第一審判決ハ公訴ノ提起ナキ小林重

太郎ニ對スル建造物侵入ノ教唆公務執行妨害ノ教唆並傷害ノ教唆ニ付公訴ノ提起アリタルモノト誤認シ又ハ公訴ノ提起ナキ三井知造ニ對スル建造物侵入ノ教唆公務執行妨害ノ教唆並傷害ノ教唆ニ付公訴ノ提起アリタルモノト誤認シ有罪ノ言渡ヲ爲シタルモノニシテ其ノ違法ナルコト論ヲ俟タス即第二審判決ハ公訴ノ提起ナキ被告事件ニ付徒ニ審判シタルモノナルヲ以テ當然破毀ヲ免ルルコト能ハサルナリ(學說平沼騏一郎博士新刑事訴訟法要論四四六頁)檢事公訴ヲ提起スル以上ハ如何ナル犯罪ナリヤニ付其ノ見ル所ヲ明ニスルハ當然ニシテ法ヲ以テ之ヲ命スル以上ハ公訴提起ノ條件ニ非サルヲ理由トシテ之ヲ省略スルヲ得サルハ言ヲ俟タスト云ヒ」第二點第二審第一回公判調書ヲ査閲スルニ「檢事ハ豫審終結決定書記載ノ事實中本件被告人ニ關係スル部分ノ事實ト同一ニ本件被告人ニ對スル被告事件ヲ陳述シタリ」トノ記載アリ仍テ豫審終結決定書ヲ査閲スルニ「(前略)市長ニ對スル傷害ノ點ハ刑法第二百四條公務執行妨害ノ點ハ同法第九十五條第二項第一項ニ建造物侵入ノ點ハ同法第三百三十條ニ之ヲ教唆シタル點ハ同法第六十一條ニ依リ前記各正犯ノ本條ニ百瀨ニ對スル傷害ノ點ハ同法第二百四條ニ各該當シ何レモ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑十分ナルヲ以テ(後略)」ナル旨ノ記載アリ由是觀之犯罪ノ嫌疑十分ニシテ公判ニ付セラレタルモノハ市長某並百瀨某ナラサルヘカラス果シテ然ラハ第二審判決ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタル違法アリト云ハサルヘカラスト云ヒ」第四點第二審第一回公判調書ニ就キ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ヲ探ヌルニ檢事ハ「豫審終結決定書記

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ説示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實

載ノ事實中本件被告人ニ關係スル部分ノ事實ト同一ニ本件被告人等ニ對スル被告事件ヲ陳述シタリ」トノ記載アリ因テ豫審終結決定書ヲ査閱スルニ「第六被告人中込常祐ハ革正會所屬同市市會議員ニシテ前記助役問題ニ付テハ同市長ニ反對シ研究會所屬議員ト同一行動ヲ執リ居タル者ナルカ右被告人並被告人三井ハ同月十三日午後二時三十分頃前示甲府市役所市長室ニ於テ市會開會遲延ニ關シ市長派議員革新黨所屬百瀬幾彌カ暴言ヲ吐キタルコトニ憤慨シ同人ト押問答ヲ爲シ兩名共謀シテ被告人三井ハ右百瀬ノ胸倉ヲ捉ヘテ引廻シ百瀬カ安樂椅子中ニ陥ルヤ被告人中込ハ右平手ヲ以テ百瀬ノ右顔面ヲ強打シ依テ同人ノ同部ニ右眼前房内出血等治療一週間乃至十日間ヲ要スル創傷ヲ負ハシメタルモノナリ」トノ記載アリ果シテ然ラハ審判ノ請求ヲ受ケタル被告事件ハ「被告人三井知造カ原審相被告人中込常祐ト共謀シテ百瀬幾彌ニ傷害ヲ與ヘタリ」ト云フニ在ルヤ自明ナリ然ルニ拘ラス第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「第八被告人三井知造ハ同年十月十三日午後二時三十分頃前記甲府市役所内ノ市長室ニ於テ市長ヲ支持セル甲府革新黨所屬市會議員百瀬幾彌カ市會ノ開會ニ關シテ暴言ヲ吐キタルヲ憤リ同人ノ胸倉ヲ捉ヘテ突倒シ以テ暴行ヲ爲シタルモノ」ナル旨判示シタリ由是觀之第二審判決ハ審判ノ請求ヲ受ケタル「被告人三井知造カ原審相被告人中込常祐ト共謀シテ百瀬幾彌ヲ傷害シタリ」トノ傷害被告事件ニ付テハ更ニ何等ノ判決ヲ爲サス却テ審判ノ請求ヲ受ケサル「被告人三井知造カ單獨ニテ百瀬幾彌ニ暴行ヲ加ヘタリ」トノ暴行被告事件ニ付判決ヲ爲シタル違法アリ從テ亦當然破毀セラルヘキ

モノナリトスト云フニ在リ

【要旨第三】

然レトモ公務執行妨害ノ起訴事實ニ付其ノ教唆犯ヲ認メ建造物侵入ノ起訴事實ニ付其ノ教唆犯ヲ認メ又共謀ニ因ル傷害ノ起訴事實ニ付單獨暴行ノ事實ヲ認ムルモ是レ事實承審官ノ權限ニ屬スル所ニシテ毫モ行爲ノ同一性ヲ害スルモノニ非サルヲ以テ此等ノ點ヲ捉ヘテ起訴ナキ事實ヲ審判シタルノ違法アリト謂フヘカラス而シテ想像上ノ競合牽連犯連續犯等所謂取扱上ノ一罪ノ一部ニ付起訴アリタル場合ニ於テ裁判所カ職權ヲ以テ其ノ餘ノ部分ニ付進ンテ審判ヲ爲シ得ルモノナルコトハ既ニ久シク本院判例ノ趣旨トスル所ナレハ此ノ點ヲ以テスル非難ハ亦當ラス原判決ニハ此等孰レノ點ヨリ觀察スルモ所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事一木輶太郎關與

有罪判決ニ於ケル證據理由ノ說示方 間接教唆ニ對スル幫助罪ノ成立 公訴事實

○齒科醫師法違反被告事件（昭和十一年（九）第三一八九號 破毀自判）

【上告人】 被告人 鷺海量太郎 辯護人 鶴 和夫

【第一審】 福岡區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

無免許齒科醫業ニ對スル二重ノ公訴

○判決要旨

一個ノ無免許齒科醫業行爲ヲ成ス各個ノ行爲ニ對シ前後シテ夫々略式命令ノ請求アリタルトキハ後ノ公訴ヲ以テ前ノ公訴ヲ追加補充シタリト解スルヲ得サルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十四條 左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

- 一 被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
- 二 第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
- 三 公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
- 四 公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
- 五 告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六 公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無効ナルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金八十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ八十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ齒科醫師ノ免許ヲ受ケスシテ昭和十年二月頃ヨリ昭和十一年三月二十六日頃迄ノ間數回ニ互リ福岡市上金屋町八番地ナル被告人居宅其ノ他ニ於テ橋本正男、後藤トヨ、船越保藏、進藤重身、富永武、宗キクノ、吉原イセ、高田ミツニ對シ義齒ノ作製嵌入齒冠ノ修繕嵌入齒列矯正或ハ拔牙等ノ治療ヲ爲シテ齒科醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ齒科醫師法第十一條第一項ニ該當スルヲ以テ同條所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ八十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

尙辯護人小林峰次鶴和夫兩名ハ本件ハ所謂營業的犯罪ニシテ一罪トシテ處斷スヘキモノナルニ拘ラス昭和十一年四月二十二日及同年五月十二日ノ二回ニ公訴ヲ提起セラレ結局同一事實ニ付二個ノ起訴アリタルニ歸シ後ノ起訴ハ失當ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十四條第四號ニ依リ公訴棄却ノ判決アルヘキモノナル旨主張スレトモ本件ノ前後二回ノ起訴ノ内容ヲ見ルニ後ノ起訴ニ於テハ前起訴ニ摘示セラレタル行爲ノ外尙數多ノ繼續行爲アリテ之ヲ追加補充スルノ趣旨ニ出テタルモノナルコト各其ノ略式命令請求書ノ記載ニ徴シ明白ナルヲ以テ之ヲ以テ敢テ二重ニ公訴ヲ提起シタルモノト解シ後ノ公訴ヲ棄却スヘキモノニ非サルカ故ニ辯護人ノ右主張ハ其ノ理由ナキモノトシテ之ヲ排斥ス（下略）

無免許齒科醫業ニ對スル二重ノ公訴

而シテ第一審檢事ハ昭和十一年四月二十二日付略式命令請求書ニヨリ被告人ニ對シ同年二月頃ヨリ同年十二月初旬マテノ無免許齒科醫業ニ付公訴ヲ提起シ更ニ同十一年五月十二日付略式命令請求書ニヨリ同年二月十七日ヨリ翌三月二十六日迄ノ同一行為ニ付公訴ヲ提起シタリ

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ罰金八十圓ニ處ス

右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ八十日間被告人ヲ勞役場ニ留置ス

昭和十一年五月十二日付略式命令請求書ニ依ル公訴ハ之ヲ棄却ス

○理 由

本件公訴ニ付記録ヲ閱スルニ昭和十一年四月二十二日付略式命令請求書ニ依レハ被告人ハ昭和十年二月頃ヨリ同年十二月初旬迄ノ間橋本正男外二名ニ對シ義齒ヲ施シ之カ報酬ヲ受ケタル事實ヲ掲ケ福岡區裁判所檢事カ同裁判所ニ對シ公訴ノ提起ト同時ニ略式命令ノ請求ヲ爲シタルコト明ナリ故ニ無免許齒科醫業ノ如キ職業犯ニ在リテハ原審ハ昭和十年二月頃ヨリ判決當時(昭和十一年十月六日)ニ至ル迄ノ間被告人ノ爲シタル同一行為ヲ以テ公訴ノ對象ト爲スヘキモノナルコト言フ俟タヌ然ルニ昭和十一年五月十二日付略式命令請求書ニ依レハ同檢事カ同裁判所ニ對シ被告人ハ同年二月十七日ヨリ翌三

【要旨】

月二十六日迄近藤重身外數名ニ對シ爲シタル同一行為ヲ無免許齒科醫業トシテ公訴ノ提起ト同時ニ略式命令ノ請求ヲ爲シタルモノト認ムヘキヲ以テ本件ハ公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタル場合ニ該當スルヲ以テ後ノ公訴ハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノナルコト刑事訴訟法第三百六十四條ノ規定ニ徴シ疑ナキ所ナリ然ラハ原判決ニ於テ後ノ公訴ヲ以テ前ノ公訴ヲ追加補充シタルカ如ク解シテ裁判シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ齒科醫師法第十一條第一項ニ該當スルヲ以テ所定ノ罰金刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金八十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ八十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス而シテ敍上説明シタル後ノ公訴ニ付テハ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十四條ニ依リ之ヲ棄却スヘキモノトス因テ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十一年(九)第三二〇五號 棄却)

【上告人】 被告人 松田 幸松

【第一審】 米澤區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

選舉委員ノ依頼ト無資格選舉運動

○判決要旨

選舉委員ト爲ル以前ニ於テハ縱令選舉委員ニ選任サルヘキ事情ニ在ル者ト雖他人ニ對シ選舉委員ト爲ルコトヲ依頼スルカ如キハ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノニ該當ス

【參照】 衆議院議員選舉法第八十九條 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉運動ノ爲使用スル勞務者ヲ選任スルコトヲ得ス  
選舉事務長ハ文書ヲ以テ通知スルコトニ依リ選舉委員ヲ解任スルコトヲ得  
選舉委員ハ文書ヲ以テ選舉事務長ニ通知スルコトニ依リ辭任スルコトヲ得

選舉事務長選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員ヲ選任シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ前條第五項ノ届出アリタル警察官署ニ届出ツヘシ選舉事務所又ハ選舉委員ニ異動アリタルトキ亦同シ

同法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金四十圓ニ處ス右罰金ヲ完納セサルトキハ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ山形縣第一區ニ於ケル選舉人ナリシトコロ同月十六日同選舉區ノ議員候補者木村武雄ノ選舉委員ト爲リタルモ其ノ以前ニ於テ同候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシニ拘ラス同候補者ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ

第一 同年同月四日山形縣西置賜郡小國本村大字松岡ノ選舉人渡部繁藏方ヲ訪問シ同人ニ對シ木村武雄カ立候補シタルヲ以テ宜敷ク頼ムト申入レ

第二 同年同月六日頃同村大字小國町旅人宿越後屋旅館事今與助方ニ於テ同村ノ選舉人宮崎喜一郎及近壽百ニ個々ニ

選舉委員ノ依頼ト無資格選舉運動

面接シ木村武雄カ立候補シタルヲ以テ同人ノ選舉委員ニ爲ラレ度キ旨依頼シ

第三 同年同月七日右越後屋旅館ニ於テ同郡南小國村ノ選舉人栗田松太郎ニ面接シ同人ニ對シ木村武雄カ立候補シタルニ付宜敷ク頼ムト申入レタル上投票立會人ニ爲ラレ度キ旨依頼シ

以テ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ戸別訪問及個々面接ノ點ハ同法第九十八條第二百二十九條ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キ戸別訪問及個々面接ノ罪ニ付定メラレタル刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金四十圓ニ處スヘク同法第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納セサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點原審ハ昭和十一年二月四日頃西置賜郡小國本村大字綱木箱ノ口選舉人井上徳丸方ヲ訪問シ云々暗ニ前記木村武雄ノ應援ヲ懇請スト認定セラレタルモ同家ハ從來別懇ノ間柄ニシテ互ニ往復宿泊シ來リ例年冬期ハ商用ヲ帶ヒ當地ヲ巡廻シ其ノ都度定宿トシテ宿泊スルヲ例トシ當時モ亦其ノ例ニ外ナラス特ニ同人ヲ訪問シタルモノニアラス此ノ宿泊會見ノ事實ヲ捉ヘテ應援ヲ懇請スト

云フハ孟浪杜撰ノ認定ト云ハサルヲ得スト云ヒ一第二點同月同日選舉人渡邊繁藏ヲ訪問シ同人ニ對シ木村武雄カ立候補シタルヲ以テ宜敷ク頼ムト申シト認定セラレタルモ是亦無根ノ事實ナリ上告人ハ改メテ頼ミタル事實ナシ況ンヤ三月七日米澤區裁判所檢事ニ對スル渡邊繁藏ノ五問答ニ徵スルモ私ハ晝飯ノ時タカラ暖ツテクレト云フテ爐邊テ腰ヲ掛ケ乍ラ御茶ヲ出シ松田ニ選舉モ猛烈ニナツタダラウト聞イタ處同人ハ武雄モ出度イト云フカラ何レ宮崎サント相談シテ事スヘシト申シ宜敷ク頼ムト言フテ居リマシタルアルモ繁藏ヨリ問ヒ掛ケラレタルニ依リ愛敬ニ捨臺言ヲ以テ應シタルニ過キス敢テ應援マテ依頼スルノ意味合ニアラサルコト明カナリト云ヒ一第三點同月六日旅人宿越後屋事今與助方ニ於テ宮崎喜一郎近壽百ト個々面接シ木村武雄ノ選舉委員ニナツテ吳レト懇請シテ右近壽百ヲシテ承諾セシメテ選任シト認定セラレタルモ同人ノ委員トナリタルハ直接事務長本間貞吉ノ依頼ニ依ルモノニシテ上告人ノ關與スル處ニアラサルコトハ昭和十一年四月九日檢事ニ對スル本間貞吉ノ供述中第一問答ニ本年二月五日小國本村近壽百カラ選舉委員承諾シタル旨ノ電報カ來タ事カアリマストテ電報ヲ提出シ其ノ二問答ニ私カラ二月一日カ二日頃同人ニ選舉委員ニナツテ吳レトノ手紙ヲ出シタモノト思ヒマストアリ而シテ上告人カ近壽百ニ會見シタルハ(三月十一日近壽百ノ檢事局調)二月五、六ノ兩日ニシテ選舉委員ノ話頭ニ上リタルハ六日ナレハ五日ニアリテ已ニ承諾ノ電報ヲ發セルモノニ對シテ委員ヲ懇請スル謂レナシ是亦不當ノ認定ナリト云ヒ一第四點同月七日今與助方ニ於テ栗田松太郎ト面接シ同

選舉委員ノ依頼 無資格選舉運動



人ニ對シ木村武雄カ立候補シタルヲ以テ宜敷頼ムト申シ尙同人ニ投票立會人ニナツテ吳レト依頼シト認定セラレタルモ斷シテ依頼シタルコトナシ右ハ何レモ根據ナキ牽強附會ノ認定ナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

被告人カ選舉人井上徳丸ヲ訪問シテ選舉運動ヲ爲シタリトノ所論ハ原判決ノ認定セサル所ナレハ之ヲ批難スルハ當ラサルモノトス而シテ選舉委員ハ選舉事務長ニ從屬シ選舉運動ノ樞機ニ參與シ得ヘキヲ以テ特定ノ議員候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトヲ得ヘキコト言フ埃タスト雖選舉委員ト爲ル以前ニ於テハ縱令選舉委員ニ選任サルヘキ環境ニ在ル者ト雖他ノ選舉人ニ對シ更ニ選舉委員又ハ投票立會人ニ爲ラレ度旨依頼スルカ如キハ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノト謂ハサルヲ得ス蓋選舉委員ヲ選任スルハ選舉事務長ニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノナルト同時ニ選舉委員ト爲ル前ニ於テハ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ノ外之ヲ爲スコト能ハサルモノナレハナリ原判決ノ認メタル各事實ハ其ノ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ之ヲ證明スルニ足り被告人ノ所爲ハ無資格選舉運動ニ當ルコト明ナリ尙記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコト疑フニ足ルモノアルヲ認メス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事武松久吉關與

○公正證書原本不實記載行使被告事件 (昭和十一年(九)第三二一六號 棄却)

【上告人】 被告人 八田 政雄 辯護人 平野 光夫

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○ 判 示 事 項

假 裝 行 爲 ノ 登 記 ト 不 實 ノ 申 立 ニ 因 ル 抹 消

○ 判 決 要 旨

假 裝 ノ 行 爲 ノ 登 記 ト 雖 登 記 官 吏 ニ 對 シ 虛 偽 ノ 申 立 ヲ 爲 シ 其 ノ 抹 消 登 記 ヲ 爲 サ シ ム ル ハ 公 正 證 書 ノ 原 本 ニ 不 實 ノ 記 載 ヲ 爲 サ シ メ タ ル モ ノ ニ 該 當 ス

【參照】 刑法 第五十七條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證  
假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因ル抹消

書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ昭和九年十二月十八日叔母八田はるゑノ養子トシテ入籍届出ヲ爲シ翌十九日はるゑ死亡シタル爲同月二十八日其ノ家督相續手續ヲ了シタルモノナルカ之ヨリ曩はるゑト同人ノ甥大久保小三郎トノ間ニ昭和六年五月十一日はるゑ所有ニ係ル大阪市西成區千本通三丁目二十二番地畑一反一畝六步(内池敷十二步)ノ内百四十坪ニ付賣買契約セルモノトシテ同日附ヲ以テ大阪區裁判所今宮出張所備付ノ不動産登記簿ニ右畑一反一畝六步(内池敷十二步)ニ付取得者大久保小三郎ノ爲ニ賣買豫約ヲ原因トスル所有權移轉登記請求權保全ノ假登記爲サレ右小三郎ハ昭和七年三月二十七日死亡シタルモ該假登記ハ依然トシテ存在シ居リタル處被告人ハ昭和九年十二月二十六日情ヲ知ラサル代書人廣瀬直治ヲシテ擅ニ大久保小三郎名義ノ權利拋棄ヲ原因トスル前記假登記抹消ノ登記申請書ヲ作成セシメ同日右廣瀬ヲ通シテ之ヲ前示今宮出張所ニ提出シ以テ同所登記官吏ニ對シ右小三郎カ未タ生存シ居リテ眞實前掲ノ如キ假登記抹消ノ申請ヲ爲ス如ク虚偽ノ申立ヲ爲シ因テ同官吏ヲシテ右登記簿原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上即日之ヲ同出張所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公正證書原本不實記載ノ點ハ刑法第五百五十七條第一項ニ不實記載ノ公正證書原本行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五百五十七條第一項ニ各該當スルトコロ右行使ハ前記公正證書原本不實記載ノ結果タル關係ニ在ルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ犯情重キ行使罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人平野光夫上告趣意書原審判決ハ亡八田はるゑト其ノ甥亡大久保小三郎間ニ昭和六年五月十一日はるゑ所有ニ係ル大阪市西成區千本通三丁目二十二番地畑一反一畝六步(内池敷十二步)ノ内百四十坪ニ付賣買契約成立セルモノトシテ同日附ヲ以テ大阪區裁判所今宮出張所備付ノ不動産登記簿ニ右畑一反一畝六步(内池敷十二步)ニ付取得者大久保小三郎ノ爲ニ賣買豫約ヲ原因トスル所有權移轉登記請求權保全ノ假登記爲サレ右小三郎ハ昭和七年三月二十七日死亡シタルモ該假登記ハ依然トシテ存在シタル處被告人ハ昭和九年十二月二十六日情ヲ知ラサル代書人廣瀬直治ヲシテ擅ニ大久保小三郎名義ノ權利拋棄ヲ原因トスル前記假登記抹消ノ登記申請書ヲ作成セシメ同日右廣瀬ヲ通シテ之ヲ前示今宮出張所ニ提出シ以テ同所登記官吏ニ對シ右小三郎カ未タ生存シ居リテ眞實前掲ノ如キ假登記抹消ノ申請ヲ爲ス如ク虚偽ノ申立ヲ爲シ因リテ同官吏ヲシテ右登記簿原本ニ其ノ旨ノ不實ノ記載ヲ爲シタル

假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因ル抹消

上即日之ヲ同出張所ニ備付ケシメテ行使シタリトノ事實ヲ認定シ被告人ニ科スルニ懲役三月ノ實刑ヲ以テセラレタリ然ルニ第一、原審カ前示ノ假登記カ眞實ナル原因ニヨリテ爲サレタルモノトノ認定ヲ爲シタルハ重大ナル過失ニ陥リテ不當ニ事實ヲ認定シタルモノト謂フヘシ何ントナレハ(一)前記假登記ノ原因タル大阪市西成區千本通三丁目二十二番地畑一反一畝六歩(内池敷十二歩)ノ内百四十坪ノ土地賣買豫約ハ昭和六年五月十一日八田はるゑ(昭和九年十二月十八日死亡)カ大久保小三郎(昭和七年三月二十六日死亡)カ昭和六年五月二十九日小林春ト結婚スルニ當リ小林春側ニ於テ「不動産モナイ様ナ者ニハ娘ハ遣ラヌ」ト主張シ而モ小三郎ハ「春ヲ嫁ニ貰ヒ度イ」ト強要セシ結果女ノ實家ノ者等ヲ一時的満足セシムル爲小三郎ニ前記土地ヲ贈與シ小三郎結婚後再ヒはるゑ名義ニ變更スルコトトシ一時表面上小三郎名義トスル爲公正證書ヲ作成シ所有權移轉登記請求權保全ノ假登記ヲ小三郎ノ爲ニ爲シタルモノナルカ故ニ既ニ假登記原因其ノモノ自體虛偽ノ事實ニ因ルト謂フヘシ昭和十一年七月十日檢事ノ取調ニ對スル被告人ノ陳述同年同月同日八田家ニ出入シ八田巳之助同はるゑトモ親交アリシ淺岡僧鎧ノ檢事ノ取調ニ對スル陳述同年七月十七日八田家ト親交アル柴田秀吉ノ檢事ノ取調ニ對スル陳述同年八月三日第一審第一回公判ニ於ケル被告人ノ陳述同年十月十日第二審第一回公判ニ於ケル被告人ノ陳述同年八月三日第一審第一回公判ニ於ケル證人柴田奈良吉ノ陳述ヲ案スル時前述ノ假登記原因ハ全ク假裝ノ事實ニ基クモノナレハ何等ノ效力ヲモ認ムヘキニ非サルナリ而カモ假登記ノ目

的タル不動産ノ所有權ハ何等變動ヲ生スルコトナク嚴然トシテ八田はるゑニ歸屬セラレアルモノト斷スルモ當然ト謂フヘシ(二)更ニ右假登記ノ原因ヲ證スル書面タル公正證書作成ノ爲大久保小三郎ト共ニ服部順次公證役場ニ出頭シタル八田はるゑ代理人柴田奈良吉ノ昭和十一年八月三日第一審裁判所第一回公判ニ於ケル證人トシテノ陳述中判事問八田はるゑカ生存中其ノ所有財產ノ内西成區千本通三丁目二十二番地ノ土地百四十坪ト地上建物五棟八戸ヲ大久保小三郎ニ與ヘタコトヲ證人ハ知ツテ居ルカ證人答知ツテ居リマス私ハ八田巳之助カ生キテ居タ頃カラ同人ト心易イ間テスカ昭和六年四、五月頃はるゑカ當時同家ニ同居シテ家事ノ手傳ヲシテ居タ大久保小三郎ニ嫁ヲ貰フニ付財產ヲ小三郎ニ付ケナケレハ娘ヲ遣ラヌト先方テ云フカラ附ケテ遣ラウト思フ娘ヲ貰ツテ或時期カ經ツタラ返シテ貰ハネハナラヌ其ノ財產ヲ附ケル手續ヲシテ吳レナイカト私ニ相談ヲシテ來タノテ私ハ其ノ先代トモ心易イ間ナノテソナ相續人テモナイモノニ財產ヲ一時的テモ分ケル手續ヲシテ遣ルコトハ應シ兼ネルト云ツテ斷リマシタ然シはるゑモ頻リニ頼ミ又小三郎モ頼ムノテ私ト小三郎ト二人公證役場ニ行キ公正證書ヲ作り又登記所ニ行ツテ其ノ登記手續ヲシマシタトノ陳述ニ依リテモ八田はるゑニ前記物件贈與ノ意思ナク亦小三郎モ眞實贈與ヲ受クルノ意思ナカリシコト明瞭ニシテ單ニ小三郎ノ結婚ニ關シ小林春側ノ要求ニ假リニ應センカ爲假裝的ニ爲サレタル賣買ヲ證スル公正證書ニ過キサリシコト明白ナレハナリ(三)前陳(一)及(二)ニ因リ前記物件ノ賣買ニ關スル公正證書竝之ニ基ク所有權移轉登記

假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因ル抹消

請求權保全ノ假登記ハ全ク假裝のナルモノナルコト明トナレリ然ラハ其ノ不動産物件ハ依然トシテ八田はるゑニ歸屬シアルモノナルコトハ論ヲ俟タス且被告人ノ檢事ノ取調ニ對スル陳述及第一、二審公判ニ於ケル陳述竝淺岡僧鑑柴田秀吉ノ檢事ノ取調ニ對スル陳述柴田奈良吉ノ第一審公判ニ於ケル證言ニヨリテモ之ヲ立證スルニ餘リアリ而モ尙八田はるゑカ生存中右假裝的一時的ニ小三郎名義ニ變更シタルモ其ノ後はるゑカ柴田奈良吉、福田重太郎及松田梅吉三名ニ依頼シ前記不動産ニ關スル公正證書ノ無効ナルコトヲ明確ニシ置カント欲シタル事實及右三名カ服部公證役場ニ出頭シ該公正證書無効ノ手續ヲ請求シタル事實竝右三名カ常該公正證書ニ無効ナル旨ノ添書ヲ爲シ連署捺印セシ事實ニ徴スル時更ニ一層小三郎ノ爲ニ爲シタル前記物件ノ賣買ニ因ル所有權移轉請求權保全ノ假登記カ虛偽ノ事實ニ基キ爲サレタルモノナルカヲ明白ニ立證スルヲ得ン即昭和十一年八月三日第一審裁判所ニ於ケル第一回公判中證人柴田奈良吉ノ陳述ノ要旨ハ判事問之カ其ノ時ノ公正證書カ判事ハ押收第二號ヲ示ス證人答左様テス問此ノ公正證書ノ正本末尾ニ證人ヤ松田梅吉福田重太郎ノ三名カ此ノ契約ハ無効テアルト書イテ連署捺印シタルコトカアルカ答アリマス小三郎カ死亡前右ノ様ナ約束テシタカラ其ノ契約カ無効テアル様ニシテ置ケ爲福田、松田ノ三人カ服部公證人ノ許ニ行ツテ此ノ契約ヲ無効ト書イテ呉レル様頼ミマシタ所公證人ノ方テハ小三郎本人カ死亡シテ居ルカラソナ事ハ出來ヌト斷ハラレソナ約束カ事實テアレハ小三郎側ノ福田氏モ居ル事テアルカラ異議カナカツタラ貴方達三人テ勝手ニ無効

ト書イテ連署捺印シテ置ケハヨイテハナイカト云ハレタノテ外ニ出テカラ三人カ協議ノ上其ノ通リニシタノテス其ノ場所ハ何處テアツタカ記憶シマセヌ問夫レテハ小三郎カ妻帶シテ後直ク該公正證書ニ無効ト添書ヲシテ置ケハ良カツタテハナイカ答はるゑノ方テ何モセスニ其ノ儘ニシテ居テ小三郎カ死ンテ後私達ニ頼ンテ來タノテス問其ノ公正證書ノ正本ハ現在何處ニアルカ答はるゑカ死ンテ後書類入金庫ヲ開ケル時福田重太郎カ書類ヲ皆持ツテ二階ニ上ツタノテ同人ノ手許ニ在ルト思ヒマスカ私ハソレヲ見テ居リマセヌ問結局世間ノ人ヲ誤魔化シテ小三郎ニ妻帶サセタコトニナルノカ答左様テス以上ノ開陳ニヨリ大阪區裁判所今宮出張所備付不動産登記簿ニ登録セラレタル小三郎ノ爲ノ賣買ヲ原因トスル所有權移轉登記請求權保全ノ假登記ハ形式上公簿ナルカ故ニ一應公信用アルト謂フヲ得ヘケンモ既ニ其ノ假登記自體カ不實ノ記載タルコト明白ナル今日該登記簿ハ其ノ假登記事項ニ關スル部分ハ何等ノ公信用アルモノニ非サルコトハ明白ノ理ナリ果シテ然ラハ被告人カ死亡セル小三郎ノ印ヲ買求メ該假登記ノ抹消登記ヲ爲シタリトスルモ該假登記自體何等ノ公信用アル有セサル虛偽ノ登記ナルカ故ニ登記簿ノ公信用ヲ侵害スルノ行爲アリタリト謂フヲ得サルナリ從テ被告人ノ右行爲ハ何等ノ犯罪ヲモ構成スルモノニ非サルナリ就中被告人ノ如キハ登記手續ニ關スル知識經驗ヲ有セス唯代書人ノ教示ニ任シタル者ナレハ刑法第一百五十七條第一百五十八條ノ犯意アリト斷スルヲ得サルモノト信ス第一、前陳ニヨリ前記物件ノ賣買ニ關スル公正證書竝之ニ基ク假登記ハ全ク虛偽ノ事實ヲ原因トスル假

假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因リ抹消

装ノモノナルコト明カニシテ被告人ハ其ノ所有權ハ依然トシテ八田はるゑニ歸屬シアルモノナルコトヲ確信シ而モ其ノ確信シタルコトニ何等ノ故意過失ノ存スルモノニ非サルハ八田はるゑヨリ其ノ生存中右ノ假裝的ニ小三郎名義ニ變更シアル旨ヲ度々聞カサレ居リ且右ニ關スル前記公正證書ニ福田重太郎 松田梅吉 柴田奈良吉ノ三名カ連署捺印セル無効ノ添書セラレアルヲ八田はるゑヨリ見セラレ居タレハナリ然ルカ故ニ前記假登記物件ノ所有權ハ八田はるゑノ死亡ト同時ニ相續人タル被告人ニ當然承繼セラレタルモノト謂ハサルヘカラス從テ被告人カ右假登記物件ノ所有權ヲ當然取得シタルモノト信シテ疑ハサルハ當然ト云フヘシ第三、被告人カ被相續人八田はるゑ死亡ニヨリ其ノ所有不動産ノ相續登記申請ヲ爲サントセシ所前記不動産ニ關シ小三郎ノ爲ニ假登記アリ之カ取扱ヲ如何セハ可ナリヤ全ク登記手續ニ關スル知識經驗ナキ被告人ハ淺岡僧鎧ニ萬事委嘱セシ所淺岡ハ大阪區裁判所今宮出張所前代書人廣瀨直治ニ該假登記抹消ノ件ニ付假登記ノ存スル一切ノ事由及大久保小三郎ハ既ニ死亡セル事實等詳細説明シ相談セシ所廣瀨代書人ハ「ソナ假裝ノ登記テ而モ小三郎生存中既ニ權利拋棄セルモノナレハ判サヘアレハ出來ル」ト教示セラレタルニ付淺岡ハ昭和九年十二月二十六日大阪區裁判所今宮出張所ニ被告人ヲ同道シ行キ該出張所附近ノ判屋ニテ丸形ノ「大久保」ナル認印ヲ買求メ廣瀨代書人ニ渡シ萬事依頼シタルモノナリ從テ被告人ハ前記不動産ハ全ク自己カ相續セシ財産ニシテ小三郎ノ爲假登記存在スト雖前陳ノ如ク全ク假裝的ノモノナレハ無効ノモノテアルト確信シ之カ抹消登記手

續ニ關シ廣瀨代書人ノ教示ニ從ヒタルモノニテ何等計畫的ニ小三郎名義ヲ用ヒタルモノニ非サルハ被告人及淺岡僧鎧ノ檢事ノ取調ニ對スル陳述ニヨリ明カナリ之ニヨリ是ヲ觀スル時被告人ノ行爲ハ全ク虚偽ノ假登記ヲ除去シテ本來ノ形ニ登記簿ヲ復セシメ以テ登記簿ノ公信力ヲ増大セシメタルモノト云フヘシ第四、然ルニ不拘八田家ノ財産ヲ横領セントスル亡小三郎側親族ノ虚構ノ事實ニ眩惑セラレ之等事實ノ認識ヲ誤リタルモノニシテ而モ科スルニ懲役三月ノ超弩的重刑ヲ以テセシハ甚タ不可解ナリト謂フヘシ刑法第一百五十七條第一百五十八條ノ規定スル法意ハ少クトモ虚偽ノ事實ノ申立ニヨリ公文書原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ且行使シタルコトニ依リ公文書ノ公信力ヲ甚シク侵害シタル行爲ニ對スル制裁ナリ然ルニ本被告事件ニ於ケル假登記ノ如キハ既ニ夫レ自體カ虚構ノ事實ヲ原因トスル不實ノ記載タル假登記ニシテ毫末モ公信力ノ維持セラレ居ルモノニ非ス反ツテ其ノ存スルコト自體ニ於テ公文書ノ公信力ハ全ク侵害セラレ居ルモノト謂フヘシ從ツテ被告人ノ本件行爲ハ實質的ニハ假裝ノ假登記ヲ除去シ該公文書本來ノ姿ニ復歸セシメ一段ト公信力ヲ増大セシメタルモノニシテ單ナル形式的ナル不實記載ノ行爲ヲモ刑法ノ條文中ノ文字ニトラハレ犯罪ト認メ科罰スルカ如キハ不當モ甚シキモノト謂フヘシ第五、殊ニ本件被告人ノ如キハ其ノ生立モ割合ニ順調ニシテ惡スレモナク田舎ニテ直ク伸ヒ來リタル者ニテ勿論前科モナク且人ニ嫌ハルルカ如キ性格ヲモ有セサル者約一箇月ノ未決勾留ヲ命シ更ニ懲役三月ノ重刑ヲ科スルカ如キハ法ニヨリ人ヲ殺スノ讒ヲ免レサルヘシ從ツテ原審カ如斯重刑ヲ

假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因ル抹消

科シタルハ刑ノ量定ニ甚シキ錯誤アリタリト謂フモ誇大ナラス殊ニ古クヨリ普遍的ニ行ハルル不動産ノ所謂中間取得者ヲ除キ登記簿上ノ所有者ヨリ最後取得者ニ直接ノ所有權移轉登記ヲ爲スカ如キモ所有權移轉登記ノ原因タル證明書ニ虛偽ノ記載存スルモノト謂フヘク隨テ斯ノ如キ場合ヲモ刑法第一百五十七條第百五十八條所定ノ犯罪ヲ構成スルモノト謂ハサルヘカラス更ニ亦所有權移轉ハ贈與契約ヲ原因トセシニ登録稅ノ少ナカリシコトヲ望ム爲ニ賣買契約ヲ原因トスル所有權移轉登記申請ヲナスカ如キ何レモ虛偽ノ事實ノ申立ヲナシテ公文書ヲ偽造セシムルモノト謂フヘク之ヲモ前旨同様犯罪ヲ構成スルモノト云ハサルヘカラス然レトモ今日如斯行爲カ未タ刑法第一百五十七條第百五十八條ノ適格ヲ有スル犯罪行爲ナリトシテ科罰セラレタルヲ聞カス前例ノ場合及本件假登記抹消ノ場合モト謂フニアリ仍テ案スルニ刑法第一百五十七條第一項ハ公正證書ニ對スル公ノ信用ヲ保持センカ爲ニ設ケラレタル規定ニシテ同罪ノ成立ニハ右以外ニ於テ實害ヲ生シ得ヘキコトヲ其ノ要件トスルモノニ非ス原判決カ判示スルトコロハ被告人ハ八田はるゑノ養子トシテ入籍届出ヲ爲シ同人ノ死亡ニ因リ其ノ家督ヲ相續シタルモ之ヨリ前はるゑカ判示土地ニ付同人ノ甥大久保小三郎トノ間賣買契約成立シタリトシテ大久保小三郎ノ爲賣買豫約ヲ原因トスル所有權移轉登記請求權保全ノ假登記ヲ爲シタルニ同人モ亦死亡シ該登記ハ依然トシテ存在シ居リタルトコロ被告人ハ昭和九年十二月二十六日情ヲ知ラサル廣瀬直治ヲシテ擅ニ大久保小三郎ノ名義ノ權利拋棄ヲ原因トスル前記假登記抹消ノ登記申請書ヲ作成セシメ同日廣

## 【要旨】

瀬直治ヲ通シ大阪區裁判所今宮出張所ニ之ヲ提出シ以テ登記官吏ニ對シ小三郎カ未タ生存シ居リ眞ニ假登記抹消ノ申請ヲ爲ス如ク虛偽ノ申立ヲ爲シ同官吏ヲシテ登記簿原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメタル上即日同所ニ備付ケシメ行使シタリト謂フニアリテ假シ右所有權移轉登記請求權保全ノ假登記カ所論ノ如キ事情ニ因リ假裝ノ事實ニ基クモノナリトスルモ其ノ登記手續カ適法ニ爲サレタル以上登記簿上該登記ハ有效ニ存續シ適法ナル手續ニ依リ抹消セラレサル限り登記事項トシテノ公ノ信用力ニ何等消長アルコトナシ從テ判示ノ如ク被告人カ大久保小三郎ノ名義ヲ冒用シ擅ニ之ヲ抹消スルトキハ其ノ公信力ノ侵害セラレルコト勿論ナレハ假裝ナル虛偽ノ登記ナルカ故ニ何等效力ヲ認ムヘキニ非ストノ論旨竝之ヲ抹消シタルニ過キササルヲ以テ登記簿ノ公信力ヲ増大セシモノニシテ犯罪ヲ構成セストノ論旨ノ孰レモ失當ナルヤ論ヲ俟タサルトコロナリ而シテ原判決擧示ノ證據ニ依レハ判示事實殊ニ被告人ニ於テ犯意ノ存シタルコトハ優ニ之ヲ認定スルニ足リ記録ヲ調査スルモ原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存スルコトナク原判決カ被告人ノ行爲ヲ公正證書原本不實記載同行使罪ニ問擬シ判示法條ヲ適用處斷シタルハ洵ニ正當ナリ又記録ニ徴シ犯情其ノ他諸般ノ事情ヲ斟酌スルモ原判決ノ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由ナク原判決ニハ所論ノ如キ違法ナキヲ以テ論旨理由ナシ

仍テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

假裝行爲ノ登記ト不實ノ申立ニ因ル抹消

○縣會議員選舉罰則違反及衆議院議員選舉法違反被告事件

(昭和十一年(九)第三〇五四號  
同十二年三月十五日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 阿部 榮吉 辯護人 (小林龜郎  
外四名 今成留之助)

【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第二百五十五條ニ依ル時効中斷ノ效力

○判決要旨

刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因ル公訴時効中斷ハ同法第二百五十七條所定ノ期間内ニ公訴ヲ提起

セサルモ其ノ效力ヲ失フコトナシ

【參照】 刑事訴訟法第二百五十五條 檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルト

キハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

同法第二百五十七條 第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日内ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時効完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

同法第二百八十五條 時効ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無効ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時効ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人阿部榮吉ヲ罰金四百圓ニ被告人西村孝吉ヲ

刑事訴訟法第二百五十五條ニ依ル時効中斷ノ效力

罰金八十圓ニ被告人伊藤由平ヲ罰金六十圓ニ被告人長澤豊一ヲ罰金七十圓ニ被告人丸山幸吉ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人阿部榮吉ヲ百日間其ノ餘ノ被告人等ニ付テハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間夫々勞役場ニ留置ス被告人西村孝吉ヨリ金三十圓ヲ被告人伊藤由平ヨリ金二十二圓ヲ被告人長澤豊一ヨリ金二十五圓ヲ被告人丸山幸吉ヨリ金十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人阿部榮吉ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル新潟縣縣會議員選舉ニ際シ孰レモ民政黨候補トシテ中蒲原郡ヨリ立候補シタル笠原藤七、桂圭三及東蒲原郡ヨリ立候補シタル杉崎久榮ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモ立憲民政黨新潟縣支部常任幹事トシテ右各候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ニ關係シタルモノ被告人西村孝吉ハ右笠原藤七ノ爲被告人伊藤由平ハ右杉崎久榮ノ爲被告人長澤豊一ハ右桂圭三ノ爲各演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルモノ又被告人阿部榮吉ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ民政黨候補トシテ新潟縣第二區ヨリ立候補シタル小柳牧衛ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモ前記常任幹事トシテ同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ニ關係シタルモノ被告人丸山幸吉ハ同候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタルモノナルトコロ

第一 被告人阿部榮吉ハ  
(一) 被告人西村孝吉ニ對シ昭和十年九月十六日頃新潟市學校町通立憲民政黨新潟縣支部ニ於テ前記縣會議員候補者笠原藤七ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右被告人孝吉カ同候補者ノ爲ニ爲ス演說ニ依ル選舉運動ノ實費並報酬トシテ金十圓ヲ更ニ同月二十七日頃前同所ニ於テ前同様ノ選舉運動ヲ爲シタル實費並報酬トシテ金二十圓ヲ各供與シ

(二) 被告人伊藤由平ニ對シ同月十五日頃前同所ニ於テ前記縣會議員候補者杉崎久榮ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右被告人由平カ同候補者ノ爲ニ爲ス演說ニ依ル選舉運動ノ實費並報酬等トシテ金十圓ヲ更ニ同月二十五日頃前同所ニ於テ前同様ノ選舉運動ヲ爲シタル實費並報酬等トシテ金十二圓ヲ各供與シ

(三) 被告人長澤豊一ニ對シ同月十八日頃前同所ニ於テ前記縣會議員候補者桂圭三ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右被告人長澤豊一カ同候補者ノ爲ニ爲ス演說ニ依ル選舉運動ノ實費並報酬等トシテ金五圓ヲ更ニ同月二十四日頃前同様ノ選舉運動ヲ爲シタル實費並報酬等トシテ金二十圓ヲ各供與シ

(四) 被告人丸山幸吉ニ對シ昭和十一年二月六日頃前同所ニ於テ前記衆議院議員候補者小柳牧衛ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右被告人幸吉カ同候補者ノ爲ニ爲ス演說ニ依ル選舉運動ノ實費並報酬等トシテ金十圓ヲ供與シ

第二 被告人西村孝吉ハ右第一ノ(一)掲記ノ各日時場所ニ於テ夫々同記載ノ趣旨ヲ諒シテ被告人阿部榮吉ヨリ二回ニ合計金三十圓ノ供與ヲ受ケ

第三 被告人伊藤由平ハ右第一ノ(二)掲記ノ各日時場所ニ於テ夫々同記載ノ趣旨ヲ諒シテ被告人阿部榮吉ヨリ二回ニ合計金二十二圓ノ供與ヲ受ケ

第四 被告人長澤豊一ハ右第一ノ(三)掲記ノ各日時場所ニ於テ夫々同記載ノ趣旨ヲ諒シテ被告人阿部榮吉ヨリ二回ニ合計金二十五圓ノ供與ヲ受ケ

第五 被告人丸山幸吉ハ右第一ノ(四)掲記ノ日時場所ニ於テ同記載ノ趣旨ヲ諒シテ被告人阿部榮吉ヨリ金十圓ノ供與ヲ受ケ  
タルモノニシテ被告人阿部榮吉ノ判示第一ノ(一)乃至(三)及被告人西村孝吉同伊藤由平同長澤豊一ノ右所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス



尙被告人阿部榮吉辯護人伊藤龜久二及松井郡治ハ原審ニ於テ立會檢事ハ昭和十一年三月十四日爲サレタル同被告人訊問ノ強制處分ハ同人ニ對スル判示縣會議員選舉罰則違反事件ニ付公訴時效ヲ中斷セントノ目的ニ出テタル旨陳述セラレタルカ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ハ同條所定ノ如キ強制處分ノ必要アル場合ニ限り適用セラルヘキモノナルコト勿論ニシテ當時同被告人ニハ斯ル強制處分ヲ必要トスヘキ事由毫モ存セザリシニ拘ラス單ニ時效中斷ト云フカ如キ目的ヲ以テ爲サレタル右強制處分ハ明ニ手續規定ニ違反シ無効ナルヲ以テ時效中斷ノ效力ナク從テ右被告事件ニ付テハ既ニ公訴時效完成シタルモノナレハ此ノ點ニ付免訴ノ判決アルヘキモノナル旨竝同被告人辯護人八並武治ハ本件被告人等ノ間ニ行ハレタル判示各金員ノ授受ハ政黨本來ノ活動範圍ニ屬シ其ノ正當ナル業務ニ外ナラサルヲ以テ罪ト爲ラサル旨各主張スレトモ該主張ハ孰レモ之ヲ採用セス

法律ニ照スニ被告人阿部榮吉ノ所爲中判示縣會議員選舉ニ付金錢ノ供與ヲ爲シタル點ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號第三號刑法第五十五條ニ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ判示衆議院議員選舉ニ付金錢ノ供與ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ無資格選舉運動ノ點ハ同選舉法第九十六條第一項ニ各該當スル所右兩選舉ヲ通シ金錢ノ供與ヲ爲シタル點ト無資格選舉運動トハ孰レモ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ孰レモ重キ金錢ノ供與ヲ爲シタル罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中孰レモ罰金刑ヲ選擇シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルニ付同法第四十八條第二項ニ從ヒ其ノ合算額ノ範圍内ニ於テ被告人阿部榮吉ヲ罰金四百圓ニ處シ次ニ被告人西村孝吉同伊藤由平同長澤豐一ノ所爲ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ被告人丸山幸吉ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ各該當スルヲ以テ所定刑中孰レモ罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人西村孝吉ヲ罰金八十圓ニ被告人伊藤由平ヲ罰金六十圓ニ被告人長澤豐一ヲ罰金七十圓ニ

被告人丸山幸吉ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各刑法第十八條ニ依リ被告人阿部榮吉ヲ百日間其ノ餘ノ被告人等ニ付テハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間夫々勞役場ニ留置スヘク尙被告人阿部榮吉ヲ除ク其ノ餘ノ被告人等ノ收受シタル判示利益ハ孰レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各衆議院議員選舉法第一百四條後段(被告人西村孝吉同伊藤由平同長澤豐一ニ對シテハ尙府縣制第四十條)ニ則リ同被告人等ヨリ各其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

尙本件ニ於テハ昭和十一年三月十四日新潟區裁判所檢事ヨリ被疑者阿部榮吉ニ對スル訊問及勾留ノ強制處分請求アリ同裁判所判事ハ該請求ニ基キ其ノ處分ヲ爲シタルモ檢事ハ十日内ニ起訴ノ手續ヲ執ラス同月二十三日被疑者阿部榮吉ハ釋放セラレタリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人小林龜郎今成留之助上告趣意書第三點原判決ハ被告人阿部榮吉ハ昭和十年九月二十五日施行セラレタル新潟縣縣會議員選舉ニ際シ孰レモ民政黨候補トシテ中蒲原郡ヨリ立候補シタル筈原藤七 桂圭三及東蒲原郡ヨリ立候補シタル杉崎久榮ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモ立憲民政黨新潟縣支部常任幹事トシテ右各候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ニ關係シタルモノ被告人西村孝吉ハ右笠原藤七ノ爲被告人伊藤由平ハ右杉崎久榮ノ爲被告人長澤豐一ハ右桂圭三ノ各演說ニ依ル選舉運動ヲ爲

シタルモノ云々ト判示シ被告人阿部榮吉ハ被告人西村孝吉同伊藤由平同長澤豊一ニ對スル金員供與竝西村孝吉伊藤由平長澤豊一ノ金錢ノ授受ニ關スル事實ヲ認メ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第九十六條第一項等ヲ適用シテ各有罪ヲ斷シタリ然ルニ右犯罪事實ハ原判決ノ認メタルトコロニヨルモ昭和十年九月十五日ヨリ同年同月二十五日迄ノ間ニ行ハレタルモノナルヲ以テ假リニ原判決認定ノ如キ所犯事實アリトスルモ公訴提起當時ニハ公訴時効完成シタルモノナリ即檢事ハ昭和十一年四月三十日阿部榮吉ニ對シ本件公訴ヲ提起シ西村孝吉伊藤由平長澤豊一ニ對シテハ同日略式命令ノ請求アリタルモ昭和十年九月二十五日ヨリ起算シ昭和十一年四月三十日迄ニハ既ニ六箇月以上ノ期間ヲ經過セルニヨリ前記犯罪事實ニ對スル公訴權ハ時効ニヨリ消滅シタルモノト云ハサルヘカラス而シテ本件ニ於テ昭和十一年三月十四日新潟區裁判所檢事ハ強制處分ノ請求ヲ爲シ同裁判所判事山本長次ハ前記強制處分ノ請求ニ基キ被疑者トシテ阿部榮吉ヲ訊問シタリト雖檢事ハ其ノ後刑事訴訟法第二百五十五條ノ期間内ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトナカリシニヨリ其ノ當該強制處分ノ手續ハ當然效力ヲ失ヒ同月二十三日被疑者阿部榮吉ハ當然釋放セラレタルモノトス想フニ強制處分ニヨリ公訴ノ時効ハ中斷スル旨ノ規定アリト雖當該手續カ法律ニ違背セル場合ニハ當然其ノ效力ヲ失フヘキモノナルコトハ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ノ趣旨ニ照シテ明白ナルトコロニシテ斯ル不法ノ強制處分ニヨリ時効ハ中斷セラルヘ

キモノニアラス而シテ強制處分ハ刑事訴訟法第二百五十五條ニ「檢事捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ云々」ト規定スルトコロニシテ右強制處分ノ必要アリヤ否ヤハ捜査官タル檢事ノ主觀的事情ニヨリテ定マルヘキモノニアラスシテ事件自體ニ依リテ客觀的ニ之ヲ決定スヘキモノナレハ其ノ捜査上必要ナキニ拘ラス公訴時効中斷ノ爲強制處分ヲ請求スルコトヲ許ササルモノトス況ンヤ本件ノ場合被告人阿部榮吉ハ之ヲ勾留スルノ必要モナカリシモノナルニ拘ラス檢事ハ無法ニモ面接竝書面ノ授受迄モ禁止シテ不法ニ人權ヲ蹂躪シ遂ニ法ノ許シタル期間内ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトナク結局十日ノ後ニ釋放セラルルニ至リタリ然ラハ前記強制處分ハ其ノ効ヲ失フニ至リタルモノニシテ其ノ強制處分ハ手續規定ニ違背シタル無効ノモノナレハ之ニヨリテ時効中斷ノ效力ヲ生スルコトナシ(刑事訴訟法第二百五十八條第一項但書參照)況ンヤ被告人西村孝吉同伊藤由平同長澤豊一ニ對シテハ更ニ中斷ノ手續ヲ取リタル形跡ノ存スルモノナシ從ツテ前記被告人等ニ對シテハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘカリシニ漫然有罪ノ裁判ヲ爲シタルハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトスト云フニ在リテ判示犯罪カ昭和十年九月十五日以降同月二十五日迄ノ間ニ行ハレ而モ被告人阿部榮吉ニ對スル公訴及爾餘ノ被告人等ニ對スル略式命令ノ請求カ昭和十一年四月三十日ニシテ既ニ六月以上ノ期間ヲ經過セルコト洵ニ所論ノ如シト雖本件ニ於テハ其ノ以前昭和十一年三月十四日新潟區裁判所檢事ヨリ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ則リ被疑者阿部榮吉ノ訊問及勾留處分ノ請求ヲ爲シ同裁判所判事ハ該請

【要旨】

求ニ基キ其ノ處分ヲ爲シタルコト記録上極メテ明確ナリ然リ而シテ前記處分カ公訴時効中斷ノ效力ヲ有スルコトハ同法第二百八十五條第一項ノ明定スルトコロニシテ該處分請求ニ對スル必要性ノ有無ハ一ニ捜査ノ任ニ當ル檢事ノ職權裁量ニ依リ決定シ得ヘキ事項ニ屬シ(昭和十一年(れ)第一二四一號同年八月三日宣告本院判例參照)裁判所ハ請求其ノモノノ適式ナル限り不必要ナリトノ理由ノ下ニ之ヲ却下シ得ヘカラサルモノナルカ故ニ當該檢事ニ於テ被疑者阿部榮吉ニ對スル強制處分ニ依ル訊問及勾留ヲ必要ナリト思料シテ其ノ請求ヲ爲シ裁判所該處分ヲ爲シタルモノナレハ茲ニ同人ニ對スル公訴時効ハ中斷セラレタルモノト謂ハサルヲ得ス而モ右時効ノ中斷ハ同條第二項ニ依リ他ノ共犯ニ對シテモ其ノ效力ヲ生スヘク被告人阿部榮吉ト爾餘ノ各被告人トノ間ニ共犯關係ノ存在スルコトハ判示認定事實ニ徴シ明確ナルヲ以テ縱令他ノ被告人等ニ對シ特ニ中斷手續ヲ執リタル事實ナカリシトスルモ前記手續ニ依リ公訴時効ハ完成スルコト能ハサリシモノナリ而シテ同法第二百五十七條第一項ハ單ニ被疑者ニ對スル勾留狀ノ有効期間ヲ定メタル規定タルニ止マリ十日内ニ必ス公訴ヲ提起スヘキコトヲ命シ然ラサレハ該處分及法カ之ニ附與シタル時効中斷ノ效力ヲモ無効ニ歸セシムル趣旨ノ規定ニ非サルナリ所論ハ獨自ノ見解ニ立脚シ之ヲ攻撃スルニ過キスシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事正木亮關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件及當選無効附帶訴訟事件

(昭和十一年(れ)第三〇七五號 棄却)  
同十二年三月十五日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 大森善太郎 外一名  
當選無効附帶訴訟被告 尾崎 幸助 辯護人兼訴訟代理人 濱田國松 赤井幸夫

【公訴第一審】 名古屋地方裁判所岡崎支部

【公訴第二審】 附帶訴訟第一審 名古屋控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂總括主宰者ノ意義——同法第百五條第百六條第百三十五條ノ罪ト刑法第六十五條第一項ノ適用

○判決要旨

一選舉運動ノ中心勢力ヲ形成セル者ハ縱令選舉事務長力之ニ參畫

衆議院議員選舉法第三百三十六條ニ所謂總括主宰者ノ意義 同法第百五條第百六條 三四七 (一七)  
第百三十五條ノ罪ト刑法第六十五條第一項ノ適用

シタル場合アリトスルモ尙衆議院議員選舉法第三十六條ニ所謂事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ト謂フヲ妨ケス【要旨第一】  
二 刑法第六十五條第一項ノ規定ハ衆議院議員選舉法第一百五條第六條第三百三十五條ノ罪ニ付テモ其ノ適用アルモノトス【要旨第二】

【參照】 衆議院議員選舉法第三十六條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲グル罪ヲ犯

シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス選舉事務長又ハ選舉事務長ニ非スシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同シ但シ選舉事務長ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルコトヲ知ラザリシトキ若ハ其ノ者カ當選人ノ制止ニ拘ラズ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

同法第一百五條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帳簿ヲ備ヘ之ニ選舉運動ノ費用ヲ記載スヘシ

同法第六條 選舉事務長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ選舉運動ノ費用ヲ精算シ選舉ノ期日ヨリ十四日以内ニ第八十八條第五項ノ届出アリタル警察官署ヲ經テ之ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ届出ツヘシ

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動ノ費用ヲ告示スヘシ

同法第三百三十五條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三百五條ノ規定ニ違反シテ帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ニ記載ヲ爲サス若ハ之ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルトキ
  - 二 第三百六條第一項ノ届出ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ
  - 三 第三百七條第一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ保存セザルトキ
  - 四 第三百七條第一項ノ規定ニ依リ保存スヘキ帳簿又ハ書類ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルトキ
  - 五 第三百八條ノ規定ニ依ル帳簿若ハ書類ノ提出若ハ検査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケ又ハ說明ノ求ニ應セザルトキ
- 刑法第六十五條第一項 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各禁錮二月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中各三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人兩名ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シ尙被告人神田健治ヲ事實上選舉運動ノ總括主宰者ナリトシテ之ニ附帶スル當選無効附帶訴訟ニ於テ

衆議院議員選舉法第三十六條ニ所謂總括主宰者ノ意義 同法第三百五條第六條 第三百三十五條ノ罪ト刑法第六十五條第一項ノ適用 三四九 (一九)

被告尾崎幸助ノ當選ヲ無效トスル旨ノ宣告ヲ爲シタリ

昭和十年九月二十五日施行セラレタル愛知縣會議員選舉ニ付被告人善太郎ハ同月四日同縣寶飯郡ヨリ立候補シタル議員候補者尾崎幸助ノ選舉事務長ニ就任シ同月七日其ノ届出ヲ爲シ被告人健治ハ同候補者ノ選舉委員トシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人兩名ハ共謀ノ上同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ犯意ヲ繼續シ

(一) 同月十八日夜同郡蒲郡町大字蒲郡字後畑六番地ナル同候補者選舉事務所ニ於テ猪熊留觀ニ對シ同人力前記候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル報酬トシテ金三圓

(二) 同月二十日頃同事務所ニ於テ山本喜助ニ對シ同人力候補者ノ爲選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲シタル報酬トシテ金十圓

(三) 同月二十一日頃同事務所附近自動車中ニ於テ加藤徳松ニ對シ同人力候補者ノ爲選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲シタル報酬トシテ金五圓

(四) 同月二十四日同事務所ニ於テ磯谷明全ニ對シ同人力候補者ノ爲演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル報酬及其ノ實費トシテ金五十圓

(五) 同日同所ニ於テ小野久六ニ對シ同人力前同様演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル報酬及其ノ實費トシテ金三十五圓

(六) 同日同所ニ於テ近藤健吉ニ對シ同人力前同様演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル報酬及其ノ實費トシテ金二十圓ヲ各供與シ

第二 被告人兩名ハ共謀ノ上犯意ヲ繼續シ

(一) 同月十七日頃前記選舉事務所ニ於テ竹内繁三ニ勞務報酬金五圓同年十月二日頃同郡蒲郡町有限責任蒲郡信用組合事務所ニ於テ川合はつニ選舉運動ニ使用シタル貸自動車ノ所有主竝運轉手ニ支給スヘキ心付トシテ金二十圓ヲ選舉事務長ヨリ各交付支出シナカラカ之カ勅令ノ定ムル支出簿ニ記載セス且右自動車料金トシテ同月十六日金二十七圓同月十七日ヨリ同月二十四日迄毎日金十圓宛計金百七圓ヲ事實現金ヲ以テ支拂ハサルニ拘ラス選舉事務長ヨリ貸自動車中瀬安吉ニ對シ現金ヲ以テ之カ支拂ヲ爲シタルカ如ク同帳簿ニ虚偽ノ記入ヲ爲シ

(二) 同年十月五日選舉事務長タル被告人善太郎ヨリ愛知縣御油警察署ヲ經テ愛知縣知事ニ對シ選舉運動費用ノ精算届出ヲ爲スニ當リ前項支出ヲ計上セス且自動車料金ヲ現金ヲ以テ支拂ヒタルカ如ク虚偽ノ届出ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲中判示第一ノ(一)乃至(六)ノ金錢供與ノ點ハ各府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第三號刑法第六十條第五十五條ニ判示第二ノ(一)ノ法定ノ支出簿ニ費用ノ支出ヲ記載セス又之ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタル點ハ各府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第百三十五條第一號ニ同(二)ノ虚偽ノ届出ヲ爲シタル點ハ各府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第百三十五條第二號ニ夫々該當スル處被告人健治ハ右判示第二ノ所爲ニ付被告人善太郎ノ行爲ニ加功シタルモノナレハ刑法第六十五條第一項ニ則リ被告人兩名ニ對シ各同法第六十條ヲ適用シ尙判示第二ノ(一)(二)ハ連續犯ナルヲ以テ各同法第五十五條ニ依リ各一罪トシテ處斷スヘク之ト判示第一ノ金錢供與罪トハ各同法第四十五條前段ニ該ル併合罪ナルヲ以テ兩者ニ付各禁錮刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ後者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人兩名ヲ各禁錮二月ニ處シ同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中各三十日ヲ夫々右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ全部被告人兩名ノ連帶負擔タルヘキモノトス

衆議院議員選舉法第百三十六條ニ所謂總括主宰者ノ意義 同法第百五條第百六條 第百三十五條ノ罪ト刑法第六十五條第一項ノ適用

○主 文

本件公訴竝之ニ附帶スル當選無効訴訟ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人濱田國松 赤井幸夫附帶訴訟被告尾崎幸助訴訟代理人濱田國松 赤井幸夫上告趣意書第三點原公私訴判決ニ於テ上告人神田健治ハ本件選舉ニ就テ事實上選舉運動ヲ總括支配シタル者ナリト斷定シタリ然レトモ選舉運動ノ事實上ノ總括支配者トハ選舉事務長ハ唯單ニ其ノ名目ヲ有スルノミノ場合ニ於テ事實上選舉ニ關スル一切ノ實權ヲ握リ其ノ指揮統制ヲ爲シタル選舉事務長以外ノ者ヲ謂フ然ルニ記録ヲ閱スルニ本件ニ於ケル選舉事務長タル大森善太郎ハ現實本件選舉運動ヲ總括主宰シタルコト明ニシテ神田健治ハ選舉事務長指揮ノ下ニ主トシテ會計事務ヲ取扱ヒ且選舉委員大場榮治等ト共ニ選舉事務長ヲ輔佐シテ其ノ他ノ選舉運動ニ參與シタルモノナリ而シテ選舉事務長ト雖必スシモ選舉運動ヲ獨斷專行スルヲ要スルニアラスシテ選舉委員等ト相諮リ相輔ケテ事ニ當ルハ當然ニシテ從テ選舉委員ニ於テ選舉事務ノ樞機ニ參與シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ直チニ選舉事務長ニアラスシテ事實上選舉運動ヲ總括主宰シタルモノト云フヘカラサルヤ勿論ナリトス然ルニ原判決カ上告人大森善太郎カ單ニ選舉事務長ノ虛位ヲ擁シ居リタルニアラス現實其ノ實權ヲ握リタルモノナルコトヲ認メナカラ尙且神田健治カ選舉運動ニ關スル重要ナル事項ニ參畫シタル事實アリトノ理由ニヨリ所謂總括主

宰者ナリト斷シタルハ事實ノ誤認アルコト顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

所論被告人神田健治カ本件選舉ニ付事實上選舉運動ヲ總括主宰シタリトノ判示事實ハ之ニ對スル判示證據ニ依リ證明シ得ヘク記録ニ徵スルモ右事實ノ認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ尤モ該證據説明ニ依レハ同被告人カ被告人大森善太郎ト謀議決行シタルコトアル事實ヲ窺ヒ得ラレサルニ非スト雖法ニ所謂事實上ノ總括主宰者タルカ爲ニハ必スシモ全部自ラ獨斷專行シ選舉事務長ハ單ニ其ノ虛位ヲ擁シタルニ過キサレ場合ノミニ限定セラレヘキモノニ非スシテ之ニ參畫スルコトアリトスルモ判示證據説明上明白ナルカ如ク被告人健治ニ於テ事實上該運動ノ中心勢力ヲ形成セル限り尙之ヲ總括主宰者ナリト謂フヲ妨ケサルモノトス論旨理由ナシ

第五點原判決ハ上告人神田健治ヲ以テ判示第二事實ノ共犯者ナリトシテ處罰シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第五條第六條第三十五條ハ純然タル選舉事務長ニ對スル取締規定ニシテ實際其ノ取扱ヒヲ爲シタル者ノ何人タルヲ問ハス選舉事務長ノミニ其ノ責ヲ負ハシムルノ趣旨ナリト解セサルヘカラス從テ上告人神田健治ニ選舉事務長ノ右所爲ニ加功シタリトノ理由ニ依リ同人ヲ處罰シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ

【要旨第二】 特別ノ規定ナキ限り刑法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ適用セラレヘキモノニシテ府縣

衆議院議員選舉法第三十六條ニ所謂總括主宰者ノ意義 同法第五條第六條 第三百三十五條ノ罪ト刑法第六十五條第一項ノ適用

制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第五條第六條第三十五條ノ罪カ選舉事務長タル身分ニ因リテ構成セラルヘキ犯罪ナルコト論ナク而シテ判示認定事實ニ依レハ被告人神田健治ハ該身分ヲ有セサリシニ拘ラス選舉事務長タリシ被告人大森善太郎ノ判示第二ノ犯罪行爲ニ加功シタルモノナルヲ以テ刑法第六十五條第一項ノ規定ニ照シ共犯ヲ以テ處斷セラルヘキコト固ヨリ當然ナリト謂フヘク明文ヲ有セサル府縣制及衆議院議員選舉法ニ特ニ同法第三百三十五條所定ノ犯罪ノミニ關シ刑法第六十五條第一項ノ適用ヲ排除スヘキ理由毫末モ存在セサルナリ從テ原判決ノ擬律ニ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ公訴ニ付テハ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ之ニ附帶スル當選無效訴訟ニ付テハ府縣制第三十四條ノ二第四項衆議院議員選舉法第四百十一條ノ二刑事訴訟法第五百七十七條第四百四十六條ニ則リ執レモ其ノ上告ヲ棄却スヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス  
檢事正木亮關與

### ○縣會議員選舉罰則違反被告事件及當選無效附帶私訴事件

(昭和十一年(レ)第三一四六號 棄却)  
同十二年三月十五日第二刑事部判決

【上告 附帶私訴上告人】 被告人 足 鹿 覺  
【上告 人】 被告人 石 垣 益 三 辯護人 (河上丈太郎 三輪壽雄 杉浦武雄)  
【第一 審】 米子區裁判所 【第二 審】 鳥取地方裁判所

#### ○判示事項

警察官憲ノ許可ヲ得テ選舉ニ關スル文書ヲ配布シタリトノ陳辯ト法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實ノ主張

#### ○判決要旨

警察官憲力發送ヲ許可シタル力故ニ文書ノ内容カ選舉罰則ニ觸ルル虞ナシト信シテ之ヲ配布シタリトノ陳辯ハ結局法律ノ錯誤ヲ理由トスル犯意ナシトノ辯解ニシテ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實ノ主張ニ非ス

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ立テ阻却スヘキ原由タル事實ノ主張  
警察官憲ノ許可ヲ得テ選舉ニ關スル文書ヲ配布シタリトノ陳辯ト法律上犯罪ノ成  
三五五 (三五)

依り之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ  
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人覺、益三ヲ各罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人等ヲ夫々勞役場ニ留置ス被告人等ニ對シ衆議院議員選舉法第三百七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

昭和十年九月二十一日施行ノ鳥取縣會議員選舉ニ際シ被告人足鹿覺ハ同縣米子市ヨリ立候補ヲ爲シ被告人石垣益三八候補者ノ選舉事務長トシテ選舉運動ニ從事中被告人覺ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ又被告人益三八覺ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ共謀ノ上同月十日以降十三日頃迄ノ間ニ二、三回ニ互リ犯意繼續シテ縣政革新要綱トシテ米子工業學校木工科ノ新設米子市ニ縣立圖書館ヲ設置セヨ等ノ項目ヲ掲ケ當選ノ上ハ右項目ノ遂行實現ヲ期スル旨記載シタル足鹿覺縣政革新宣言書ト題スル文書(證第一號)ヲ同市選舉人原喜六等約六千名ニ宛郵送配布シ以テ米子市ニ對スル特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ同市ノ選舉人ヲ誘導シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第二號刑法第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ被告人等ヲ夫々罰金二十圓ニ處シ罰金不完納ノ場合ノ勞役場留置ニ付刑法第十八條ヲ適用シ尙所犯情狀ニ鑑ミ被告人等ニ對シ府縣制第四十條ニ依リ準用セラルル衆議院議員選舉法第三百七條第一項ノ規定ヲ適用セサルヲ相當ト認メ同府縣制法條衆議院議員選舉法第三百七條第三項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○主文

本件公私訴上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

各被告人辯護人河上丈太郎 三輪壽壯 杉浦武雄上告趣意書第二點原判決ハ其ノ證據說明ノ部ニ「判示事實中判示縣會議員選舉ニ際シ被告人覺カ米子市ヨリ立候補ヲ爲シ被告人益三カ其ノ選舉事務長トシテ選舉運動ニ從事シ居リタルコト竝被告人益三カ縣政革新要綱トシテ判示政策項目ハ當選ノ上ハ之カ實現ヲ期スル旨判示趣旨ノ記載アル足鹿覺縣政革新宣言書(證第一號)ヲ印刷ニ付シ判示期間内判示ノ如ク數回ニ互リ判示米子市内有權者約六千名ニ郵送配布シタルコトハ被告人等ノ當公廷ニ於テ自認スルトコロニシテ云々」ト説示シタリ然ルニ原審公判調書中被告人益三供述ノ部ヲ閱スルニ「問許可ヲ得タノテ發送シタ譯カ答左様テス加藤カ係ノ人カ發送シテモヨイト云ハレタカラ大丈夫タト申シマシタノテ宣言書ノ文意カ違反ニナル廉カナイト信シ安心シテ發送シタ次第アリマス」(記錄四四五丁裏)ト供述シアリテ是ニ由レハ被告人益三八選舉事務長トシテ本件宣言書ヲ發送配布シタルコトハ相違ナキモ取締官憲ノ許可ヲ得テ發送シタルモノナリト云フニ在リテ原判決ト其ノ趣旨ヲ異ニスルノミナラス該供述ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ニ屬スルモノナルヲ以テ原判決ニ於テハ被告人ノ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサル

警察官憲ノ許可ヲ得テ選舉ニ關スル文書ヲ配布シタリトノ陳辯ト法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實ノ主張



モノナリトス然ルニ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ結局被告人供述ノ趣旨ヲ變更シテ罪證ニ供シタル違法アルト共ニ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタル違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ハ被告人石垣益三ノ原審公判廷ニ於ケル供述中「判示趣旨ノ記載アル宣言書ヲ有權者ニ郵送シタリ」トノ外形事實ニ關スル供述部分ヲ採リテ其ノ旨ノ自供アリト摘録シタルモノニシテ該部分ハ之ヲ同人ノ他ノ供述部分ヨリ分割スルモ仍ホ獨立ノ内容ヲ有スルコト明カナルカ故ニ原判決カ右供述ヲ前記趣旨ニ於テ罪證ニ供シタレハトテ被告人ノ陳述ノ趣旨ヲ不當ニ分割變更シタリト云フヲ得ヌ又原審公判調書ニ依レハ被告人石垣益三ノ陳述ハ「加藤カ係リノ人カ發送シテモヨイト云ハレタカラ大丈夫ト申シタノテ宣言書ノ文意カ違反ニナル廉カナイト信シ發送シタ次第テアリマス」ト云フニ在ルカ故ニ右ハ要スルニ判示ノ如キ記事ヲ掲載セル文書ヲ選舉人ニ郵送スルモ法律上罪トナラスト信シタリト云フニ止マリ法律ノ錯誤ヲ主張シ以テ犯意ナシトノ陳辯ヲ試ミタルニ外ナラス然レトモ單ナル法律ノ誤解ニ基キ罪トナラスト信シタリトノ主張ハ結局犯意ノ否認ニ歸シ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由ノ主張ニ該當セサルヲ以テ原判決カ證據ニ據リ既ニ判示事實ヲ認定シタル以上更ニ進ンテ此ノ點ニ付説明ヲ加ヘサリシハ寧ろ當然ニシテ之ヲ捉ヘテ判斷遺脱ノ違法アリト謂フヲ得ヌ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事猪俣治六關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第三一六三號  
同十二年三月十五日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 川口 勝平 辯護人 佐藤利雄  
後藤 亨  
森長英三郎  
【第一審】 靜岡地方裁判所沼津支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項  
選舉事務ニ關係アル吏員ト其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動

○判決要旨  
選舉事務ニ關係アル吏員力其ノ關係區域外ノ場所ニ於テ他人ニ選舉運動ノ依頼ヲ爲シタル場合ト雖其ノ運動カ同吏員ノ選舉事務關

選舉事務ニ關係アル吏員ト其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動  
三五九 (三六)

係區域内ニ於テ效果ヲ生スヘキ性質ノモノナルニ於テハ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルモノニ該當ス

【参照】衆議院議員選舉法第九十九條第二項 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人川口勝平ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス右被告人ヨリ金三十圓ヲ追徴ス(他ノ相被告人ニ關スル點ハ省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ何レモ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ際シ静岡縣第二區内ニ於ケル選舉人ニシテ

(中略)

第二 被告人川口勝平ハ

(イ) 當時静岡縣田方郡伊東町松原區長トシテ選舉事務ニ關係アル吏員ニシテ議員候補者小泉策太郎ノ法定選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ昭和十一年二月五日頃同町猪戸ナル待合ホの花ニ於テ被告人山田元作ニ對シ同候補者ノ爲推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シ之カ運動ノ實費並報酬トシテ現金三十圓ヲ供與シ以テ選舉運動ヲ爲シ

(ロ) 同月七、八日頃同町松原ナル被告人自宅ニ於テ被告人中村長五郎ヨリ推薦狀等ニ依ル選舉運動ノ實費並報酬トシテ供與セララルモノナルノ情ヲ知り乍ラ金三十圓ノ供與ヲ受ケ

(中略)

タルモノニシテ被告人川口ノ金錢供與並同收受ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス  
法律ニ照スニ被告人川口ノ所爲ハ其ノ金錢供與ノ點ニ付衆議院議員選舉法第十二條第二項第一號ニ其ノ金錢收受ノ點ニ付同條第二項第一項第四號ニ選舉事務ニ關係アル吏員ナルニ拘ラス其ノ關係區域内ニ於テ選舉運動ヲ爲シタル點ニ付同法第九十九條第二項第三百一十一條ニ其ノ無資格選舉運動ノ點ニ付同法第九十六條第一項第二百二十九條ニ夫々該當スル處金錢供與並金錢收受ノ所爲ハ連續犯ニ係ルト共ニ右金錢供與ノ所爲ト前示關係區域内選舉運動ノ所爲並無資格選舉運動ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ以上ノ所爲ニ付刑法第五十四條第一項前段及同法第五十五條ヲ適用シ同法第十條ニ則リ最モ重キ金錢收受ノ罪ニ關スル刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金二百圓ニ處スヘク被告人ニ於テ其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘク同被告人ノ收受シタル判示金員ハ混同又ハ費消セラレ沒收スルコト能ハサルヲ以テ前記選舉法第一百四條後段ニ從ヒ金三十圓ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人川口勝平山田元作辯護人佐藤利雄上告趣意書第二點原判決ニハ被告川口勝平ニ對スル犯罪事實ヲ一面ニ於テハ法定ノ選舉運動者タルコト能ハサルモノナルカ如ク認定シテ其ノ爲ノ罪責ヲ問ヒ他ノ反面ニ於テハ法定ノ選舉運動者トナラスシテ運動シタル罪責ヲ問フテ居ル矛盾カアル原判決ヲ閱スル

選舉事務ニ關係アル吏員ト其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動

ニ前掲第一點指摘ノ如ク「當時伊東町松原區長トシテ選舉事務ニ關係アル吏員ニシテ且前記ノ如ク小泉候補ノ法定ノ選舉運動者ニアラサルニ拘ラス」ト云フ判示ハ選舉事務ニ關係アル吏員ニシテ法定運動者タルコト能ハサルモノナルカ故ニ當然法定ノ選舉運動者トナラナイ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノト云フ一個ノ行爲ニシテ二重ノ違法即原判決ノ法律適用ニ於ケル「前示關係區域內選舉運動ノ所爲竝無資格選舉運動ノ行爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ」トアル判示ハ被告川口勝平カ選舉事務關係區域內ニ於テ選舉運動ヲ爲スコト能ハサル選舉區域內ニ於ケル選舉運動ヲ爲シタルトキニノミ同様ノ認定ヲ爲シ得ルノテ被告川口勝平ノ無資格選舉運動カ松原區域ニ屬セサル選舉區域外テ行ハレタ場合ニハ必スジモ選舉事務關係區域ノ選舉運動禁止ト無資格選舉運動トノ關係ハ必然的ノ重複ヲ來スコトニハナラナイノテアル即前段ニ於テハ松原區長トシテ選舉事務ニ關係アル吏員カ吏員ノ資格ニ於テ選舉運動ヲ爲シタル罪責ヲ責メ後段ニ於テハ前段ノ選舉事務關係區域外ニ於ケル小泉候補ノ法定選舉運動者ト爲リ得ル有資格者ナルニ拘ラス敢テ法定ノ選舉運動者トナラスシテ選舉運動ヲ爲シタルモノノ如キ所謂無資格選舉運動事實ヲ認メタモノト解釋セラルヘキ關係ニ於テ被告川口勝平カ被告山田元作ニ金三十圓ヲ交付シタ場所カ同シ伊東町テモ松原區以外ノ猪戸ナリト認メラレテ居ル點ニ於テ原判決此ノ點ノ犯罪事實認定ハ犯罪事實ノ内容ヲ明確ニセサル矛盾ノ不法アルモノト思料スルニヨリ前點ノ論旨ト共ニ慎重ナル御判斷ヲ求メタイト云フニ在リテ

## 【要旨】

被告人川口勝平カ金員供與ヲ爲シタル場所ハ同人ノ選舉事務關係區域外ナル猪戸ナリト雖同人カ爲シタル判示選舉運動ハ同人ノ選舉事務關係區域タル松原區內ニ於テ其ノ效果ヲ齎スヘキ性質ノモノナルコトハ判文上容易ニ之ヲ推知シ得ヘキカ故ニ右ハ關係區域內ニ於ケル選舉運動ナリト謂フヲ妨ケス然レハ原判決カ判示第二(イ)ノ行爲ヲ一面衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ觸ルルト同時ニ他面同法第九十九條第二項第三百三十一條ニ該當スト做シ以テ其ノ罪責ヲ問ヒタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事猪俣治六關與

○信用毀損被告事件(昭和十一年(れ)第三二四八號  
同十二年三月十七日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 片岡 三郎 辯護人 中島 寛二

【第一審】 土浦區裁判所 【第二審】 水戸地方裁判所

○判示事項

刑法第二百三十三條ニ所謂流布

○判決要旨

多數ノ者ニ傳播セラルルモノナルコトヲ認識シナカラ人ノ信用ヲ害スヘキ虚偽ノ事實ヲ告知スルトキハ其ノ直接告知ヲ受クル者ニ三人ニ過キサル場合ト雖刑法第二百三十三條ニ所謂流布罪ヲ構成ス